

側「サンデイカ」成立シタルヲ以テ何レ來週初書面ヲ以テ
「コンファーム」スヘキモ不取敢口頭ヲ以テ右報告ニ及フ
旨ヲ述ヘタリ

滿ヘ轉電アリ度シ

三 満州国との諸案件交渉

141 昭和8年1月4日 在満州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

満州国による関内よりの阿片密輸入計画について

新 京 1月4日後発
本 省 1月4日後着

第六號

本使發天津宛電報

第一號(極秘)

客年往電第二號ニ關シ

滿洲國政府ハ阿片專賣實施ノ手始メトシテ先ツ國內及熱河
方面ニ於テ收買ヲ始メタルモ其ノ成績面白カラス其ノ入手
料ハ豫想ノ數分ノ一ニモ達セサル爲已ムヲ得ス關内附近ニ
於テ之ヲ入手シ國內ニ密輸入セント計畫スルニ至リタルモ
ノニシテ其ノ成否如何ハ專賣制度ノ生命ニ係ハル關係上軍
ニ於テモ之ヲ援助スルコトナリタル次第ナル趣ナリ
本件ハ事件ノ性質ニ鑑ミ絶體極秘トシテ取扱ハレ度シ

大臣、支、北平へ轉電セリ

142 昭和8年1月7日 在中国有吉公使より
内田外務大臣宛(電報)

満州国は公正なる方法により阿片を入手すべ

き旨意見具申

上 海 1月7日後発
本 省 1月7日後着

第一六號(極秘)

武藤大使發天津宛電報第一號ニ關シ

滿洲國カ天津方面ヨリ阿片ヲ密輸入セントスルニ至リタル
事情ハ專賣制度其ノモノノ維持ノ爲ニハ一應已ムヲ得サル
儀ナル可キカ本問題ニ付テハ更ニ大局ヨリ之ヲ考量スル必
要有リト思考セラル蓋シ滿洲國ノ阿片專賣ハ速ニ禁煙ヲ實
行セントスル人道的目的ニ基ク次第ナルヲ以テ所要阿片ノ
取得ハ收買其ノ他公正ナル方法ニ依ルコト然ル可シ密輸入

ニ依ルカ如キハ專賣制度ノ目的ヲ誤解セシメ健全ナル發達ヲ遂ケツツアル滿洲國ノ國民精神ニ多大ノ惡影響ヲ及ホス可キハ勿論天津方面ニ於ケル右ノ如キ計劃及軍ニ於テ之ヲ援助シツツアルノ事實ニシテ一度世間ニ漏洩センカ支那側ニ於テハ日本軍カ山海關ヲ占領シ進ンテ熱河ヲ攻略セントスルハ滿洲國ノ阿片取得ヲ容易ニシ之ニ依リ其ノ財政上ノ需要ヲ充タサシメントノ目的ニ出ツルモノナリトノ惡宣傳ヲ爲ス可キハ豫想ニ難カラス事茲ニ至レハ國際間ニ於ケル阿片問題ノ機微ナル關係ニ觀テ此等誤解ヲ解クコト殆ト不可能ナル可ク滿洲國ハ勿論帝國ノ威信上誠ニ寒心スヘキ儀ト存セラル而シテ右ノ如キ機微ナル仕事ハ假令日本人ヲシテ擔當セシムルモ之カ漏洩ヲ防クコト過去ノ事例ニ徴シ殆ト不可能ナル可ク旁阿片ノ取得ニ付テハ關東廳邊ト聯絡ヲ採リ公正ナル方法ヲ採用スル様指導セラルルコト然ル可シト思考ス右ハ既ニ御心付ノコトトハ存スルモ爲念單見申進ス滿、北平、天津へ轉電セリ

143 昭和8年1月9日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛

一、關東長官
二、營口及安東各領事

(別紙)

外通公函第二九號

大同元年十二年二十八日

外交部總長 謝介石

在滿洲國

日本特命全權大使 武藤 信義殿

以書翰啓上致候陳者當國ニ於テハ近ク旅券査證規則ヲ公布實行ノ筈ニ御座候然ル處大連、營口、安東經由人國外人ニ付テハ實行上ノ困難アリ而カモ旅行外人中附屬地内ノミニ止ラス内地へ出入リ居ルモノ少ナカラサル處從來ハ單ニ寬城子ニ於テ北行者ノ取締リヲ爲シ居ルニ過キササル有様ニ有之當方トシテモ又旅行者ニトリテモ其間種々ノ不便相伴ヒ居ル現狀ナルニ鑑ミ若シ當國ヨリ右國境各地へ査證官ヲ派出シ便宜査證ノ實行ヲ爲シ得ハ至極好都合ニ被存候ニ付テハ事情御諒察ノ上國境査證方御承認被下御高配相蒙度此段得貴意申候

敬具

滿洲国査証官の大連・安東・營口への派遣承認方同国外交部要請について
(1月16日接受)

昭和八年一月九日

在滿洲國

特命全權大使 武藤 信義(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

滿洲國査證官ヲ大連並營口及安東鐵道附屬地ニ派出ノ件今般滿洲國外交部ヨリ別紙寫ノ通り同國政府ニ於テハ近ク旅券査證規則ヲ公布ノ筈ナルモ大連、安東又ハ營口方面ヨリノ入國外人ニ付テハ滿鐵附屬地行政權トノ關係上査證實施不能ナル現狀ニ鑑ミ同國ヨリ右國境各地へ査證官ヲ派出承認方申出アリタル處右ハ赤系蘇聯人其ノ他滿洲國ニ取リ好マシカラサル外人取締上是非トモ必要ナル儀ニ付日滿兩國關係ノ現狀ニモ鑑ミ又大連及安東ニ於テハ現ニ稅關事務ノ執行ハ之ヲ認メ居ル次第第二モアリ右滿洲國査證官派出ヲ承認スルコト可然ト存セラルル處本省ノ御意見何分ノ儀至急御回訓相成度
本信寫送付先

144 昭和8年1月13日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲国の滿鉄に対する付属地内での出產稅徵收委託問題に関する同社意向について

新 京 1月13日後発
本 省 1月13日後着

第三一號

貴電第二六號ニ關シ

一、出產稅代徵ニ付テハ滿鐵々道部現業方面ニ於テハ徵稅事務全部ヲ委託セラルル建前ナラハ技術的ニ可能ナル見込ノ由ニシテ滿鐵トシテハ附屬地行政權ノ關係モ有リ政府ニ於テハ右代徵方は認セラレタル上正式ニ意嚮ヲ決スル手筈トナリ居レリ
二、運賃引下ニ付テハ交渉次第ニ依リ尙相當ノ引下可能ナル可キ見込ナリ

145 昭和8年1月13日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿鉄による出產稅代理徵收承認方滿洲国要請

新 京 1月13日後発
本 省 1月13日後着

第三二號

滿洲國政府ニ於テハ本年度諸稅收入中特產品ニ對スル出產稅ヲ六百二十萬元ト見積リ主要財源ノ一トシテ重要視シ居ル處水災、匪賊等ノ障害モ有リ其ノ成績面白カラサル上特ニ滿鐵沿線附屬地ニ於テハ同國徵稅權ノ及ハサル關係上脫稅ヲ企ツル者頗ル多ク取締上ノ困難ハ勿論稅收ノ確保、賦課ノ統一モ期シ得ラレサル實情ニ在ル趣ニテ今般之カ對策トシテ此ノ際滿鐵各驛出廻リノ特產品ニ對シ滿鐵ニ於テ本件出產稅代徵方承認アリ度キ旨申越セリ然ル處右ニ對スル滿鐵側ノ意嚮ハ往電第三二號(一)ノ通ナルカ本件ハ滿洲國關稅率引下方說得ノ有力ナル材料ノ一ニモ有リ之カ實施ノ方法ニ於テ附屬地行政權ノ正面抵觸ヲ避クル様措置スル事トセハ強テ之カ承認ヲ拒否ス可キニモ非スト認メラル何分ノ儀御回電アリ度シ

本機密第三四號

(1月26日接受)

昭和八年一月十七日

在齊々哈爾

領事 内田 五郎(印)

在東京

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

在滿武藤全權大使宛 一月十七日附 公領機密第七號

左記件名公信寫送付ス

件名 馬占山發行ノ偽紙幣處分問題ニ關スル件

公領機密第七號

昭和八年一月十八日

在齊々哈爾

領事 内田 五郎

在滿洲國

特命全權大使 武藤 信義殿

馬占山發行ノ偽紙幣處分問題ニ關スル件

馬占山カ客年四月黑河ニ脱出後同地ニ於テ發行セル一角、一元、五元、十元等ノ偽紙幣總計約百六十萬元ハ今猶同地

146 昭和8年1月16日 在天津桑島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

關内における滿洲国係員の阿片直接買付けの中止について

天 津 1月16日前発
本 省 1月16日後着

第四三號(極秘)

往電第三六號ニ關シ

滿洲國阿片專賣公署員ハ今日迄京津兩地ニ於テ阿片約一千五百貫ヲ買入レタルモ之カ輸送困難ノ爲暫ク當地駐屯軍ニ貯藏所ノ監視方ヲ依頼シ今後ノ買入ヲ中止セリ尙將來ハ當地ニ阿片買入指定人(支那人)ヲ設ケ營口地方ニ密輸出セシメ同地ニ於テ受渡シヲ行フコトトシ專賣公署ノ直接買入ハ中止スルコトトナリタル由

支、滿へ轉電セリ

147 昭和8年1月17日 在チチハル内田(五郎)領事より
内田外務大臣宛

馬占山發行の偽紙幣處分問題について

一帯ニ於テ其ノ儘流通シ居ル處既報ノ通り徐景德ノ歸順ニ依リ同地一帯ハ近ク新國家ノ勢力圈内ニ入ルコトナレルカ今後此ノ多額ナル偽紙幣ヲ如何ニ處分スヘキヤハ重大問題ニシテ省當局ハ勿論中央政府ニ於テモ相當困惑シ居ル趣ニシテ全然之カ流通ヲ禁止スルニ於テハ疲弊セル人民ヲ一層窮地ニ陥ラシムル結果トナルヘク去リトテ之カ流通ヲ認メルニ於テハ偽紙幣ノ市價ヲ吊上ケ之カ回收容易ナラサルニ立チ至ラシムヘク依テ省當局ハ之ヲ正式紙幣トシテ認メス又流通ヲ禁止モセス當分其ノ儘成行ニ任シ置キ市價ノ暴落ヲ俟テ一氣ニ之ヲ回收スル所存ナルカ如シ

右何等御參考迄報告ス

本信寫送付先 外務大臣、新京、奉天、哈爾賓各總領事

148 昭和8年1月21日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲国阿片專賣制度實施に伴う朝鮮人当業者の処遇問題について

別 電 一月二十一日発在滿洲国武藤大使より内田外

務大臣宛第五一号

右処遇問題に關連して公布を予定する外務省
令案

新 京 1月21日後発
本 省 1月21日後着

第五〇號

滿洲國政府ニ於テハ今般阿片專賣制度實施ニ當リ歸化朝鮮人ヲ阿片卸賣人又ハ小賣人ニ指定スルコトナリタル次第ハ累次各地領事ヨリノ報告ニ依リ御承知ノ通ナル處我方ハ朝鮮人ノ歸化ハ之ヲ認メサルニ付當然之等鮮人ニ對シテモ法權ヲ行使スル結果刑法及昭和二年外務省令第八號ニ依リ取締ラサル可カラサル處斯克テハ多數朝鮮人ノ生計ヲ奪フ事トナリ又從來鮮人ノ阿片密賣等ニ關シ相當手加減シ來リタル次第第二モアリ旁本件指定ヲ默過スル(但他ノ關係モアルニ付鮮人ノ歸化ヲ認ムルカ如キ結果トナラサル様各地領事ニ於テ注意ヲ要ス)ト共ニ出來得ル限り多數朝鮮人カ利益ニ均霑シ得ル様組合ヲ組織(スル)様内部ヨリ指導スルコト適當ナリ

然ルニ右組合參加ニ洩レタル從來ノ不正業者ヲ急ニ嚴重ニ

(別 電)

新 京 1月21日後発
本 省 1月21日後着

第五一號

滿洲ニ於ケル阿片及麻醉劑取締令

第一條、昭和三年外務省令第八號支那ニ於ケル阿片及麻醉劑取締令ニ定ムル規定ハ滿洲國阿片法其ノ他附屬法令ノ規定ニ從ヒ同國政府ニ依リ阿片收買人藥用阿片賣捌人阿片卸賣人又ハ阿片小賣人等阿片取扱人ニ指定セラレ又ハ罂粟栽培ノ許可ヲ受ケタル帝國臣民ニシテ帝國領事官ニ依リ認メラレタルモノニ之ヲ適用セス

第二條、本令ハ昭和八年 月 日ヨリ之ヲ施行ス

昭和八年1月26日 林(壽夫)關東庁警務局長より
有田(八郎)外務次官宛

日滿通商條約に關する奉天商業會議所要望事
項について

關機高第八五一號

昭和八年一月二十六日

(接受日不明)

取締ル時ハ同シク朝鮮人ニ一方ニ公然ト阿片取引ヲ爲ス者ト他方ニ法令違反トシテ檢舉セラルル者ト出ツルコトナリニ付之等朝鮮人ヲ出來得ル限り他ノ職業ニ轉向セシムル様各地領事ニ於テ然ル可ク善處スルト共ニ一般密賣等ニ付テハ右轉職ニ對應シ漸次之カ取締ヲ嚴重ニスルコト適當ナリト思考ス

然ルニ右ハ暫定の措置トシテハ當方面ノ實情ニ照シ已ムヲ得サルモノナルモ恒久的の制度トシテハ法令違反ヲ公然ト認ムルコトナリ甚タ面白カラサルニ付出來得ル限り速ニ別電第五一號ノ如キ外務省令ヲ公布スルコト致度、尙右省令ヲ公布スルニ於テハ刑法第三十五條ノ規定ニ依リ刑法第十四條トノ牴觸問題モ解決ス可シ

本件ハ各地トモ早速處理スル要アルニ付本省ノ御意見何分ノ儀至急御回示相成度シ

本件軍側ト協議濟

本電別電ト共ニ奉天、吉林、間島、安東、哈爾賓、齊々哈爾、新京、滿洲里、遼陽、鐵嶺、牛莊、錦州へ轉電セリ

關東廳警務局長

外務次官殿

日滿通商促進策ニ關スル奉天商議ノ私案

日滿通商促進策ニ關シ在奉天中野總領事代理ヨリ目下各方面ニ對シ意見蒐集集中ノ模様ナルカ右照會ニ對スル奉天商議ノ回答ハ左記ノ如クナルカ本同答事項ハ後日日滿通商航海條約締結ノ際參考トナルヘキ資料ニ付キ奉天商議ニ於テハ慎重審議セルモノナリト

記

一、日滿通商航海條約ニ明記ヲ要スル事項

(1)滿鐵附屬地ニ於ケル生產品ノ課税

右ハ既ニ現在附屬地ニ於ケル生產品ニシテ附屬地外ニ搬出サルルモノニ對シテハ滿洲國ニ於テ所定ノ生産税ヲ徴收シ居レリ將來更ニ種々ナル工業カ附屬地ニ於テ勃興ノ曉或ハ煙酒税或ハ統税ノ如キ滿洲國側ノ税金ヲ課セラルルニ至ル事必至ノ趨向ト認メ得ラルルニヨリ其徵税ニ對シ通商條約中ニ一定ノ規準ヲ示シ次ニ掲クル處ノ護照制度ノ廢止ヲナスヘキモノト思料ス

(2) 護照制度ヲ廢スルコト

右ハ現在滿洲國ノ徵稅方針トシテ輸入品ノ如キモ附屬地ヲ經由シ例ヘハ奉天城内ニ搬入スル際稅關發行ノ放行單ヲ示スニアラサレハ之カ搬入ヲ許サス(密輸防止ノ爲ナリ)更ニ搬入ニ係ル輸入品ニシテ放行單ヲ有セサルモノニ對シテハ新ニ生産稅ヲ徵スルニアラサレハ護照ノ發給ヲ行ハサル爲放行單ヲ失ヒタルモノハ輸入品タルニ拘ハラサムナク生産稅ヲ更ニ仕拂ヒ護照ノ發給ヲ受ケツツアルハ不利不便ナリ

又(1)ニ掲ケシ附屬地内ニ於ケル生産品ノ如キモ生産稅ヲ納付スルニアラサレハ附屬地外ニテ之カ販賣ヲ許ササルノミナラス第一附屬地外搬入ニ際シ稅捐分局ニ於テ其搬入ヲ阻止スルノ狀態ナリ從テ更ニ之ヲ他地ニ移動サス如キハ護照ヲ有セサル以上絕對ニ不可能ナリ元來護照ナルモノハ恰モ輸入品ニ於ケル放行單ト同様一種ノ免稅證ト見ラレルモ護照並放行單ノ如キ紙片ヲ商品ニ添付スルニアラサレハ商品ノ移動ニ支障ヲ生スル現行制度ハ決シテ通商ノ發達ヲ期スル所以ノ途ニアラサルナリ萬一護照ノ如キ又放行單ノ如キ現實ニ生産

稅ナリ輸入稅ヲ支拂ヒタルモノモ之ヲ失ヒタル際ハ再度生産稅ヲ支拂フニアラサレハ護照ヲ發給セサル狀態ニシテ殊ニ輸入品ノ場合ニ放行單ヲ有セサルコトヲ理由ニ内地稅タル生産稅ヲ賦課スル如キハ不合理ノ最モ甚シキモノト稱スヘシ依テ附屬地内ノ生産品ニ對シテハ我國ニ於テモ滿洲國側ト同様ノ生産稅其他ノ課稅ヲ行ヒ附屬地外ニ於ケル生産品ト課稅ノ均衡ヲ得ルコトニシ其生産品ニ對シ滿洲國側ノ内地稅ヲ免除サルルコトニナスト共ニ他地ニ商品ノ移動スル際ニ於ケル護照ノ廢止ヲ行フ事ニセラレム事ヲ望ム又輸入品ニ對シテモ現行ノ放行單制度ヲ廢シ極力我國トシテモ滿洲國稅關ノ密輸入取締ニ援助ヲ與ヘ放行單ヲ有セサルコトニ依リ附屬地以外ニ商品ノ輸入ヲ阻止サルル如キ或ハ之ヲ有セサルコトニヨリ更ニ内地稅タル生産稅ヲ仕拂ヒ以テ護照ノ發給ヲ受クル如キ不合理ナル現行制度ヲ

正セラレタシ

(3) 滿鮮國境關稅三分一減ヲ實施スルコト

滿鮮國境通過鐵道貨物ノ關稅輕減ハ大正二年六月二日ヨリ實施セラレ日滿通商貿易ニ裨益スル處極メテ甚大

ナリシニ大正十一年ノ華府會議ノ結果支那ノ關稅ニ關スル條約締結ノ結果遂ニ昭和五年九月十六日ヲ以テ之カ廢止ヲ見ルニ至レリ而シテ其廢止ヲ見ルニ至リシ前後幾同トナク滿洲商工會議所聯合會ノ決議ヲ以テ存續方建議スル處アリタルモ遂ニ其效ヲ奏スルニ至ラザリシモノナリ然ルニ今日ノ滿洲國關稅ハ支那ノ關稅ト何等ノ關係ヲ有セス日滿貿易促進ノ一方策トシテ滿鮮國境關稅輸出入品三分一ノ減稅ヲ行フモ何等列國ト關係ヲ有セサルモノト認メルニヨリ之カ減稅ヲ通商條約中ニ明記セラレム事ヲ望ム

右減稅實施ノ曉ニ於ケル效果トシテハ當ニ日滿貿易ノ促進發達ヲ期スルノミナラス密輸出入ヲ自然的ニ防止シ得ラルヘシ

(4) 關稅互惠協約締結並其他ノ通商上ノ諸協約ハ

其ノ締結ニ優先權ヲ取得シ置クコト

日滿兩國ハ他ノ何レノ國家ニ比スルモ經濟上ノ利害眞ニ緊密ナルヲ以テ通商條約締結ニ方リテハ日滿互惠關稅協約ノ如キ兩國ノ産業經濟ノ興隆盛衰ノ上ニ極メテ重大ナル關係ヲ有スル事項ハ其ノ必要ニ應シテ他國ニ

優先權ヲ締結シ得ル條約中ニ明記スルノ要アリ其他通商上ノ諸條約諸協約ノ如キハ其ノ締結ニ優先權ヲ取得シ置クノ必要アリト思料ス

(5) 商工業所有權相互保護ニ付條約中ニ明記スルコト

發明特許意匠又ハ商標ノ登錄出願ハ各本國ニ於ケル出願ノ日附ヨリ起算シ相當優先權ノ期間ヲ設ケ該期間滿了前ニ於テ其ノ發明ノ公ニセラレ又ハ實施セラレタルコト、意匠品ノ發賣セラレタルコト、商標ノ使用セラレタルコトニヨリテ無効トナサルコトヲ條約中ニ明記セラレタシ

(6) 滿洲國ニ於ケル日滿兩國ノ金融機關ハ相互ニ

利用シ得ラルル取極メヲ行ヒ置クコト

從來支那人ハ我國ノ滿洲ニ於ケル金融機關ハ自由ニ利用シ居リタルモ在滿邦人ハ殆ント支那側ノ金融機關ヲ利用シ得ラレス其ノ結果通商上多大ノ不利不便ヲ生シタルヲ以テ將來ノ爲ニ斯ル不合理ノ生セサル條約中ニ在滿洲ノ兩國金融機關ハ相互ニ何等ノ差別的待遇ヲ行フコトナク安全ニ利用シ得ラルルコトヲ明記シ置カレムコトヲ望ム

以上ノ外通商貿易ニ必要ナル内河航行權取得ノ如キ是非條約中ニ明記ノ要アリ

150 昭和8年1月30日 内田外務大臣より
在滿州国武藤大使宛(電報)

出產税滿鉄代徵問題に関する疑問点について

付記 作成日、作成局課不明

「滿鉄ニ依ル出產税代徵問題」

本省 1月30日発

第六三号

出產税ノ滿鉄代徵方ニ関シテハ左記事項承知致度ニ付何分ノ儀御同電アリ度シ

(イ)、代徵問題ハ前記引下品目ノ撰定ニ関シ本邦側ノ協議纏リタル後滿洲国ヘ回答スルコト交渉上好都合ナルヤニ思考スル処此際本問題ノミ單独処理シ差支無キ御見込ナリヤ
(ロ)、本税ノ代徵ヲ認メタルカ爲メ將來滿洲国側ヨリ本税ニ類スル税金(例ヘハ銷場税)ノ代徵ヲモ申出ツルノ端ヲ開クコト、ナル惧ナキカ

(ハ)、出產税ハ從來我方ニ於テ銷場税全様釐金ナリトテ旧奉

招クコトアルヘシ

三、依テ本問題ハ(イ)附屬地行政權ニ対スル制限(ロ)滿鉄側徵稅事務参与等ノ根本問題ニ触ル、コトヲ予想スルヲ要スヘシ
四、故ニ出產税代徵ノ承認ニ際シテハ少クトモ一応右根本問題ニ関スル方針ヲ決定シ置クヲ要スルハ勿論ナルモ寧ロ先ツ右二根本ノ問題ヲ決定シ全体的方針樹立ノ自然ノ結果トシテ之ヲ行フヲ順当トスヘシ、即チ實際的ニハ前記三ノ(イ)ニ対シテハ日滿相互協調ノ立場アリ強イテ従前ノ如キ附屬地ノ排他的行政權ノ強調ヲ要セサルヤノ問題及ヒ滿洲国ニ於ケル全般的稅制改革(關稅賦課ノ統一ニ伴フ稅收確保ノ爲メニハ滿鉄側徵稅事務ヲ必要トスルヤ等ノ根本的全体的問題ヲ先ツ解決シ、出產税代徵ハ右全体的問題ニ包含關聯セシメテ方針決定スルヲ妥当トスヘク現在出產税ノミヲ切離シ、慢然之カ代徵ニ承認ヲ与フルハ未タ時機尙早ノ感アルヘシ

151 昭和8年1月30日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国・滿鉄間に鐵道委託經營に関する契約

天政權時代之カ廢止ヲ要求シ、奉天側ニ於テモ之カ廢止ヲ計画シタル行掛モアル処本稅代徵ノ場合滿鉄ハ附屬地行政權トノ抵觸乃至本邦人關係ノ紛議ヲ避クル爲如何ナル具体的実行方策ヲ有スルヤ

(ニ)、代徵スヘキ出產税ノ稅率

(付記)

滿鉄ニ依ル出產税代徵問題

一、滿鉄ヲシテ滿洲国租稅ヲ代徵セシムルコトハソノ形式ハ如何ナルモノニセヨ、附屬地内ニ滿洲国徵稅機關ノ設置並ニ徵稅事務施行ノ結果ヲ來シ、從來ノ排他的行政權ニ関スル我方主張ニ扞格アルヘキコト

二、仮令若シ出產税ニ関シ行政權トノ正面矛盾ヲ避ケ得ルノ一応ノ便宜方法ヲ得ラル、トスルモ、更ニ他種通過稅ニ関スル代徵方或ハ少クトモ徵收ニ対スル協力方ニ付キ滿洲国側ヨリノ要求アルコト想像シ得ヘク、右要求ニ対シテモ、稅收ノ確保、賦課ノ統一等ヲ理由トシテ出產税代徵ニ応セル以上之ヲ拒否スルコト又困難ナルヘク、遂ニハ滿鉄ハ滿洲国徵稅機關ノ重要部分トナリ、或ハ誤解ヲ

締結の見込みについて

付記 昭和七年十二月二十四日付、作成局課不明

「滿洲國鐵道水運ノ借款、建造及經營委託ニ

關スル諸契約ノ對外取扱振ノ件」

新京 1月30日後発

本省 1月30日後着

第八一號(極秘)

栗原ヨリ

鐵道委託經營ニ關スル滿洲國滿鉄間契約締結方ニ關シテハ軍ニ於テ最慎重ノ考慮ヲ拂ヒ明三十一日ヨリ二月五日ニ亘リ執政國務總理各部總長其他必要ノ向ニ對シ軍主務者及關係日系官吏ニ於テ夫々分擔ヲ定メ簡別的ニ説得ヲ試ミ下準備完了ノ上六日ノ閣議ニ上程引續キ調印ノ見込ナル趣ニ付爲念尙本件ニ關スル對外取扱ヒ振リニ付テハ囊ニ後宮大佐ヲ通シ非公式ニ本省御作成ノ案一部接受シタル處同大佐ノ説明ニ依レハ右ハ未タ確定的ノモノニアラサルヤノ趣ニモアリ本件契約調印濟ミノ場合對外説明方ニ付テハ往電(脱)心得可然ヤ何分ノ儀御同電ヲ請フ

(付記)

滿洲國鐵道水運ノ借款、建造及經營委託ニ關スル
諸契約ノ對外取扱振ノ件

一、今次滿洲國政府ト滿鐵トノ間ニ締結セラルヘキ契約ハ
(甲)滿洲國鐵道借款及委託經營契約、敦化圖們江線外二鐵
道建造借款及委託經營契約、竝ニ天圖輕鐵買收資金貸
金契約ト

(乙)右諸契約並今後滿洲國ノ鐵道、港灣、水路等ニ關シ滿
洲國政府ト滿鐵トノ間ニ締結セラルヘキ契約ノ經營、
擔保、計算合同ニ關スル契約トノ二種類アル處

右ノ内(甲)ノ諸契約成立ノ事實ハ之ヲ飽迄秘密ニ附スルコ
ト困難ニシテ事業ノ實際ニ當ル滿鐵ノ立場ヲモ考慮スル
ノ要アルノミナラス進シテ某程度迄之ヲ公表スルハ第三
國ノ疑惑ヲ生セシメサル爲却テ有利ナルヘキニ反シ(乙)ノ
契約ハ之ヲ極秘扱ニスルモ前者ノ如キ不便ナキノミナラ
ス諸般ノ關係上之ヲ秘密ニ附シ置クヲ得策トス從テ今次
ノ諸契約ノ取扱振トシテハ

(イ)前記(甲)ノ諸契約ノ本文ハ日滿双方ニ於テ公表スルコト
ハ爲ササルモ適當ノ時期ニ別紙第一號ヲ發表シ又外國

洲國諸鐵道ニ關シ滿洲國ノ滿鐵ニ對シ有スル巨額ノ債務
ヲ處理スル上ニ双方ノ爲便トスル所ナリ之即今次契約ノ
滿洲國鐵道ノ經營ヲ滿鐵ニ委託セル所以ナリ又右ハ日滿
議定書第二項所定ノ日滿兩國共同シテ國家ヲ防衛スル趣
旨ニモ合致スルモノナリ

二、今次契約ノ要旨大要左ノ通

滿洲國政府ハ吉長、吉敦、吉海、四洮、洮昂、洮索、齊
克、呼海(松花江水運事業ノ一部ヲ含ム)瀋海、奉山(打通
線及附屬港灣ヲ含ム)ノ既成諸鐵道ニ關シ滿鐵ニ對シ負
擔スル債務合計約一億三千万金圓ヲ借款總額トシ此等諸
鐵道ニ屬スル一切ノ財産及收入ヲ以テ本借款ノ擔保トシ
此等諸鐵道ノ經營ヲ滿鐵ニ委託ス

滿洲國政府ト滿鐵以外ノ第三者トノ間ニ存スル鐵道ノ債
權債務ニ關シテハ政府ト滿鐵間ニ於テ協議ノ上滿鐵ニ於
テ之ヲ處理シ其ノ支拂ヒヲ要スルモノ及奉山線ノ中英公
司ニ對スル借款ノ償還資金ハ鐵道ノ委託經營ニ依ル收入
金ヨリ支出ス又奉山線ノ内中英公司借款ニ關係アルモノ
ハ同借款問題解決スル迄本借款ノ擔保ヨリ除外ス

滿洲國政府ハ別ニ滿鐵ニ敦化圖們江鐵道、拉法哈爾賓鐵

側ヨリ此等契約ノ内容ニ付更ニ質問等アル場合ニハ必要
ニ應シ別紙第二號ノ程度迄説明スルモ差支ナキコトトシ
(ロ)(乙)ノ合併經營、計算、擔保ニ關スル契約ハ絕對極秘扱
トスルコト可然

前記別紙第一號公表ノ方法ハ別紙第三號ノ通
尙本件ニ關聯シ外國側ニ於テ門戶開放機會均等ノ問題、中
英公司及四國借款團トノ關係就中洮昂線ニ關スル從來ノ經
緯ヲ問題トスル場合ニハ別紙第四號ノ趣旨ニ依リ應酬スル
コト可然

(別紙第一號)

一、滿洲國ノ治安ヲ確保シ其ノ産業ヲ發達セシムル爲ニハ國
内交通就中鐵道ノ整備發達ニ待タサルヘカラス然ルニ現
時國內ニハ未タ鐵道網十分普及シアラサルノミナラス小
鐵道分立シ其ノ經營箇々ニ行ハレ不利大ナル實情ニアリ
故ニ之等現在ノ諸鐵道ヲ統一シ合理的經營ヲナシ其ノ經
濟的並技術的能率ヲ擧ゲサルヘカラス而シテ本目的達成
ノ爲ニハ多年滿洲ニ於テ鐵道經營ニ習熟セル滿鐵ヲシテ
之ヲ統一經營ニ當ラシムルヲ最モ適當トス、加之右ハ滿

道、泰東海倫鐵道ノ建造ヲ請負ハシメタリ

右建造費ハ合計約一億金圓トス

尙前記敦化圖們江鐵道建造ニ關聯シ滿洲國ニ於テ天圖輕
鐵ヲ買收スルノ要アルニ付滿洲國ハ之ヲ資金トシテ約六
百萬金圓ヲ滿鐵ヨリ借入レ同輕鐵ノ經營ヲ滿鐵ニ委託ス
ルコトトセリ

(別紙第二號)

今次諸契約ノ要旨大要左ノ通

(イ)滿洲國鐵道借款及委託經營契約

滿洲國政府ハ吉長、吉敦、吉海、四洮、洮昂、洮索、齊
克、呼海、瀋海、奉山(打通線及附屬港灣ヲ含ム)ノ既成
諸鐵道ニ關シ滿鐵ニ對シ負擔スル債務合計一億三千二百
八十四萬四千三百三十二圓(内譯別表ノ通)ヲ確認シ右金
額ヲ以テ其ノ借款總額トス。

此等諸鐵道ニ屬スル一切ノ財産及收入ヲ以テ前記ノ借款
ノ擔保トシ此等諸鐵道ノ經營ヲ滿鐵ニ委託ス但奉山線ノ
内中英公司借款ニ關係アルモノハ同借款問題解決スル迄
本借款ノ擔保ヨリ除外スルト共ニ右借款ノ償還資金ハ當

分ノ内此等諸鐵道ノ委託經營ニ依ル收入金ヨリ支出ス
尙前記諸鐵道ノ内呼海鐵道ノ委託經營ニ關シテハ松花江
及之ト關聯スル水路ニ於ケル水運事業モ同様ニ措置スル
コトトシ右ニ關スル細目取極ヲ設ケタリ

(ロ) 敦化圖們江線外二鐵道建設借款及委託經營契約
滿鐵ハ敦化圖們江鐵道、拉法哈爾賓鐵道、泰東海倫鐵道
ノ建造ヲ請負フ

右建造費ハ敦化圖們江鐵道三九、五四〇、〇〇〇金圓、
拉法哈爾賓鐵道三五、八一〇、〇〇〇金圓、泰東海倫鐵
道二五、三一〇、〇〇〇金圓トシ、建造完成シ受渡ヲ完
了シタルトキハ建造費元利金ヲ以テ借款トシ右三鐵道ニ
屬スル一切ノ財産收入ヲ其ノ擔保トスルト同時ニ其ノ經
營ヲ滿鐵ニ委託ス

尙前記敦化圖們江鐵道建造ニ關聯シ滿洲國ニ於テ天圖輕
鐵ヲ買收スルノ要アルニ付滿鐵ハ之カ資金トシテ金六百
三十五萬圓ヲ滿洲國ニ貸付ケ滿洲國ハ同輕鐵ニ屬スル財
産收入ヲ其ノ擔保ニ供スルト同時ニ同輕鐵ノ經營ヲ滿鐵
ニ委託スルコトトシ將來天圖輕鐵ノ改築完成シ受渡ヲ了ス
ルニ於テハ右資金ヲ前記敦化圖們江線外二鐵道建造借款

諸契約公表ノ方法

一、公表機關及場所

新 京 滿洲國交通部

大 連 滿鐵本社

東 京 滿洲國代表

同 滿鐵東京支社

二、公表スヘキ内容

別紙第一號ノ通(滿鐵側ヨリ發表スル場合ハ字句ヲ修正
スルコト)

三、公表ノ時期

契約調印後成ルヘク速ニ公表スルヲ主義トスルモ四圍ノ
狀態特ニ聯盟會議ノ動向ヲ考察シテ關係各省間ニ於テ協
議ノ上其ノ時期ヲ決定シ陸軍省ヨリ關東軍ニ通知シ軍ヨ
リ滿鐵及滿洲國交通部ニ通告スルコトトス

(別添第四號)

今次契約ニ關シ外國側ニ於テ門戶開放機關均等主義、借款
團規約就中洮昂線ニ關スル從來ノ經緯、奉山鐵路ニ對スル
中英公司ノ權利等ヲ問題トスル場合ニハ左記ノ趣旨ニ依リ

及委託經營契約ノ借款額ニ繰入ルルコトトシタリ

別 表

借 款 金 額

圓

鐵道名	借 款 金 額
吉長鐵道	金 九、八六六、四三五、〇三
四洮鐵道	〃 五二、一五五、六七四、〇〇
洮昂鐵道	〃 三一、五三六、〇一九、八八
吉敦鐵道	〃 三二、〇三一、四六三、五〇
瀋海鐵道	〃 三、〇六四、五〇〇、〇〇
呼海鐵道(松花江及之ニ關聯スル水路ニ於ケル水運事業ヲ含ム)	〃 一、三七八、〇六七、九七
吉海鐵道	〃 一〇〇、〇〇〇、〇〇
齊克鐵道	〃 六一四、〇一九、四〇
洮索鐵道	〃 一一八、三八九、八四
奉山鐵道(打通線及附屬港灣ヲ含ム)	〃 一、九七九、七六三、一四
計	〃 一三三、八四四、三三二、七六

(別紙第三號)

應酬スルコト可然

一、門戶開放機會均等主義トノ關係

今次諸契約ハ滿洲國ニ於ケル鐵道事業ニ關シ日本側ニ於
テ一般的排他的獨占權ヲ獲得シタルモノニ非スシテ日本
トノ利害關係多ク而モ滿洲國ニ於テ特ニ必要トスルモノ
ニ付借款建造乃至委託經營ニ關スル契約ヲ締結シタル次
第ナリ又鐵道等ノ事業ハ性質上國家的事業ニシテ國家ノ
存立ト重大ナル關係ヲ有シ外國人ニ對スル門戶開放機會
均等主義適用ノ範圍外ニ在リ今次ノ契約ハ滿洲國自ラ出
資建造經營スル代リニ資金及經驗ニ豐富ナル滿鐵會社ヲ
シテ之ニ當ラシムルコトトセルモノナリ

二、借款團トノ關係就中洮昂線ニ關スル從來ノ經緯トノ關係
借款團規約ハ支那政府、支那中央政府各部、支那地方政
府、又ハ支那政府若クハ支那地方政府ニ於テ所有シ又ハ
管理シ若クハ其ノ爲ニ所有又ハ管理セラルル會社若クハ
法人並支那政府若クハ支那地方政府ノ保證アル取引ノ當
事者ニ對スル借款ヲ對象トスルモノナルヲ以テ滿洲國既
ニ成立シタル今日ニ於テハ同國政府ニ對スル借款ハ右規
約ノ適用範圍外ナリト認ム

又洮昂線ニ付テハ大正十四、五年ノ交我方ヨリ借款團及借款團關係國ニ對シ洮昂線建設請負金ヲ借款ニ引直ス場合ニハ借款團ノ参加ヲ認ムヘキ旨通告シタル次第アル處本件ニ付テハ右通告ハ前記建造請負金ヲ支那政府又ハ支那地方政府ヲ相手トスル借款ニ引直ス場合ヲ豫想セルモノニシテ今次ノ如ク支那政府ヨリ全然獨立シタル滿洲國政府ヲ相手トスル借款ニ引直ス場合ハ右通告ノ全然豫想セサル所ナリ

三、中央公司トノ關係

(イ) 今次契約ニ於テハ奉山鐵路ニ對スル中英公司借款ノ擔保權ヲ充分尊重シアルノミナラス本件借款ノ元利金支拂ニ當リ滿洲國政府ハ當ニ奉山鐵路ノ收入ノミナラス滿鐵ノ委託經營ニ屬スル一切ノ鐵道ノ收入ヨリ之カ資金ヲ求ムルコトヲ得ルニ至リタルヲ以テ中英公司ノ地位ハ從前ニ比シ遙ニ有利トナレルモノナリ

(ロ) 一八九八年北寧線借款契約第四條ニ基ク奉山鐵路ニ對スル中英公司ノ管理權ハ右鐵道借款ノ元利金支拂カ満足ニ實行セラレサル場合初メテ生スル問題ニシテ今後滿洲國ニ於テ滯リナク元利金ノ支拂ヲ爲ス限り問題ト

ナラス

(ハ) 前記借款契約第六條ハ同鐵道ノ技師長等ノ役員ニ英國人其ノ他歐洲人ヲ傭聘スヘキ旨ヲ規定シ居ルヲ以テ中英公司側ニ於テ飽ク迄モ前記借款契約第六條ノ權利ヲ主張スルナラハ之ヲ尊重スルニ吝ナラス

152

昭和8年2月10日 在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

當業者よりの滿洲國中央銀行の特産物買付け
中止方陳情に対する同行説明振りについて

新 京 2月10日後発
本 省 2月10日後着

第一二七號

在滿特産業者ハ滿洲國中央銀行カ大規模ノ特産買占ヲ行ヒ中央銀行ノ威力ヲ以テ特産業者ヲ不當ニ壓迫シツツアリトノ非難ヲ加ヘ右買占中止方各方面ニ陳情シ居ル處中央銀行カ本件ノ真相ニ付説明スル所左ノ如シ

舊政權時代ニ於テ官銀號カ紙幣ノ亂發ニ依リ特産ノ約六七割ニ付買占ヲ行ヒ之ヲ大連ニ於テ銀票ニテ賣渡シ巨利ヲ占

三 滿洲国との諸案件交渉

メタル次第ハ周知ノ事實ナリ滿洲中央銀行ハ舊官銀號ノ事業ヲ其ノ儘繼承シタル關係上特産賣買ノ機關ハ中央銀行ノ一部トシテ存在シ居ルカ爲中央銀行成立以來最初ノ出廻期ニ遭遇シ買付ヲ行ヒタル次第ナルカ今日迄ノ買付高ハ約一萬車(此ノ數字ハ特ニ祕密ニセラレ度キ趣ナリ)ニシテ舊政權時代ニ比シ七分ノ一ノ少額ナルニ拘ラス特産業者カ非難ノ聲ヲ擧ケ居ルハ了解ニ苦シム處ナリ彼等ノ非難スルカ如ク國幣ノ騰落ニ依リ利益ヲ收ムルトカ發行銀行カ急ニ投機事業ニ手ヲ染メ特産業者ヲ壓迫セリトカ云フハ全ク事實ニ適合セス中央銀行ハ何時ニテモ「パー」ニテ國幣ヲ受入レ現大洋(銀貨)ノ賣出ニ應シ居リ最近國幣カ極ク少額ノ下落ヲ示シ居レルハ他ノ種々ノ原因ニ依ルモノニシテ國幣ニ依ル特産物ノ買付トハ直接ノ關係無ク又特産買付ノ爲國幣ヲ増發シタルハ事實ナルモ準備高トノ比例ハ出廻期前ニ比シ大差無シ中央銀行ハ行々ハ實業局ヲ分離シ獨立ノ私立會社トスル意向ナルモ在來七割ノ賣買ヲ行ヒ居リタル實業局カ特産業者ノ希望スルカ如ク俄カニ其ノ事業ヲ中止スルカ如キコトアラハ全滿特産界ハ其ノ機構ヲ破壊セラレ地方ヨリノ出廻停頓シ農民モ非常ナル苦境ニ立ツニ至ルヘシ要スル

ニ今回出廻期ニ於ケル中央銀行ノ特産買付ハ單ニ「ルーチン」ヲ行ヒ居ルニ過キス急ニ中央銀行ノ營業方針ヲ變更シ又ハ銀行以外ノ方面ヨリ指示ヲ受ケタルカ如キ事實ハ絕對ニ無シ云々

奉天、哈爾賓、安東、鐵嶺、遼陽へ轉電セリ

153

昭和8年2月11日 在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

出產稅滿鉄代徴問題の疑義に關し回答について

付記一 昭和七年十月二十七日発在長春田中(正二)總領事代理より内田外務大臣宛電報第七四〇号
付屬地外居住邦人への出產稅賦課について
二 昭和七年十一月四日発在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛電報第一号
右出產稅賦課への対応方針について

第一二八號

貴電第六三號ニ關シ

新 京 2月11日後発
本 省 2月11日後着

出產稅滿鐵代徴方ニ關シ

(一)滿洲國トシテハ目下特產物出廻期ニモアリ急速實施方希望シ居ルノミナラス本件ヲ單獨處理スルモ後日關稅引下ノ交渉開始ノ際ニハ必要ニ應シ交換條件ヲ持出シ得ル様「試驗的ニ實行スル」モノナルコトノ留保ヲ附シ置カハ不都合ナカル可シト思考ス

(二)出產稅以外差當り滿洲國側ヨリ代徴ヲ依頼スルモノ無ク御來示ノ銷場稅ハ一昨年營業稅創設ノ際廢止セラレ居レリ
(三)土地商租確認ト共ニ滿洲國側課稅ハ不當ナルモノ以外大體之ヲ默認スルコトトナレル此ノ際舊奉天政權時代ノ行懸ニ捕ハルル必要無キノミナラス(出產稅其ノモノカ惡稅トシテ廢止スヘキモノナリヤ否ヤハ別箇ノ問題ニシテ將來滿洲國ニ於テ稅制ノ整理ヲ爲ス場合攻究ノ餘地有ル可シ)附屬地行政權トノ抵觸及本邦關係ノ紛議ヲ避クル爲滿鐵ヲシテ徵稅事務ノ代行ニ當リ稅金ノ支拂ヲ肯セサル者ニ對シテハ強制力ヲ用ヒス其ノ都度滿洲國側ヘ通知シ滿洲國側對當事者ノ解決ニ委セシムルコトトス(此ノ場合日本官憲ハ在滿公館宛拙電(合)第四五號(三)ノ趣旨ニ依リ解決ニ協力ス)可キ見込ナリ尙詳細ナル具體的取極

テ應酬シ然ルヘキヤ爲念請訓ス
大臣、支ニ轉電セリ

(付記二)

新 京 昭和7年11月4日後發
本 省 昭和7年11月14日後着

郵第一號

本官發新京宛電報

第八二號

貴電第一五五號ニ關シ

在滿邦人ニ對スル所謂不當課稅ニ付課稅問題ノ根本的決定ヲ觀ルニ至ル迄ノ暫行辦法トシテ差當り取引ノ實際上ノ便宜ト日滿間ノ特殊關係等ヲ考慮シ之カ調整方ニ付目下折角考究中ナル處御來示ニ係ル出產稅ノ如キ主義上ハ今日ト雖モ因ヨリ舊軍閥時代ト同様依然排除スヘキモノナルモ其額ニシテ不當ニ大ナラサル限り關係邦人ニ於テ寄附等適當ノ名目ヲ用ヒ自發的ニ出捐スル義ハ當分之ヲ默認スル事ニ取計ハレ差支無シ

大臣、支ヘ暗送セリ

ハ本件代徴方ニ付主義上ノ承認ヲ得タル上關係ノ向ニ於テ協議ノ筈

(四)稅率ハ目下豆稅(青豆、黑豆等)二步五厘、細糧稅(米、小麥、小豆、綠豆等)一步、雜糧稅(粟、高粱等)五厘、粃糧稅(大小麻子)等二步五厘ノ從價稅ナルカ滿鐵ニ委任スルコトトナラハ全部從量稅ニ改メ評價其ノ他ノ手數ヲ省キ之ニ伴フ紛議ヲ避ケシムル意嚮ナリ

(付記一)

長 春 昭和7年10月27日後發
本 省 昭和7年10月27日後着

第七四〇號

本官發滿宛電報

第一五五號

吉林省內徵稅制度ノ確立充實ニ伴ヒ當地稅局ニ於テハ附屬地外居住ノ本邦人ニ對シ從來ノ包稅形式ニヨル銷場稅ノ賦課ヲ廢止シ其ノ代リニ一律出產稅ヲ課セントスルヤノ聞込アル處右ニ對シテハ舊軍閥時代ニ於テハ我方ハ主義上排除シ來レルモノナルモ今日ノ事態ニモ鑑ミ如何ナル態度ヲ以

154

昭和8年2月20日

在ブラゴヴェスチエンスク豊原(幸夫)
領事代理より
内田外務大臣宛(電報)

馬占山發行紙幣処分問題への不安による黒河

市況の動搖について

ブラゴヴェスチエンスク 2月20日前發
本 省 2月21日後着

第五號

往電第四號ニ關シ

其後馬大洋問題ニ關シ黒河一部商民間ニ不安動搖ノ情報アリタルヲ以テ昨十九日今井書記生ヲ出張セシメ在黒河邦人等ニ付調査セシメタル處現狀大要左ノ通

最近同地商務會側ヨリノ請願ニ對シ中央銀行ヨリ馬大洋一元二付國幣二十五錢ノ換算率ヲ以テ本年三月末日迄二回收スヘシトノ指令ニ接シタル趣ニテ一般商人ハ右回收期間ノ極メテ短時日ナルト換算率ノ思ハシカラサルニ加ヘ右交換ヲ行フヘキ金融機關モ準備國幣モ皆無ナルニ鑑ミ右馬大洋ノ將來ハ全然無價值トナルニアラサルヤトノ不安ヲ懷キ馬大洋ヲ以テスル賣買ヲ一切停止シ商店ノ大半ハ本月十五日

ヨリ閉鎖シ居レル趣ナリ

尙前電後段ノ在留邦人萬一ノ場合ニ於ケル武市避難問題ニ
關シ在黑河横井少佐ハ今井ニ對シ

哈爾濱方面ヨリノ物資ノ供給甚タ圓滑ヲ缺キ食料難ニ苦ミ
居タル折柄馬大洋ノ低落ニ依リ一般下層労働者ノ生活ハ極
メテ困難トナリ右商人ノ不安ト相俟チ市中一般鮮カラス動
搖シ居レルモ軍隊ヲシテ市中ヲ巡行セシメ嚴重監視ヲ怠ラ
サルヲ以テ目下ノ處市民暴動ノ徵無ク從テ差當リ何等避難
ノ必要無カルヘシト内話セル趣ナリ
滿ヨリ哈爾濱、齊々哈爾へ轉電請フ
露、滿へ轉電セリ

155 昭和8年2月22日 林閣東庁警務局長より
有田外務次官他宛

滿州国中央銀行の特産物買付け事業への当業
者反对運動に対する同行見解について

關機高支第三一八五號 (2月27日接受)

昭和八年二月二十二日

關東廳警務局長

論發行銀行タル中央銀行カ市中商人同様特産ノ買付ヲナス
ハ不合理ナル事業ニシテ直ニ廃止スヘキモノナルカ從來ヨ
リ行ヒ來リタルモノヲ今一時ニ廃止スルトキハ經濟界ヲ紊
スノミナラス從來ヨリ之カ業務ニ從事シタルモノ約三千名
ヲ失職セシムルニ至ルヘク故ニ先ツ最少限度ノ買付ヲナシ
以テ日本人特産商ノ進出機會ヲ與ヘントシタルモノニシテ
全量ノ九割迄ハ日本人ニ於テ買付得ル筈ナリ
以上ヲ考察スルトキ滿洲国特産商ハ大ナル打撃ヲ受クヘキ
筈ナルニ是ヨリハ何等ノ不平ナク日本人ノミヨリ反對スル
ハ認識不足モ甚タシキモノト思料サル銀行側ニ於テ考察ス
ル反對理由ノ根本ハ中央銀行カ買付ヲナストノ聲ヲ聞キ各
特産商ハ競フテ認識不足ノ儘一時ニ多量ヲ買付ケ之カ爲ニ
價格ハ騰貴シ賣却ニ當リ該價格ハ維持サレ下落ノ結果損
失ヲ醸スルニ至リタル責任ヲ中銀ニ轉嫁シ自己ノ認識不足
ヲ恰モ中央銀行ノ責ノ如ク誇大ニ吹聴シタルモノナリ、中
央銀行ハ傳フ如ク決シテ損失ナク相当ノ利益ヲ舉ケツ、アリ
以上ノ通りニシテ反對者ノ云フ如キ半数以上多量ヲ買占メ
タル等ハ全ク認識不足カ詐言カ實ニ言語同断ト言ハサルヘ
カラス、又反對者中ニハ中央銀行ハ紙幣ヲ乱發シテ買付ヲ

拓務次官殿

内閣書記官長殿

外務次官殿

内務省警保局長殿

特産買付反對運動ニ對スル中央銀行ノ方針

(參照、八、二、一〇關機高支第二七九四號)
全滿各地ノ特産商カ滿洲国中央銀行ノ特産買付ニ對シ反對
運動ヲ起シ相當問題ハ深刻化シツツアルカ本件ニ関シ中央
銀行側ノ語ル處ニヨレハ該運動ハ全ク事情ヲ知ラサル者カ
他ノ煽動ニヨリ騒キツ、アルニ過キス中央銀行ノ方針及買
付高ヲ詳細説明スル時皆一樣ニ諒解スル至ラムント思料シ
之等陳情者ニ對シテハ詳細説明スルト共二期限タル六月三
十日以後ハ之カ買付ヲ中止スヘク極力努力中ナルカ現在迄
ノ買付高及旧政權當時ノ買付狀況等ニ對シ左ノ如ク説明セリ
現在全滿ニ於ケル大豆ハ十五萬車ニシテ旧政權當時ハ六、
七萬車ヲ買付ケタリ、中央銀行ハ之カ買付ヲ引繼クニ當リ
最大收獲年ノ六分ノ一最小收獲年ノ半額以內ニ於テ買付ヲ
ナス方針ヲ定メ取敢ヘス本年度ハ一萬四、五千車即チ全滿
收獲高ノ一割乃至一割二分ヲ目標トナシタルモノナリ、勿

ナシ居ル等ノ暴言ヲナスモノアルカ銀行ハ本年一月一日迄
ニ一億四千萬円ヲ發行シ同日以降現在迄總發行高一億五千
萬円ニ達セリ一月一日以降今日迄一千萬円ヲ發行シタルニ
過キスシテ何ヲ以テ紙幣ノ乱發ト称シ得ルヤ、元來冬期ハ
特産ノ出廻期ニシテ一般經濟界ハ非常ニ活氣ヲ呈スル時ナ
ル關係上少ク共一億七、八千萬円迄ハ發行シ得ルモノト予
想シアルニ拘ラス一億五千萬円ノミナルハ經濟界ノ委縮ヲ
意味スル所ナランモ之ヲ以テシテモ紙幣乱發等ノ暴言ハ寧
ロ笑止ニ絶ヘサル所ナリ云々

以上

156 昭和8年2月27日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

鮑觀澄滿洲国駐日代表更迭に関する同国外交

部意向について

新 京 2月27日後發
本 省 2月27日後着

第一七八號(極秘)

滿洲国外交部ニ於テハ鮑觀澄ノ評判益々面白カラサルニ顧

ミ後任公使ノ任命ヲ俟タス建國記念日終了後成ルヘク早キ時機ニ同人ニ歸朝ヲ命スルコト各方面ニ執リ好都合ナルヘシトシ尙後任公使任命セラレ駐日公署廢止ノ曉ニ於ケル同人ノ取扱方ニ付其ノ後ノ事態ノ變遷モアリ適當ノ職アル迄同人ヲ外交部囑託トシ略現在ト同等ノ待遇ヲ與ヘ且特殊事務ニ從事セシムル腹案ヲ以テ研究中ノ由ニテ右鮑ノ至急召還ニ關スル本省ノ御意見承知シ度旨申出アリタルニ付何分ノ儀同電ヲ請フ

軍ト打合セ濟ミ

157 昭和8年3月13日

内田外務大臣より
在滿州国武藤大使宛(電報)

出產税滿鉄代徴の承認およびその代償として

関税率引下げ要求方訓令

本省 3月13日後8時30分發

第一六五號

貴電第一二八號ニ関シ

滿洲國徵稅組織未タ整備セサル今日ニモアリ御來示ノ方法ニ依ル滿鉄ノ出產税代徴ハ之ヲ承認セラレ差支ナキモ(右

貴電ノ(三)在滿公館宛貴電合第四五號ノ次ニ「(三)トアルハ「(二)ノ誤ト認ム、然ラサレバ承認シ難シ」本件代徴ニ依リ滿洲國ハ相当巨額ノ稅收ヲ得ル次第ナルニ付右承認ト交換的ニ関稅引下ケノ約束ヲ要求スルコト、致度右ハ何等不当ナル要求ニモ非サル一方目下差当リノ懸案タル應急の關稅引下問題ニ付テハ或ハ特ニ右約束要求ノ必要ナカルヘキモ追テ行ハルヘキ一般的稅率改正ニ際シテハ先方ノ好意的考慮ヲ促ス資料トナルヘシト思考スル次第ナリ就テハ一月九日附外交部總長書翰ニ對シテハ御來示ノ留保ヲ附シテ承認ノ旨ノ回答ヲ發セラル、ト共ニ此際何等別途可然方法ニ依リ滿洲國側ヨリ將來稅率引下ケニ関シ好意的考慮ヲ加フヘキ旨ノ約束ヲ取付ケ置ク様御配慮アリ度シ

尙滿鉄トシテハ同社線側ニ於テノミ嚴正ニ出產税ヲ徵收シ東支鐵道並滿鉄委任經營諸線ニ於テ本稅ヲ徵收セス又比較的寬大ナル課稅取扱ヲナスニ於テハ滿洲國側所期ノ稅收ヲ舉クルコト困難ナルノミナラス之カ爲滿鉄線ハ他ニ貨物ヲ奪ハル、ノ處アルニ付本件實施ノ際ハ右兩鐵道側ニ於テモ滿鉄同様嚴正ナル徵稅ヲナスコトヲ必要トシ居ル趣ノ処滿洲國ニ於テハ貴電第二二一號滿鉄ノ委任經營諸線ニ對ス

ル本件徵稅交渉ノ外東支鐵道側ニ對シテモ交渉ヲ進メ居ルヤ御確メノ上当方參考迄ニ回電アリタシ

158 昭和8年3月14日

在ブラゴヴェスチエンスク豊原領事
代理より
内田外務大臣宛

馬占山発行紙幣の回収状況について

機密公第四一號

(3月30日接受)

昭和八年三月十四日

在武市

領事代理 豊原 幸夫(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

黑河商民ノ開店其他ニ關スル件

曩ニ拙電ヲ以テ報告シ置キタル通黑河商民等ハ馬大洋問題ニ絡ミ滿洲國軍隊其他機關職員到着後殆ト全部閉店シ居タル處其後新任馮市政籌備處長來任シ該地商務會等ニ對シ訓諭シ且事情ヲ説明シタル結果ト共ニ客月末日本軍隊カ輸送ノ滿洲國國幣四十萬圓到着セル爲メ人心安定シ本月上旬ヨリ商民等ハ一齊ニ各自商舖ヲ開店スルニ至レル趣ナリ

尙本月二日ヨリ黑河當局ハ國幣廿五錢對馬大洋一圓ノ割ヲ以テ馬大洋ノ回收ニ着手シタルカ爾來成績良好ニシテ本月十二日ニハ既ニ約六十萬元ノ回收ヲ見タル由ニテ馬大洋殘額百萬圓モ既定方針ニ從ヒ本月末迄ニハ全部回收シ得ル見込ナル旨當路者ハ内話シ居タリ

右何等御參考迄報告申進ス

本信寫送付先

チチハル領事

159 昭和8年3月17日

内田外務大臣より
在滿州国武藤大使宛

滿洲國査証官の大連・安東・營口への派遣承認について

通一機密第一一六號

昭和八年參月拾七日

外務大臣伯爵 内田 康哉

在滿洲國

特命全權大使 武藤 信義殿

滿洲國査証官ヲ大連並營口及安東鐵道附屬地ニ派出

ノ件

本件ニ関シ一月九日附機密公第二二号貴信ヲ以テ申越ノ趣了承右ハ滿洲國側ノ外国人取締上已ムヲ得サル次第ト認メラル、ニ付派出査証官ノ職務ハ査証事務ニ限ラルヘキ旨ノ制限ヲ附シ承認方可然御取計相成度

尙本件ニ関シテハ拓務省トモ協議済ナルニ付右爲念申添ユ

160 昭和8年3月25日 在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

出產税滿鉄代徴承認の代償としての關稅率引
下げ要求をめぐる滿洲國および關東軍との意
見交換について

新 京 3月25日後發
本 省 3月25日後着

第三〇三號(極秘扱)

(一)⁽¹⁾貴電第一六五號前段滿洲國側ヨリ將來關稅率引下方ニ付好意的考慮ヲ加フヘキ旨ノ約束ヲ取付クヘキ件ニ關シ三月廿四日滿洲國外交部ニ於テ關東軍司令部係官、滿洲國財政部、外交部ノ主腦部及當館係官會合意見ノ交換ヲ行

充分ナリシニ職由スルコト多キニ付滿洲人モ亦稅ヲ免レ居ル可シ代徴セサル爲日本人ニ對スル感情面白カラスト云フカ如キハ首肯シ難シ

(イ)我方ニ於テハ滿洲國側ニ於ケル我或種特定品ニ對スル關稅引下問題ヲ我對滿政策中ノ重要ナルモノノ一ト考ヘ居レリ是迄滿洲國當局カ我方ノ引下希望ニ對シ應セラレサルハ財政收入ノ減少ヲ惧ルルヲ主要理由トセリ今回ノ代徴ニ依リ增收ヲ見ル以上關稅引下ニ我方ヨリ考慮ヲ求ム可キハ當然ニシテ決シテ關係無キ獨立ノ問題ニ非ス
(ニ)滿洲國側ノ關稅引下豫定品目ハ我方ニ採リ重要ナルモノ殆ト無シ眞ニ日滿貿易上ノ緊密ヲ劃スル爲關稅改正ノ誠意有ラハ我方ニ對シ好意的考慮ヲ加フ可キ約束ヲ與フルコトニ對シ支障有リトハ思ハレス殊ニ今直ニ特定品目ニ對シ一定ノ引下ヲ求ムル次第ニハ非ス要之相手國ニ對シ「フエイバー」ヲ求メントセハ互讓ノ精神ヲ以テ之ニ酬ユルノ「ジェスチュア」ヲ爲スコト必要ニテ本件ノ如キ我方行政權上ノ異例ニ關スル要求ニ對シ滿洲國側ヨリ我對滿政策上ノ見地等ヲ云爲シ勝手ナル主張ヲ爲シ居リテハ解決ヲ見ルヘキモノニ非ストノ趣旨ヲ説明シタ

ヒタルカ經過左ノ通

滿洲國側ニ於テハ

(イ)本件代理徴收ハ滿洲國財政ノ確立上緊急必要トスルコト
(ロ)出產税ノ負擔ヲ免レ居ルハ多ク日本商人ニシテ之ヲ現在ノ儘トスルコトハ滿洲國人一般ニ面白カラサル印象ヲ與フルコト

(イ)從テ本件ノ如キハ日本ノ對滿國策上ノ大局ニ立脚シ將ニ承認セラルヘキモノニシテ之ヲ關稅引下ノ如キ條件ニ係ラシメラルルコトハ眞ニ水臭ク本件ハ獨立シテ考慮セラルヘキモノナルコト

(ニ)殊ニ關稅ニ關シテハ滿洲國側ニ於テ是正スルヲ可ト認メ居ルモノニ付近ク之カ改正ヲ爲スヘキ準備中ナルコト等ノ事由ヲ以テ我方ノ要求撤回方ヲ要求シ
⁽²⁾之ニ對シ當館係官ハ

(イ)我方ニ於テハ滿洲國ノ財政確立ニ援助ヲ咨マサルハ素ヨリニシテ之カ爲今回ノ代徴ヲ一定ノ條件ヲ以テ認メントスルモノナリ

(ロ)出產税ヲ免ルルモノハ日本人ニ限ラス本件徴税ノ抄々シカラサルハ奧地治安確立セサリシ爲徴税機關ノ運用不

ルモ妥協ニ至ラサリシ由ナリ

(二)軍司令部側係官ハ滿洲國側ヲ支持シ結局本件ハ内地中央部ニ於テ決スルノ外途無シトノ意見ヲ述ヘタル由ニ付近ク本件ハ軍部ヨリ關係各省ニ審議ヲ求ムルコト有リ得ヘキニ付右御承知置アリタシ

(三)尙右會合ノ際滿洲國財政部員ハ滿鐵ノ委任經營線ニ付テハ交通部財政部間ニ協議纏マリ東支線ニ付テハ目下交渉中ノ旨述ヘタル由ナリ

本電ハ部外極秘トセラレタシ

161 昭和8年3月27日 在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛

關東軍立案の本邦人滿州移民実施要綱案送付
について

付 記 五月二十三日付、拓務省作成

「滿洲移民實行ニ關スル件」

公機密第二五二號

(4月5日接受)

昭和八年三月二十七日

在滿洲國

特命全權大使 武藤 信義〔印〕
外務大臣伯爵 内田 康哉殿
本邦人ノ滿洲移民ニ關スル件

滿洲ニ於ケル本邦移民ノ助長統制ニ關シテハ曩ニ關東軍特務部ニ於テ立案セル所ニ基キ客年末關係方面代表者協議ノ結果別紙甲號「日本人移民實施要綱案」ノ如キ大綱(本年一月中旬軍決定、但シ第三項未決定)ヲ決定シ次テ本年二月十三日軍特務部内ニ移民部ノ新設ヲ見ル(本年二月十四日附合機密第二三號拙信參照)ト共ニ爾來同部ハ前示ノ大綱ニ基キ之カ實現ニ努力シ今日迄應急及恒久ノ二方策ノ立案及實施ノ爲數次部會議ヲ開催研究シ居ル處本月四日ハ避難鮮人ノ安定ニ關シ又十七日ニハ内地人自由農業移民ノ實施ニ關シ夫々別紙乙號並丙號^(省地)ノ通り方策案ヲ決定セリ委細別紙ニ就キ御了知相成度此段不取敢報告申進ス

(別紙甲號)

日本人移民實施要綱案
昭和八、一、一九
關東軍特務部

第一 移民事業ノ統制

第二 内地人農業移民

(欄外記入一)

一、移民ノ資格

移民村ノ健全ナル發達ノ爲ニハ男女數ノ適當ナル均衡ヲ保ツヲ原則トシ、獨身者ノ移住ヨリモ家族的移民ヲ獎勵ス可キモ、現下滿洲ノ治安其ノ他ノ關係上家族移民ノ困難ナル場合ハ獨身者ヲ主體トスル集團移民ヲ以テスルモノトス移民ノ成否ハ移民者其人ニ係ル所最モ大ナレハ移民ノ人選ハ嚴重ニ之ヲ行フヲ要ス可ク、移民ニ對スル資格審査ノ標準トシテハ

(イ)農業ニ經驗ヲ有シ身體強健、志操堅實ナル農家ノ子弟(二十才乃至四十才ヲ理想トス)ニシテ系累尠ク且相當ノ所持金ヲ有スルモノヲ目標トス

(ロ)特別移民ニ對シテハ在郷軍人ニシテ前項ノ資格アル者ヲ必要トス可ク、普通移民ニアリテモ相當數ノ在郷軍人ノ介在ヲ必要トス

(ハ)血族、全郷、全學、在營軍隊等ノ關係ニ依リ同志ノ者五名以上ヲ以テ強固ナル團結ヲナシ得ルモノヲ目標トス

二、移民ノ募集

(イ)特別移民ニ對シテハ拓務省ハ陸海軍省ト協力シ地方廳

三 滿洲国との諸案件交渉

(欄外記入二)

一、日本人移民ノ統制ハ滿洲ニ在リテハ在滿日本最高統制機關、内地及朝鮮ニ在リテハ各當該官廳之ニ當リ、關係機關ト連絡ノ下ニ之カ實行ヲ圖ルモノトス

二、在滿日本最高統制機關ノ指揮監督ノ下ニ移民部ヲ置キ滿洲ニ於ケル移民事業ノ實務ニ當ラシムルモノトス

移民部ニハ在滿拓務省官吏、同朝鮮總督府官吏、同大使館及領事館官吏並關東廳官吏ヲ兼務セシム

三、主トシテ農業移民事業ノ實行ニ當ラシムル爲左記機關ヲ設立シ相提携シテ事業ノ進捗ヲ圖ルモノトス

(一)移住地ノ獲得並分譲ノ爲日滿合辦ノ土地保有機關(滿洲農地開拓會社ト假稱ス)ヲ設立ス(別紙(一)參照)

(二)移民ニ對スル農業金融及移民定着迄ノ取扱等ヲ行フ爲移民事業機關(滿洲拓殖會社ト假稱ス)ヲ設立ス(別紙(二)參照)

(三)前記二機關ニ對スル内地資本家ノ投資ヲ容易ナラシムル爲投資機關(滿洲拓殖投資會社ト假稱ス)ヲ設立ス(別紙(三)參照)

前記三機關ノ事務連絡及事業費ノ節約ヲ圖ル爲取締役及監査役ハ相互ニ兼務スルノ形式ヲ採ルモノトス

及ヒ在郷軍人會ト連絡ノ下ニ其ノ募集及選抜ヲ行フモノトス

(ロ)普通移民ニ對シテハ拓務省ハ地方廳ト連絡シ其ノ指導監督ノ下ニ移民關係ノ公益團體、市町村、農業團體及青年團體等ヲシテ其ノ募集及選抜ヲ行ハシム

但シ自己ノ費用ヲ以テスル團體移民ハ此ノ限ニアラス
三、移民ノ訓練

(イ)内地ニ於ケル移民ノ訓練

前項ニ依リ募集、選抜セラレタル移民ニ對シテハ渡航前植民ニ關スル精神教育ヲ施スト共ニ滿洲事情ヲ知悉セシムル爲拓務省ハ地方廳ト連絡シ適當ナル訓練機關ヲ擴充若ハ新設シ少クモ一ヶ月内外ノ短期訓練ヲ行フト共ニ、本訓練ニ依リ更ニ移民ノ選別ヲ行ハシムルモノトス

(ロ)滿洲ニ於ケル指導移民ノ訓練

一般移民ニ對シ滿洲ノ農業經營法ヲ習得セシムルハ極メテ必要トスル所ナルモ全體ノ大衆移民ヲ在滿訓練機關ニ收容シ斯種訓練ヲ施スハ實際問題トシテ困難ナル事情ヲ伴フモノナレハ、指導移民ヲ當該移民團體ヨリ

(四) 土地獲得ノ方法

- (1) 前記以外ノ既設及將來敷設セラル可キ鐵道沿線地帶
- (2) 東邊道地帶

部地帶

- (3) 齊克、呼海、海克、海黑沿線地帶及小興安嶺山脈南部地帶
- (4) 牡丹江流域、延依線及ヒ吉會沿線地帶
- (5) 松花、烏蘇里兩江ノ中間地帶

如シ

邦農移民計畫上獲得ヲ必要トスル主要移民適地帶左ノ

(イ) 獲得ス可キ土地區域

七、土地ノ選定及獲得

任トス

ヨリ警備ニ當ラシムルモノトシ武器ノ保管ハ村ノ責

任トス

(2) 普通移民ニハ自衛上必要ナル武器ヲ配給シ駐在所ノ

ヒ警備ニ當ラシムルモノトス

武器ヲ貸與シ農事經營ノ側ヲ警備指導員ノ指揮ニ從

(1) 特別移民ニハ警備指導員ヲ配置シ、自衛上必要ナル

(二) 村落ノ警備施設

(欄外記入三)

五、移民ノ輸送

移民ノ輸送ニ關シテハ拓務省ハ地方廳又ハ適當ト認ムル代行機關ヲシテ其計畫及斡旋ヲ行ハシムルト共ニ、國內海港ニ於ケル移民收容所ヲ擴充又ハ新設スルモノトス

全等以上ノ實力ヲ有スト認メタル者

(ロ) 農業經營ニ對スル實務ノ經驗ヲ有シ前項學校卒業者ト

(イ) 農業學校又ハ之ト全等以上ノ學校ヲ卒業セル者

ナル農業教育ヲ施スモノトス

拓務省ハ移民ニ對シ農業經營ノ指導ニ當ラシムル爲左記

ノ資格ヲ有スル者ヲ在滿訓練機關ニ委託シ二ヶ年間必要

四、農業指導員ノ養成

ナサシメ滿洲ノ農業ヲ會得セシムルモノトス

指導ノ下ニ指導移民ヲ中心トシテ可級の^{及カ}ニ共同耕作ヲ

入地セル移民ニ對シテハ移住地ニ於テ當分農業指導員

(イ) 移住地ニ於ケル移民ノ現地訓練

共ニ移住地ニ入地セシムルモノトス

而シテ訓練ヲ經タル指導移民ハ翌年渡來ノ農業移民ト

適當數推舉セシメ前項ノ訓練ニヨリ更ニ選別シ、之ヲ

在滿訓練機關ニ收容シ一農期間ノ訓練ヲ施スモノトス、

(欄外記入四)

努ムルモノトス

品ノ購入等ニ關スル事業ヲ出來得ル限り協同化スルニ

シメ農事作業、農業金融、生産物ノ加工及販賣、需要

村落ヲ以テ産業組合ノ單位トシ其ノ機能ヲ極度ニ發揮セ

(イ) 産業の施設

設置ス

神社、村役場、小學校、醫院及適當ナル娛樂機關等ヲ

(ロ) 社會的施設

チ、更ニ區ヲ若干ノ組ニ分ツ

村落ノ戸數ハ大凡三百戸ヲ以テ標準トシ之ヲ數區ニ分

(イ) 組織

ヨリ異ナリ一樣ニ律ス可ラサルモ其標準ヲ示セハ左ノ如シ

六、移民村落ノ組織及施設

施設ヲ行ハシムルモノトス

滿洲内移民收容所ハ必要ニ應シ移民事業機關ヲシテ之カ

(欄外記入五)

八、移民ノ農業經營

(1) 自家勞力ヲ中心トシ自給自足ニ立脚スル自作農の經營

ニ則ラシムルモノトス

(2) 滿洲農業ノ本質ヲ習得スルト共ニ邦農ノ技能經驗ヲ之

ニ加ヘ獨自ノ經營形態タラシムルモノトス

(3) 滿洲農業ノ自然的條件ノ制約ヨリ結果スル栽培面積ノ増加ト之ニ伴フ所要勞力ノ不足ハ畜力ノ充實、機械力ノ利用及共同組織ノ運用等ニ依リ之ヲ補ヒ雇傭勞力ヲ

避クルニ努ムルモノトス

(4) 地方ニ依リ異ルモ次ノ如キ作物及家畜ヲ取入レ且ツ副業ヲ奨励シ可及的ニ多角的有畜農業タラシメ尙別ニ共同放牧地及林地ノ經營ヲ必要トス

南滿地方

普通作物―高粱、粟、大豆、包米、陸稻、水稻等

特用作物―棉花、煙草、落花生、麻類、忽布、蓖麻及其他作物―胡麻、ルーサン、馬鈴薯、蔬菜、果樹等

家畜及家禽―牛、馬、騾、驢、緬羊、豚、鶏等

北滿地方

普通作物―小麥、燕麥、ライ麥、大豆、高粱、粟、包米、水稻等

特用作物―亞麻、ルーサン、甜菜、馬鈴薯、向日葵及其他作物―葵、煙草、忽布、蔬菜等

家畜及家禽―牛、馬、騾、驢、緬羊、豚、鶏等

六、移住戸數及其年度割

十五箇年間ニ特別移民一萬戸、普通移民十萬戸計十一萬戸ヲ移住セシメテ自作農タラシム

其年度割移住戸數左ノ如シ

年度割移住戸數

年度別	内地人農業移民			備考
	特別	普通	計	
第一年度	一、〇〇〇戸	一、〇〇〇戸	二、〇〇〇戸	
第二年度	二、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	
第三年度	二、〇〇〇	二、〇〇〇	四、〇〇〇	
第四年度	二、五〇〇	三、〇〇〇	五、五〇〇	
第五年度	二、五〇〇	四、〇〇〇	六、五〇〇	
第六年度	―	七、〇〇〇	七、〇〇〇	
第七年度	―	七、〇〇〇	七、〇〇〇	
第八年度	―	八、〇〇〇	八、〇〇〇	
第九年度	―	八、〇〇〇	八、〇〇〇	
第十年度	―	九、〇〇〇	九、〇〇〇	
第十一年度	―	九、〇〇〇	九、〇〇〇	
第十二年度	―	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
第十三年度	―	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
第十四年度	―	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
第十五年度	―	一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇	
計	一〇、〇〇〇	一〇〇、〇〇〇	一一〇、〇〇〇	

七、政府ノ助成

政府ハ農業移民奨励ノ爲概ネ左記施設ヲ爲スモノトス

(1) 移民ニ對シ渡航費、初年度生活費、家屋建築費及家畜並農具購入費等ヲ補助スルモノトス

(付記)

滿洲移民實行ニ關スル件

昭和八、五、二三、

一、方針

滿洲移民ノ實行ハ滿洲事變ノ成果ヲ收ムルト共ニ滿洲國ノ健全ナル發展ヲ期スル上ニ於テ最モ緊要ナリ政府ハ帝國現下内外ノ狀態ニ鑑ミ左記要領ニ依リ速ニ之ガ實行ヲ期ス

二、要領

(甲) 農業移民

(イ) 移民ノ形態

移民ノ形態ハ集團移民ヲ原則トシ自家勞力ヲ本位トスル自作農タラシムルモノトス

(ロ) 移住戸數

第一期計畫トシテ今後十五ヶ年ヲ期シ十一萬戸ヲ移住セシムルモノトス

(ハ) 移民ノ訓練

移民ニハ渡航前ニ於テ約一ヶ月ノ訓練ヲ行フト共ニ入植後ニ於テモ相當數ノ指導員ヲ配置シ之ガ指導ニ當ラシム、尙ホ移民中基幹タルベキモノニハ別ニ設クル訓

(欄外記入一)

何ヲ為サシメントスルヤ

(欄外記入二)

外務省側ヲ除外セシハ如何

(欄外記入三)

南米移民ト勘違シ居ル傾キアリ

(欄外記入四)

費用ハ何人カ負担スルヤ

(欄外記入五)

空論ナルヘシ

(欄外記入六)

予算額如何

練機關ニ於テ長期訓練ヲ行フモノトス

(ニ)政府ノ助成

- 1、教育、衛生、産業等ニ關スル公共施設ニ對スル助成
- 2、渡航諸費、家屋建築費、家畜及農具購入費等ニ對スル補助金ノ交付

- 3、移民ノ要スル土地及營農資金ニ對スル低利融資

- 4、滿洲拓殖會社ニ對スル配當保證

(ホ)實施機關

實施機關ハ內鮮人トモ同一機關ヲ以テ之ニ當ラシムルモノトス

- 1、滿洲移住協會(假稱)

公益法人トシ主トシテ移民ノ募集、斡旋並訓練等ニ當ルモノトス

- 2、滿洲拓殖會社(假稱)

日本國法人タル特殊會社トシ滿洲農地開拓會社ノ株式ノ應募引受ヲ爲スト共ニ移民ノ爲必要ナル土地取得ノ代行、移民ノ爲必要ナル土地及營農資金ノ貸付、現地ニ於ケル移民ノ取扱等ヲ爲スモノトス

(ハ)土地保有機關

三 滿洲國との諸案件交渉

品目ハ滿洲國財政部內示ノ引下豫定品目ニ比シ相当多数ニ亘リ居ルノミナラス尙今後引續キ引下ヲ要求スヘキ品目モ相当数ニ達スヘキ見込ナルヲ以テ仮令一方ニ於テ特殊品目ノ稅率引上ヲ行フト雖モ或ハ滿洲國側ノ關稅收入減ハ免レサルヘキモノト思考セラル、ニ付此際何等積極的ニ滿洲國側財政援助ノ方法ヲ講スルニ非レハ本件引下交渉ヲ円滑ニ進捗セシムルコト困難ナルヘシト思考セラル、次第ナルカ本件出產稅代徴ノ如キハ我方ノ滿洲國財政援助ノ著例ニシテ斯ノ如キ異數ナル我方ノ財政援助ニ對シテ之ヲ当然ナリトシテ將來ノ稅率引下ト牽聯シテ考慮スルコトヲ依然躊躇シ居ルカ如キハ我方ノ重視スル對滿關稅政策ノ遂行ヲ著シク阻害スルモノト云ハサルヘカラサルノミナラス滿洲國側ノ言分ハ貴方ニ於テ一々反駁ノ通り根拠乏シキモノト認メラル、モ此際我方ニ於テ本件ヲ關稅引下ケノ交換条件トスルノ建前ヲ固執シ之カ爲メニ折角進行中ノ本件交渉ヲ停滯セシムルハ当方ノ本意ニ非ルカ故ニ本件ヲ交換条件ト云フカ如キ嚴格ナル意味ニテ之ヲ認ムルコトハ固執セサルコト、シ今後貴館及關東軍ニ於テ先方指導ノ際前記趣旨ニ基キ適宜本件ヲ援用スルコト、致度就テハ右事情御了承ノ上

移民ノ土地取得ヲ容易ナラシムル爲滿洲國法人タル日滿合辦株式組織ノ土地保有機關(滿洲農地開拓會社ト假稱ス)ヲ設立シ滿洲國ヨリ國有地ヲ出資セシムルモノトス

(七)農業移民以外ノ移民ニ關シテハ別途考究スルモノトス

(欄外記入)

本拓ム案ハ、(甲)ノ(ロ)及(ハ)ノ点ニ付外務側ニ於テ破壊セリ。

162

昭和8年3月31日

内田外務大臣より
在滿洲國武藤大使宛(電報)

出產稅滿鉄代徴承認に際し關稅率引下げを交換条件とはしないが適宜援用指導方訓令

本省 3月31日後10時発

第二二三號

貴電第三〇三號ニ關シ

滿洲國側カ現行關稅率引下ケニ關シ消極的態度ヲ執リ居ルハ財政收入ノ減少ヲ惧ル、ヲ主タル理由トナシ居ル處近ク日滿産業統制委員會ニ於テ審議決定ヲ見ムトスル引下要求

本件承認方御手配相成差支ナシ

163

昭和8年4月7日

在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

丁士源は大使として日本赴任を希望について

付記 作成日、作成局課不明

「駐日滿洲國代表者ノ資格ニ關スル件」

新京 4月7日後発

本省 4月7日後着

第三五二號(至急、極秘)

丁士源五日歸京滿洲國外交當局ヨリ駐日代表内諾方交渉セル處同氏ハ(一)大使ニ對シ公使ヲ交換スルハ變則ナルノミナラス右ハ滿洲國側トシテモ体面上面白カラス(二)自己ノ現在ノ地位及日本ニ於ケル知己ニ對スル手前上ヨリモ都合惡ク(三)外交團首席トナル俱アル場合ハ東京駐在ヲ一時中断シ之ヲ避クル便法モアリ得ヘシトテ公使タルコトヲ肯セス大使ナラハ喜ンテ引受クヘキ旨答ヘタル趣大橋ヨリ内報シ來レリ然ルニ丁士源(以外)ノ人物ヲ物色スルトシテモ丁ト同様ノ申出ヲ爲スヘク公使交換カ客年貴電第三〇八號御來示ノ通

外交團首席トナル場合ノミヲ懸念セラレテノコトナリトセハ前記(三)ノ便法モ講シ得ラルル次第ナル處本省ノ御意向ハ右以外ニ何等特別ノ理由ニ依ルモノトナスコトヲ好マサル御趣旨ナリヤトノ折衝上ノ都合モ有ルニ付何分ノ儀折返シ御回示アリタシ
本電軍側ト打合濟

(付記)

駐日滿州国代表者ノ資格ニ関スル件

一、在京滿州國大使が外交團首席トナル場合本邦駐劄ヲ一時中断シ首席ヲ他ニ讓ル便法アリト云フモ之が爲メニハ手續上一應解任狀ヲ捧呈シ更ニ又親任狀ヲ捧呈スルヲ要ス斯ノ如キハ手續上面白カラザルノミナラズ實際其ノ期ニ及ンデ大使本人又ハ滿州国側ニ於テ之ヲ肯ゼザル場合ニハ実行不能トナルベシ

二、本邦駐劄中華民國公使が大使ニ昇格セザル限り滿州国大使ハ常ニ中華民國外交代表者ヨリ上位ニ在ルコトナリ中華民國側ハ面子上公使ヲ派遣セザルニ至ル虞ナキニ非ズ斯ノ如キ結果ヲ招来スル虞アル措置ハ^(廟方)究局ニ於テ中日

使トシテ赴任シ適當ナル時期ヲ見計ヒ大使トスルヲ可トスヘキ旨一個人ノ考トシテ申聞ケ置キタルカ然ルニ同人ハ同日更ニ參謀長ニ會見ノ上同様ノ陳述ヲ爲シタルニ對シ參謀長ヨリ若シ滿洲國政府カ貴下ヲ公使ニ任命シタル場合ニ貴下ハ之ヲ受ケラルルヤ否ヤ明答セラレ度シト反問セルニ丁ハ公使ナラハ受諾シ難キ旨ヲ極メテ不明瞭ニ答ヘ且未練タツプリノ態度ニテ單ニ全權代表トセハ大使、公使ノ名義問題ヲ避ケ得可シ等言葉ヲ濁シ更ニ考量ス可シトテ辭去セリ

165 昭和8年4月11日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

丁士源の駐日公使としての任命受諾について

新京 4月11日後發
本省 4月11日後着

第三六七號(至急極秘)

貴電第二七五號ノ御趣旨大橋ヨリ丁士源ニ傳ヘタル處丁ハ公使トシテノ任命ヲ受諾シタルニ付近ク正式ニ我「アグレマン」ヲ求ムル運トナルヘキ旨大橋ヨリ通報アリタリ

間ノ親善ヲ目標トスル日本政府ノ根本方針ニ鑑ミ予メ出來ル限り之ヲ避クル様取計フコト可然ト思考セラル「グレトブリテン、イラツク間ノ例ヲ暫ク措クモ佛国及瑞西間ニ於テハ瑞西ガ佛国ニ公使ヲ派遣シ居ルニ對シ佛国ハ瑞西ニ大使ヲ派遣シ居ル実例モアリ滿州国トシテ本邦ニ公使ヲ派遣スルモ何等体面ヲ損スト考フベキ理由ナカルベシ

164 昭和8年4月9日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

丁士源に対し駐日公使としての任命受諾方説得について

新京 4月9日後發
本省 4月9日後着

第三六〇號(至急、極秘)
往電第三五二號ニ關シ

本月八日丁士源本使ヲ來訪、駐日公使問題ニ言及シ本件ハ自分個人ノ關係ヲ離レテ考フルモ對外、對支關係上大使ヲ派遣スル必要アル旨ヲ縷述セルニ付本使ハ此ノ際貴下ハ公

166 昭和8年4月22日 在滿州国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国財政部における關稅改正案完成について

付記 六月十六日付、滿州国財政部作成

關稅改正に関する教令案理由書

新京 4月22日後發
本省 4月22日後着

第四一九號

豫テ當地財政部ニ於テ研究中ナリシ關稅改正案愈完成シ近々當地軍特務部ヲ通シ我中央部ニ内示スル運トナリ居ル趣ナリ改正ノ範圍ハ支那時代ノ排日的性質ヲ有スルモノノ引下分類上不合理ナルモノノ整理建築材料ノ引下及右ニ依ル減收補填ノ爲ノ若干品目ニ對スル引上等ナル由ナリ

(付記)

理由書

一 改正理由

我が現行關稅率ハ舊中華民國時代ノモノヲ其ノ儘踏襲シタル結果我國産業經濟並ニ國民生活ノ現狀ニ照シ相當不

合理又ハ不適當ト認メラルモノアリ。之ガ改訂ノ必要ハ切實ナルモノアレドモ關稅率ノ改變ハ各般ノ財政經濟ニ及ボス影響極メテ甚大ナル關係上特ニ慎重改訂ノ要アリ輕々ニ斷行スルコトヲ得ズ

依テ當部ハ一般的、根本的ノ關稅改正ハ少クモ兩三年ノ準備期間ヲ置キ其ノ間ニ於ケル我國財政經濟ノ趨勢ヲ檢討シタル後外ハ國際經濟ノ動向ニ順應シ内ハ內國稅制ノ整理改革ト相俟ツテ之ガ實現ヲ圖ラントスルノ根本方針ヲ樹テタリ

然レドモ現行關稅率ノ中甚ダシク我國ノ實情ニ即セズ産業ノ開發ヲ阻ミ現實ノ國策遂行ニ障害ヲ與ヘ或ハ却テ收入目的ニ背馳スルガ如キモノニ就テハ敍上ノ一般的改正ノ時期迄之ヲ在再放任スルコトヲ得ズ、能フル限り速ニ之ガ訂正ヲ行ヒ以テ應急ノ措置ヲ講ズルノ必要アルヲ認ム

右ノ理由ニ依リ當部ハ一般改正ニ至ル迄ノ暫定措置トシテ茲ニ關稅率ノ一部改正ヲ行フコトシタリ

二 改正方針

暫定的改正ノ方針トシテハ前記趣旨ニ基キ左記標準ニ依ルコトセリ

イ 財政收入ニ著シキ減少ヲ來スガ如キ改正ハ之ヲ行ハズ

ロ 單ナル形式上ノ是正ハ此際行ハズ

ハ 偏狹的若ハ畸型的改正ハ之ヲ避ク

ニ 消費稅トシテノ權衡ノ是正ヲ目的トスル改正ハ行ハズ

ホ 而シテ左ノ條件ニ合致スルモノハ可成此ノ際改正シ關稅負擔ヲ緩和ス

1 著シク排外的色彩アリト認ムルモノ

2 著シク産業保護的色彩アリト認ムル稅率ニシテ我國ニ之ガ保護ニ該當スベキ産業ナキモノ

3 主トシテ生活必需品ニシテ特ニ高率ナル爲輸入障害ノ狀態ニアルモノ

4 財政上許容シ得ベキ限度ニ於テ我國産業ノ開發上切實ニ必要アリト認ムルモノ

5 我國都市計畫實現ノ爲切實ニ必要ナリト認ムル建築材料

ヘ 前項減免稅ニヨリ生ズベキ稅收減ヲ補填スル爲負擔力ニ餘裕アリト認ムル品目ニ就キ稅率ヲ引上グ

三 改正案ノ説明

前記方針ニ基キ本改正案ハ輸入稅關係ニ於テ二十九品目、

輸出稅關係ニ於テ六品目ヲ摘出シ作成セリ、其ノ内容ニ就キ概說セバ左ノ如シ

167 昭和8年4月26日 在チチハル内田領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国における邦人旅行者の護照携帯簡素化
に関する意見具申

チチハル 4月26日後発
本省 4月26日後着

第五〇號
本官發滿宛電報第三三號

三 滿州国との諸案件交渉

當省奧地旅行者ノ遊歴護照制度ハ我軍進出以來不實行ニ陥リ一般邦人ハ全然無護照ニテ奧地ニ入込ミ居ル實情ナルカ最近望奎縣ニ無護照ノ邦人二名入込ミタル趣ヲ以テ爾今各縣旅行者ニハ護照ヲ携帯セシメラレ度キ旨省長公署ヨリ照會アリタル處右ハ大正四年ノ日支條約正文ニ照シ且ツ又奧地ノ地方狀況ニ依リ尤モノ次第ナルカ本件ノ嚴格ナル勵行ハ現在ノ日滿關係ノ實際ニ則セサルモノアルニ付何等力便法ヲ講スル要アリト存セラルル處卑見ニ依レハ

(一)解放地(二)鐵道沿線(三)日本軍駐屯地(四)日本警察駐在地以上四種ノ地方ハ無護照地帶ト定メ其他ノ地方旅行者ハ護照ヲ所持スル事トシ尙

ニ滿洲國側ヨリ各縣公安局ヘノ内部的通知ヲ廢止シ旅行者携帯ノ護照ヲ以テ有效トシ保護ヲ加フル事

ニ當館發行ノ護照ニ對スル滿洲國側ノ手續ハ照會ノ日ノ翌日ヨリ遅レサルコト

以上ノ條件ヲ以テ便法ヲ講シ度キ所存ノ處右ハ他地方ノ關係モ有リ又一般邦人ニ周知方取計フ要モアルニ付貴館側ニ於テ滿洲國中央政府ト御協議ノ上何分ノ儀御決定相成ル様御配慮ヲ請フ

外務大臣、哈爾賓、吉林、奉天ニ轉電セリ

168 昭和8年5月12日 在滿州国武蔵大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿州国における邦人旅行者の護照不要化の適否に關し意見回示方稟請

新京 5月12日後発
本省 5月12日後着

齊々哈爾發本使宛電報第三三號ニ關シ

内地旅行者ノ護照携帯ハ日支條約上ヨリセハ當然ノ措置乍ラ之カ一律勵行ハ今日ノ日滿關係殊ニ事實上邦人ニ對シ内地ヲ開放シ居ル實情ニ即セサルノミナラス然リトテ鐵道沿線又ハ軍隊、警察駐在地ヲ無護照地帶トシテ除外スルコトモ條約上ニ其ノ理由ヲ見出し難ク結局實際上ノ便宜ニ由來スル以上此ノ際寧ロ邦人ノ内地旅行ニ對シテハ一般ニ護照ノ携帯ヲ要セサルコトトシテ旅行者本人ヨリ願出アル場合ニ限り領事館發給ノ身分證明書ヲ携行セシムルコトニ取扱ヲ定ムルコト適當ナルヤニ思考ス右ニ對シテハ軍側ニ於テモ同意ナル處滿洲國側ト話合ノ都合モ有ルニ付テハ何分ノ御意見御回示ヲ仰キ度シ

奉天、哈爾賓、吉林、齊々哈爾へ轉電セリ

169 昭和8年5月23日 内田外務大臣より
在滿洲國武藤大使宛(電報)

滿洲國における邦人旅行者の護照不要化の適否に關し見解回示について

貴電第五〇三號ニ關シ

(欄外記入一)
邦人ノ滿洲國內地旅行ニ際シ貴見ノ通一般ニ護照ノ携帯ヲ要セサル便法ヲ講スルコトハ日滿關係ノ現狀並ニ實際上ノ便宜ニ即スルモノト認メラルル處右案ニ付テハ(イ)現在ノ如キ奧地ノ實情ニ於テ本邦人カ何等ノ證明書様ノモノヲモ携帯セス若クハ日本側ノミノ發給ニ係リ滿洲國側ノ副署ナキ證書ヲ以テ奧地ニ旅行スルハ日滿双方ニ於ケル邦人ノ保護及取締ノ上ニ尠カラス不便アルヘキコト及(ロ)從來ノ經緯ニ顧ミルニ右案ノ如キ取扱ヲ滿洲國地方官憲ニ徹底セシメ奧地旅行ノ本邦人ノ保護ニ付遺憾ナキヲ期セシムルコト相當困難ナルヘキコト等考慮ヲ要スルモノアルヘシ

從テ(一)前記貴案ハ右二點等ニ關シ實施上支障ナキヲ期シ得且滿洲國側ニ於テ此種便法ヲ認ムルニ異存ナキニ於テハ之ニ依ルコト可然ト認メラルルモ(二)然ラサルニ於テハ齊々哈爾發貴官宛電報第三三號ノ如ク開放地、鐵道沿線、日本軍駐屯地及日本警察駐在地ノ如キ地方ハ無護照地帶トシ右以外ノ地方旅行者ハ、同電報後段一、二ノ如キ條件ノ下ニ必

(欄外記入二)
ス護照ヲ携帯スルコトトスルカ(前記無護照地帶ヲ定ムルコトニ付テハ條約上ニ其ノ理由ヲ見出し難キコト貴見ノ通ナルモ本件カ元來條約ト離レ實際上ノ見地ニ基ク便法ナル以上右ニテ差支ナカルヘシト認メラル)(三)又ハ前記四種ノ地方以外ノ奧地旅行者ハ護照ニ代ルモノトシテ貴見ノ如キ我方領事館發給ノ身分證明書ヲ携帯スルコトトスルコト(右ノ場合ニハ身分證明書發給ノ都度關係領事館ヨリ其ノ旨滿洲國側ニ通報スルコト及滿洲國側ニ於テハ身分證明書ヲ以テ有效トシ之ヲ所持スル邦人ニ對シ直ニ保護ヲ加フルコト必要ナリ)可然ト認メラル、就テハ以上ノ次第御含ノ上奧地方面ト關係深キ領事官トモ充分御連絡相成リ滿洲國側ト可然御交渉アリタシ

奉天、哈爾賓、吉林、齊々哈爾ニ轉電セリ

(欄外記入一)

本電發電後本件ニ關スル在滿大使ノ意見未タ報告ナシ

(欄外記入二)

哈爾賓總領事ノ意見ハ邦人無護照旅行ノ現狀ヲ尊重スルヤニ認メラル

(昭九・二・一來信)
海拉爾領事ノ意見ハ身分證明書持参ヲ必要トス尤モ明ニ日本人タルコトカ認メラル、場合ハ此ノ限ニ非ス
(昭九・三・一五來信)

170 昭和8年5月24日 武藤関東長官より
内田外務大臣宛(電報)

大連などに駐在の滿洲國査証官による船中、埠頭および滿鉄線車中での検査事務執行承認
方同國要請について

第一二號

三月十七日附貴信通一機密第五一號ニ關シ

滿洲國ニ於テハ稅捐検査官ヲ船中埠頭及滿鐵線汽車中(大連瓦房店間營口大石橋及安東五龍背間隨時乗車臨檢)ニ派遣シ外國人ノ旅券ヲ検査セシメタキ希望ヲ有シ居ル處右ハ査證規則勵行ノ趣旨ヨリスレハ尤ノ次第ニシテ又假令無査證ノモノヲ發見シタル場合ニモ直ニ實力行使ヲ爲スモノニ

旅順 5月24日後發
本省 5月24日後着

非ス單ニ査證ヲ受クヘキ旨ノ注意ヲ促ス程度ニ過キサル可
キヲ以テ既ニ査證官ノ滞在ヲ許ス以上之ヲ拒絶スルコト或
ハ妥當ナラサルヘキモ他ノ一方検査事務ハ査證事務ノ一部
ニ非ストモ言ヒ得ヘク之ヲ認ムルコトニ依リ更ニ我行政權
ノ一部ヲ讓ル事トモナリ又實際問題トシテモ特ニ滿鐵車中
ニ於テ右査證官ト外人乗客車掌又ハ我方警察官トノ間ニ面
白カラサル「トラブル」ヲ發生スル懸念ナキニ非サル處前
記貴信ハ査證官ニ旅券査證特ニ滿鐵車中検査ヲモ承認スル
ノ御趣旨ナリヤ折返シ御回電アリタシ

滿ニ轉電セリ

171 昭和8年5月25日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

安東駐在の滿洲国査証官による朝鮮鐵道車中
での検査事務執行承認方同國要請について

新 京 5月25日後発
本 省 5月25日後着

第五五六號

滿洲國ニ於テハ來ル六月一日ヨリ外國人入國旅券査證事務

滿鐵車中ニ出出張検査スルコトヲモ認メタル次第ニハ非ル
モ御來示ノ通右検査ヲ認ムルニ非レハ本件我方承認ノ趣旨
タル滿洲國側ノ外國人入國取締ノ勵行ヲ期スルコト困難ナ
ルヘキニ付貴電末段ノ如キ「トラブル」ノ發生セサル様滿
洲國側当局ニ対シ嚴重注意ノ上暫行的ニ之ヲ默認スルコト
トシ差支ナシ

在滿大使へ轉電セリ

173 昭和8年6月19日 内田外務大臣より
在滿洲国武藤大使宛(電報)

安東駐在の滿洲国査証官による朝鮮鐵道車中
での検査事務執行不承認について

本 省 6月19日後5時20分発

第四九八號

貴電第五五六号ニ関シ

拓務省側ニ照會セル処朝鮮ニ於テハ出境外國人ニ対シ列車
内ニ於テ全總督府警察官力検問ヲ行ヒ居ルヲ以テ此ノ上更
ニ滿洲国査証官力朝鮮鐵道内ニ於テ列車ニ乗込ミテ職務ヲ
執行スルコトハ諸般ノ点ニ於テ煩累ヲ増スノミナラス旅行

ヲ開始スルコトナレル處安東ニ於テハ鐵道ノ停車時間短
ク其ノ間ニ税關検査ヲ施行シ居ル關係上同時ニ旅券査證事
務ヲ行フハ外國人多數入國ノ場合ハ旅客ニ對シ不便鮮カラ
サルニ付豫メ朝鮮鐵道ノ一定區間ニ滿洲国査證官ヲ乗込マ
シメ列車内ニ於テ査證事務ヲ行ヒ度趣ヲ以テ今般外交部ヨ
リ我方ノ承認ヲ求メ來リタルニ付テハ朝鮮側當局トモ御協
議ノ上至急何分ノ儀御回示相成度シ

安東、朝鮮總督へ轉電セリ

172 昭和8年5月29日 内田外務大臣より
武藤閣東長官宛(電報)

大連などに駐在の滿洲国査証官による船中、埠頭
および滿鐵線車中での検査事務執行承認について

本 省 5月29日後7時30分発

第一〇號

貴電第一二號ニ関シ

曩ニ我方ニ於テ滿洲国査証官ノ派遣ヲ承認スルニ当リテハ
右査証官ノ職務ハ査證事務ニ限ラルヘキ旨ノ制限ヲ特ニ附
シ置キタル次第ニテ(往信第五一号参照)固ヨリ船中、埠頭、

外國人ノ數ハ月平均六五名ニシテ一列車ノ乗客一名ニ滿タ
サル狀態ナレハ安東停車時間内ニ査証ヲ行フコトハ左迄困
難ナラサルヤニ認メラル、ヲ以テ滿洲国査証官ヲ朝鮮鐵道
汽車内ニ乗込マシムルノ儀ハ承認シ難キ旨回答シ越セルニ
付キ將來何等カ事情ノ變化アルニ於テハ改メテ考慮スルコ
ト、シ当分停車時間内ニ行フコト、スル外ナカルヘシ但シ
多數外國人ノ一時ニ入國スル場合ニハ豫メ先方ヨリ通知ア
ルニ於テハ機宜ノ措置ヲ講シ得ル様拓務省ヨリ朝鮮總督府
側へ申傳へ置クコト、セリ就テハ右ノ趣旨適宜滿洲國側へ
回答シ置カレ度

安東、朝鮮總督へ轉電セリ

174 昭和8年6月27日 在奉天峰谷總領事より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲国輸入関税問題に関する官民懇談会の審
議状況について

付 記 四月五日付在滿洲国武藤大使より内田外務大

臣宛公信公機密第二八七号

滿洲国関税審議會設置に関する滿洲商工会議

所連合会の請願について

奉 天 6月27日後発
本 省 6月27日後着

第二二七號

本官發滿宛電報

第一九九號

(一)協和會主催ニ係ル滿洲國輸入關稅問題日滿官民懇談會ハ
昨廿五日當地ニ開催セラレ滿洲國財務當局關東軍特務部
關東廳滿鐵其他日滿兩國當業者各地商業會議所代表等多
數出席シ此種會合トシテハ建國以來最初ノモノナリシ爲
相當注意ヲ惹キタルカ當日ノ議題ハ(イ)輸入關稅率改正問
題(ロ)輸入關稅課稅(小包郵便ヲ含ム)鑑定技術ノ不統一ニ
對スル不滿及之カ是正ノ希望(ハ)通關手續(ニ)保稅倉庫設置
(ホ)護照撤廢問題等ニシテ右ニ對スル關係當局ヨリ夫々説
明ヲ加フル所アリタリ

(二)右會議中最モ議論セラレタルハ前項(ロ)ナリシカ(イ)ニ付テ
ハ滿洲國側財務當局ヨリ差當リハ餘リ急激ナル改正ヲ加
フル事財政上困難ナル事情アルヲ以テ財政ノ根本ヲ覆ヘ
サス且ツ極メテ不合理ナルモノニ付テ改善ヲスヘシトノ

本件ニ關シ今般別紙甲號寫ノ通武藤大使宛滿洲商工會議所
聯合會ヨリ請願越ノ次第アリ本件審議會設立ノ件ハ客年安
東ニ開カレタル全滿商工會議所聯合會ニ於テ決議セラレ居
ル所ニ係リ當時武藤大使ヨリ謝外交部總長ニ書簡ヲ以テ申
入相成タル次第ナルカ今ニ實現ニ至ラサルモノナリ外交部ト
ノ左記往復文書寫別紙乙號ノ通添附スルニ付御閱悉相成タシ

左 記

- ①昭和七年十一月十五日附 謝外交總長宛武藤大使往
翰寫
- ② 〃 十一月廿二日附 武藤大使宛謝外交總長來翰寫
- ③ 〃 十月廿九日附 全滿商工會議所聯合會會頭來信寫
- ④昭和八年四月一日附 外交部通商司長宛私信寫

(別紙甲号)

昭和八年三月廿八日 第十六回滿洲商工會議所聯合會

會長 荒川 六平

日本大使館

武藤全權大使閣下

一、滿洲國關稅審議會設置ニ關スル件

程度ノ説明アリ當業者側モ之レヲ了解シタルモ他方昨今
關稅改正ニ關スル諸般ノ風説傳ヘラレ居ル爲取引不安定
ニ陥リ商況停頓ノ嫌アルニ付本件改正ノ程度、時期等出
來得ル限り速カニ且ツ具体的ニ發表方一般ニ相當強キ希
望アリ就テハ右ノ點特ニ御考慮ノ上既ニ其ノ大要決定セ
ル以上時期及内容ニ付ナルヘク速ニ或程度ノ發表方滿洲
國側トモ御打合セ相成様希望ス

新京へ轉報アリタシ

外務大臣へ轉電セリ

哈爾賓、吉林、安東、牛莊へ暗送セリ

(付 記)

公機密第二八七號

(4月10日接受)

昭和八年四月五日

在滿

日本帝國大使館(印)

外務省

通商局御中

滿洲國關稅審議會設置ニ關スル件

拜啓 愈々御清邁ニ被爲涉候段奉慶賀候
陳者昨年十月第十六回滿洲商工會議所聯合會ニ於テ決議請
願致候滿洲國關稅審議會設置ノ件ハ閣下ノ御高配ニヨリ過
般外交部總長ヨリ了承セル旨回答ニ接シ居候處未タ實現ノ
運ヒニ至ラス候得共滿洲國ノ關稅改正ハ急ヲ要シ日滿兩國
人ハ之レカ實現ニ就テ渴仰致居ル次第ニ有之候 依テ關稅
改正ノ核心ヲナス機關タル關稅審議會ノ設置ハ此際最モ緊
要ナリト被存候ニ付之レカ實現ニ關シ何分ノ御高配ヲ賜リ
度此段重テ懇願仕候也

(別紙乙号③)

安商庶發第一一一號

昭和七年十月廿九日

第十六回滿洲商工會議所聯合會々長

安東商工會議所會頭 荒川 六平

滿洲國關稅問題ニ關スル審議會ヲ滿洲國政府ニ設置

交渉方要請ノ件

滿洲國ハ曩キニ中華民國ノ滿洲各地ニ於ケル海關ヲ接收シ
着々其實績ヲ示シツツアリ然レ共滿洲國ハ未タ創業ノ際ニ

シテ關稅ニ關スル諸制度ノ如キ中華民國ノ規定ヲ暫行的ニ踏襲シ從テ輸出入稅率モ昭和六年一月ニ定メタル中華民國ノ稅率ヲ使用シツツアリ該稅率カ關稅收入主義ヲ基調トシ且ツ日本品ノ輸入ヲ排セントスルノ趣旨ニ基キ定メラレタルモノナル事ハ周知ノ事實ナルヲ以テ滿洲國ハ之等不合理ナル點ヲ是正シ今後諸外國トノ通商貿易ニ對シ適切ナル關稅制度ヲ樹立スルノ要アルヘシ然シテ該制度ノ樹立ニ當リテハ政府當局ハ勿論廣ク民衆ノ意見ヲ徵シ衆智ヲ傾倒シテ萬遺漏ナキヲ期スルハ最モ緊急ナリト思料セラルルヲ以テ右ニ關シ滿洲國關稅審議會ヲ設置シ充分ナル檢討審査ヲ逐ケラレン事ヲ滿洲國政府ニ懇懇セラレ度本聯合會ノ決議ヲ以テ要請仕候也

175 昭和8年6月28日 在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

敦圖線開通に伴う國境通關問題に關し朝鮮稅關官吏の滿洲國內出張検査を規定する協約締結方滿洲國政府提議について

朝鮮總督へ轉電セリ

176 昭和8年7月4日 在牛莊荒川(充雄)領事より
内田外務大臣宛(電報)

營口稅關長よりの復州灣開港承認方申入れに對する処置振り請訓

付記一 七月、通商局第一課作成

「遼東半島中立地帯内開港ニ關スル経緯」

二 作成日不明、通商局第一課清水(董三)翻譯官作成

「復州灣開港ニ就テ」

三 七月、通商局第一課作成

「支那ニ於ケル海關分關及出張所ノ設置ニ就テ」

營口 7月4日後発
本省 7月5日前着

第二七號

復縣五湖嘴ニ山海關分關ヲ設置シ汽船積石炭輸出及戎克積貨物輸出入ノ爲同地ヲ開港スル旨昭和六年七月稅務司ヨリ告示セラレ(昭和六年七月三日附公第二二一號往信参照)右

新 京 6月28日後発
本 省 6月29日前着

第六八八號

敦圖鐵道ハ九月中ニ正式營業開始出來得ル程ナル處滿洲國政府ニ於テハ貨物手荷物及小荷物ノ通關検査ヲ便ナラシムル爲朝鮮稅關官吏ヲシテ圖們停車場(現在ノ灰幕洞驛)ニ出張検査ヲ爲サシムルコトニ付大體異議無ク此ノ目的ノ爲本營業開始迄ニ日本側ト明治四十四年十一月二日奉天ニ於テ調印セラレタル「國境列車直通運轉ニ關スル協約」ニ類似スル協約ヲ締結シ度キ意向ヲ有シ右ハ朝鮮稅關官吏カ滿洲國領域内ニ進出スルコトヲ規定スル協約ナルニモ鑑ミ日本側ヨリ協約締結ノ申入ヲ爲ス形式ニ依ルコトト致シ度キ旨外交部ヨリ申出ノ次第アリタリ就テハ本省ニ於テ右ニ御異存無クハ關係筋ヲシテ協議セシメ度キニ付何分ノ儀至急御回電ヲ請フ

尙滿洲國側ニ於テハ將來雄基、羅津、清津等ノ國境直通列車ノ終點港ニ滿洲國稅關官吏ヲ派シ朝鮮側稅關官吏ト協同検査ヲ行フコトニ付テモ協約ヲ締結シ度キ意向ヲ有シ居レルニ付爲念申添フ

カ旅順大連灣租借ニ關スル露清續約第四條(二)ニ違反スルヲ以テ(客年一月十六日附往信機密公第一四號別紙戊號参照)撤廢方海關へ申込ミ置キタル處其後滿洲國獨立次テ稅關接收等ノ爲未解決ノ儘今日ニ至リタルカ最近當地稅關長ハ滿洲國トシテハ密輸取締上復州灣開港ハ是非必要ナルニ付テハ日滿兩國ノ關係ニ鑑ミ承認アリタキ旨申込アリタルニ付本省ニ請訓ノ上追テ回答スヘキ旨答へ置ケリ

ニ我方トシテハ外國船(今ノ所皆無)カ軍事上差支ナキ限り石炭粘土等ノ輸出ニハ開港スル方寧口便利ニシテ唯戎克積關東州内向貨物ニ輸出稅ヲ課セラルル場合(大連)稅關長ハ課稅セスト稱シ居ル由)多少從來ヨリ不利トナルニ過キス

ニ尙中立地帯内ニ於テ莊河及大孤山(安東關稅)ヲモ開港シ分關ヲ設置スルコトトナリ居ル次第ナレハ此ノ際中立地帯内開港ニ對スル場合ノ態度並ニ之ヲ承認スル場合ニハ其條件等詳細回訓アリタシ

滿、安東ニ轉電セリ

(付記一)

遼東半島中立地帯内開港ニ關スル経緯

(昭和八年七月 通、一、調)

一、山海関(牛莊海関)ハ昭和六年六月二十五日附ヲ以テ復州湾ニ出張所ヲ設置シ同年七月一日ヨリ同地ヨリ「ジャンク」ニテ直接海外ニ輸出入スル貨物並汽船ニテ海外及國內開港場ニ輸出スル石炭ニ對スル課税ヲ取扱フヘキ旨告示セリ(昭和六年七月三日牛莊領事報告)

二、昭和六年七月二十二日山海関稅務司ヨリ復州礦業株式會社ニ對シ同社カ復州湾ヨリ積出ス粘土ハ海路輸出ニ際シテハ汽船積込ヲ許サス且其ノ輸出ハ日本内地向ト關東州内向トヲ問ハス其ノ全部ニ對シ課税スヘキ旨通告シ來リタリ右ノ課税ニ於テ大連港經由日本内地ニ向ケラルルモノニ對シテハ從來大連海關ニ納入セルモノヲ移管セシモノナルニ付異議ナキモ關東州租借地内ニ向ケ輸出スルモノニ對シテモ同様課税セントスルハ大連海關設置ニ關スル協定第六條ニ違反スルモノナリトシテ牛莊領事ヨリ同年九月三日附山海関稅務司ニ抗議シタリ之ニ對シ同海關ハ十月五日附ヲ以テ回答ヲ寄セ來リ「復州湾ハ從前内地ナリシモ一九三一年七月一日ヨリ通商ノ爲メ開放セラレ税關設置セラレタルニ依リ「ジャンク」積貨物ニ關シテ

(付記二)

復州湾開港ニ就テ

清水稿

一、我國ハ明治三十八年「日露媾和條約」ニ依リ關東州租借權及該租借權ニ關連シ又ハ其ノ一部ヲ組成スル一切ノ權利、特權及讓與ヲ引繼ギ更ニ「滿洲ニ關スル條約」ニ依リ支那國ヲシテ之ヲ承認セシメタルカ右所謂該租借地ニ關連スル權利ノ一トシテ一八九八年ノ露清續約ニ規定セル中立地帶ヲ含ムコト固ヨリ當然ナリ

二、右中立地帶ニ於テハ

(イ)清國軍隊ハ露國官憲ト商議ノ上ニ於テノミ入ルヲ得ルコト

(ロ)露國ノ承諾ナクシテ外國人ニ讓渡セサルコト

(ハ)中立地帶東西兩岸ノ海港ハ外國貿易ノ爲ニ開放セサルコト

(ニ)露國ノ承諾ナクシテ鐵道鑛山其ノ他商工業一切ノ特權ヲ許與セサルコト

ヲ規定シ居ルトコロ右ハ關東州租借地ノ軍事的防衛並鐵道港湾ノ利益保護及關東州繁榮ノ永續ヲ図ル爲メニ設ケタルモノナリ

ハ開港場ト同一ノ取扱ヲ受クベク即チ復州湾ヨリ關東租借地内ニ輸出スルモノハ輸出税ヲ課スルコト當然ナリ」ト述ベタリ

三、昭和七年一月十二日牛莊領事ハ山海関稅務司ニ對シ前記十月五日附稅關側回答ヲ引キ復州湾開港ハ一八九八年ノ旅順大連湾租借ニ關スル露清續約ニ違反スルモノナルヲ以テ之ヲ認メ難ク海關出張所ノ撤去方ヲ要求スル旨申入レタリ

四、昭和七年九月二十五日滿洲國ハ其ノ領域内ノ各海關ヲ接收シタリ

五、大連稅關ニ於テハ昭和八年四月一日ヨリ莊河ニ稅關分所ヲ設ケ事務ヲ開始シタル趣ナリ(昭和八年四月六日安東領事發武藤大使宛滿公第九五号)

六、復州湾問題ハ未解決ノ儘トナリ居リシ処最近密輸取締上復州湾開港ハ是非必要ナリトテ其ノ承認方營口稅關長ヨリ牛莊領事ニ申込アリ(昭和八年七月五日牛莊領事發大臣宛電報第二七号)

七、尙前記牛莊領事ノ電報ニ依レハ大孤山ニモ安東稅關ノ分館ヲ設置スルコトナリ居ル由ナリ

三、復州ノ開港ニ對シテハ滿洲事變勃發前曾テ我方ヨリ抗議シタルコトアルモ右ハ全ク前規定ノ精神ニ則リタルモノニシテ當時ノ情態ヨリスレハ当然ノ主張ナリ

四、然レトモ滿洲國成立シテ日滿兩國間ニ共同國防ノ約成リ滿洲國內ノ鐵道水路港湾ノ經營ヲ滿鉄ニ委任シタル今日ハ遙カニ事情ヲ異ニシ

(イ)中立地帶ノ軍事的意味ハ消滅シ

(ロ)南滿鉄独占主義ハ自然消滅トナリ

(ハ)大連一港主義ハ必スシモ固執スル要ナク

(ニ)本邦人ノ經濟的活動ハ全滿洲ニ及バントスルノ勢アリ即チ中立地帶ノ權利ヲ主張スル實際的ノ根據ハ甚ダ微弱トナリシハ否ムヘカラサル事実ナリ

五、然レトモ全然放任主義ヲ以テ中立地帶ノ特權ヲ有耶無耶ノ裡ニ葬ルコトハ條約ノ神聖ヲ汚ス惧モアリ此ノ際何時ニテモ必要アル場合ニハ相當ノ發言權ヲ有スル旨保留シテ滿洲國側ニ復州ニ於ケル石炭積取戎克ノ出入等ヲ許スコト然ルヘシト思惟セラル

六、最モ理想的ナル措置トシテハ内外汽船ジャンク共ニ外國貿易ヲ許ササルニアリ

(欄外記入)

(此ノ点要研究)

(付記三)

支那ニ於ケル海関分関及出張所ノ設置ニ就テ

(昭和八年七月通、一、調)

一、支那ノ各海関ハ其ノ付近枢要ノ地ニ分関又ハ出張所ヲ設置シ居ルコト別表^(電報)ノ如シ

二、右分関及出張所ノ設置セラレ居ル地点ハ概ネ不開港ナルトコロ外国ノ船舶ハ開港、立寄港以外ノ港ニ赴キ貿易ヲ爲スコト能ハサルヲ以テ(日清通商條約第五條ノ二、英支天津條約第四十七條其他参照)是等分関及出張所ノ事務ハ外国船舶ノ貿易ニ関係ナキモノナリ(内水航通規則ニ依ル外国船舶ノ航行ニ付テハ例外ナリ)

三、從ツテ右分関及出張所ノ職務ハ主トシテ自国船舶(特ニ民船)ノ外国貿易ニ對スル課税(即チ輸入税及輸出税ノ徴收)並ニ密輸取締ニ在リ。

四、即チ海関分関又ハ出張所ヲ設置スルコトハ開港場ヲ開クコトトハ自ラ別問題ニシテ開港場ニハ必ス海関ノ設置アルモ

一、今次協約ニ於テハ敦圖鐵道開通ニ件ヒ朝鮮稅關吏ノ圖們停車場出張検査ヲ可能ナラシムルノミナラス本年中ニ竣工ノ豫定ナル天圖線ノ廣軌改築ニ件ヒ滿洲國稅關吏ノ上三峯停車場出張検査ヲモ可能ナラシムル事
ニ、若シ出來得レハ派出稅關吏カ出張地ニ於テ其本國ノ稅關稅則ヲ實行シ又沒收品ノ所屬ヲ決定シ得ル爲明確ナル規定ヲ設クル事

三、滿洲國側鐵道ハ圖們停車場ニ於テ又朝鮮鐵道ハ上三峯停車場ニ於テ夫々兩國ノ稅關吏ノ事務所ヲ設ケ之ニ附帶スル一切ノ費用ヲ負擔シ且執務上相當ノ便宜ヲ供與スル旨規定スル事
尙本件下協議完了ノ上ハ一應原案ヲ作成シ朝鮮總督府滿鐵及關東軍等關係ノ筋ニ協議スル豫定ナリ

178

昭和8年7月17日

在ハルビン森島總領事より
内田外務大臣宛(電報)

ハルビンにおける阿片密売が専売制度に及ぼす悪影響およびその対応策について

ハルビン 7月17日後發
本省 7月17日後着

海関分関及出張所ノ設ケアル地点ハ必スシモ開港場ニアラズ
其或ル一地点ヲ開港場トナスニハ外国トノ條約ノ取極ニ依
ルカ又ハ自国政府ニ於テ開放スルヲ要スルモノトス茲ニ
所謂開放トハ宣言ニ依ルカ又ハ海関ヲ設置シテ一般外国
貿易ヲ許ス等ノ實際措置ヲ取ルカ其ノ表示ノ方法必スシ
モ一定セサルヘシ

六、故ニ分関及出張所開設ニ當リ其ノ取扱事務ノ告示ノ内容
ヲ見ルコト重要ナリト認メラル

177

昭和8年7月5日

在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

敦國線國境通関に関する協定の内容につき滿
州國財政部と協議について

新 京 7月5日後發
本 省 7月5日後着

第七一三號

貴電第五三五號ニ關シ

四日外交部財政部及當館掛官打合セノ結果左ノ各項ヲ本件
協定中ニ包含セシムル事ニ付下協議ヲ進ムル事トセリ

第四三二號

本官發滿宛電報

第三八一號

當地阿片小賣人ハ曩ニ滿洲國人廿四名鮮人六名許可セラレ
タルカ鮮人ニ關シテハ右鮮人小賣人營業權ヲ利用シ從來ノ
鮮人密賣者百四十餘戸ヨリ成ル組合組織ヲ以テ實際ノ利益
ニ均霑セシムル過渡的便法ヲ講スルコトナリタル經緯ハ
御承知ノ通ナル處元來當地ニ於ケル阿片密賣者ノ殆ト全部
ハ鮮人ニシテ滿洲國人ハ數フルニ足ラサリシ實情ニ顧ミ右小
賣人數ノ滿鮮人ニ對スル振當ハ當地ノ實情ニ合致セス前記組
合ニ參加漏トナリタル相當多數ノ鮮人ニシテ他ノ正業ニ轉シ
得ス引續キ阿片ノ密賣ニ從事スル者アリ其ノ結果專賣局側ノ
阿片賣上高豫想外ニ少ク(最近三ヶ月半ニ漸ク十三萬五千圓
位ナリ)小賣人モ缺損續キニシテ專賣法實施ノ實ヲ舉クルニ
至ラス現ニ滿洲國人小賣業者全部ノ連名ヲ以テ本官ニ對シ其
ノ苦境ヲ述ヘ密賣者取締方歎願書ヲ提出シ來リ居ル事態ナリ
然ルニ一方鮮人側トシテハ永年ノ經驗、習慣並ニ現在ノ狀
況等ヨリシテ事實遽ニ轉業モ成リ難キ事情アリ當館トシテ
モ此ノ際此等ノ實際事情ヲ無視シテ無下ニ彈壓禁止ノ方針

ノミヲ以テ臨ムコトハ困難ニシテ聊カ措置ニ窮シ居ル次第ナルカ事情前述ノ通ナルヲ以テ此ノ際鮮人小賣人ヲ更二十名丈ケ増加許可シ之ニ應シ組合員ヲモ五百五十名内外増加シ若ハ新ニ組合ヲ組織セシメ密賣ヲ中止セシムルト共ニ一應合法的ナル衣食ノ途ヲ開キ安定セシムルコトトシタル上漸次轉業スル様指導シ其以後ノ密賣者ニ對シテハ嚴重ナル取締ヲ行フ外ナシト思考セラル右ニ關シテハ過般本官出張ノ際一應係官ニ内話シ置キタル次第アル處本件ニ關シ十六日阿片專賣局警察廳憲兵隊側等關係當局當館ニ會合協議ノ際滿洲國側ハ即時嚴重取締方ヲ希望シタルカ結局鮮人側ノ實情ヲ考慮シ前記十名ノ許可迄暫行的ニ專賣局ノ斡旋ニ依リ密賣中止ヲ條件トシテ滿洲國人許可阿片業者ヨリ此等鮮人ノ生活費ヲ供與セシメ置キ當館警察ニ於テ密賣ヲ嚴重取締ラシメ他方出來得ル限り速ニ新二十名許可方取計フコトトナリタルニ付事情御諒承ノ上右小賣人増加方滿洲國中央部ト御談合ヲ願度ク尙本件ニ關スル打合ノ爲一兩日中ニ瀧川官補ヲ貴地ニ出張セシムル所在ナルニ付御含置キヲ請フ大臣ヘ轉電セリ

179 昭和8年7月19日 在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)
滿洲國關稅改正實施案轉達について
別電一 七月十九日發在滿洲國武藤大使より内田外務大臣宛第七七三號
右改正輸入稅率
二 七月十九日發在滿洲國武藤大使より内田外務大臣宛第七七四號
右改正輸出稅率
新 京 7月19日後發
本 省 7月19日後着
第七七二號(至急)
貴電第五九一號ニ關シ
改正實施案別電第七七三號及第七七四號ノ通ナリ
本實施案ハ十九日參議府ニ附議シ執政ノ裁可アリ次第即日公布、公布ノ翌日より實施ノ豫定ナル趣ナリ

(別電一)

第七七三號(至急)
往電第七七二號ニ關シ

別電(甲)滿洲國改正輸入稅率左ノ通り

新 京 7月19日後發
本 省 7月19日後着

稅番六〇(每擔二九、三〇圓(以下同シ)六二(甲)一三九、〇〇(乙)八七、七五(乙)(從價一割五分)六四(乙)一九、二〇)六六(乙)四〇、六七(乙)二六、九〇(乙)九七(乙)及(乙)ノ分類ヲ廢シ全部從價二割五分)一五六(乙)、五〇(乙)一七八(甲)「バーブド、ワイア」(從價五分)(乙)其他(從價一割)二二六(無稅)二一六(乙)二鑿岩機、截炭機、試錐機、大型坑内通風機、捲上機械、運搬車、機械「シヤベル」、「エクスカベーター」其他ノ鑛山用機械、器具及附屬品並ニ其部分品(從價五分)二一六(乙)三熔鑛爐、精鑛爐、壓延機、「クラツシヤ」其他ノ撰鑛精煉用機械、器具及附屬品並ニ其部分品(從價五分)二二六(甲)(從價七分五厘)(乙)(從價一割)二五八(甲)眞鯛、稚鯛、鰻、鮪、伊勢蝦及車蝦(四、二九)(乙)其他(二、一五)三二五(無稅)三五六(甲)綿糸(綿花栽培用ニ供セラルルモノ)(無稅)(乙)其他(從價一割)三八八(甲)一擔ノ價格二百圓ヲ超ユルモノ

(五八、五〇)(乙)一擔ノ價格七十圓ヲ超エ二百圓ヲ超エサルモノ(二九、二五)(丙)一擔ノ價格七十圓ヲ超エサルモノ(一、二、七〇)四四二(甲)(〇、四〇)(乙)其他(從價一割)四七七(乙)「ペイント」(船底塗料、「パテント、ドライヤー」及醱酵「ペイント」ヲ除ク)(從價七分五厘)四九九(從價一割)五二三(甲)(一、五〇)(乙)(二、〇〇)五六(甲)花蓆(乙)蒲草蓆(丙)蓆(丁)疊表(戊)其ノ他(何レモ從價一割)五六二(甲)(乙)(何レモ從價一割)五七四(甲)麥藁、藁(從價一割)五八二(甲)(乙)一割(丙)帽子(丁)麥藁製及藁製ノモノ(從價一割二分五厘)(乙)其ノ他(從價三割)(丁)其ノ他ノ製品(從價二割)五七六(陶磁器(喫煙用具ヲ含ム)(從價一割五分)五八七(〇、二五)五九三瓦(甲)屋背用ノモノ(從價六分二厘五毛)(乙)其ノ他(一割二分五厘)六一〇(生活力ヲ有スル動物(甲)家畜改良用ノモノ(無稅)(乙)其ノ他(從價一割)六一一(從價五分)六二二(甲)生故。又ハ屑ノ「インディアラバー」及生「ガダバーチャー」(從價一割)(乙)(長靴、短靴及全部又ハ一部護謄ヲ用ヒタル履物(一)地下足袋從價一割(二)其ノ他(從價一割七分五厘)(丙)別號ニ掲ケサル製品(自轉車、自動車、人力車等ノ「タイヤ」ヲ含ム)(從價二割)以上

委細郵報

(別電二)

第七七四號(至急)

新 京 7月19日後発
本 省 7月19日後着

別電(乙)

往電第七七二號ニ關シ滿洲國改正輸出税率左ノ通

稅番一〇二ノ二香油(無稅)一〇四ノ二「パラフィン、ワツクス」(無稅)一六ノ二「ウッド、パルプ」(無稅)一八九(無稅)二二〇(甲)(每擔〇、三〇圓)乙(〇、三〇)丙(從價二分五厘)丁(〇、五九)戊(從價七分五厘)二四九ノ二別號ニ掲ケサル化學藥及化合物「ベンゾウル」「クレオソート」「ナフサリン」「ピツチ」等ノ「コールドター」分溜物及「コールドター」ヲ含ム(從價五分)以上
委細郵報

180 昭和8年7月19日

在滿洲國武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲國關稅改正實施案の公布時期について

新 京 7月19日後発
本 省 7月19日後着

第七七六號(至急)

往電第七七二號ニ關シ

改正實施案ノ公布ハ本月廿四、五日頃トナル趣ナリ尙本件最後案ノ略決定セルハ六月末頃ナルモ實施ノ段取迄漕付ケタルハ本月中旬頃(關東軍參謀長發陸軍次官宛關參滿第一一二〇號參照)ニシテ滿洲國政府ニ於テハ本件ノ部外發表ハ最近迄極力回避シ居タル次第ナルカ財政部當局ニ於テハ本件實施案ハ決定的ノモノニシテ再審議ノ餘地無キモノナリト述ヘ居レリ爲念

181 昭和8年7月28日

在滿洲國栗原臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲國關稅改正の實施について

新 京 7月28日後発
本 省 7月28日後着

第八三一號

貴電第六三三號ニ關シ

往電第七八一號ノ通り改正稅率ハ二十二日公布二十三ヨリ實施セラレタリ

尙同二十二日附ヲ以テ「關稅教令中貨幣單位改正ニ關スル教令」公布セラレ從來ノ關稅法令中金單位若ハ海關「テール」ヲ以テ規定セル稅率率。其ノ他ノ金額ハ之ヲ一金單位ヲ國幣一圓九角五分一海關「テール」ヲ國幣一圓五角六分ノ割合ニヨリ換算シタル國幣建金額ニ改ムルコトトシ即日實施セリ委細郵報
支ヘ轉電セリ

182 昭和8年8月1日

在滿洲國栗原臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲國における阿片密売徹底取締方に関する

關係者協議の決定事項について

付 記 作成日、作成局課不明

「滿洲國ノ阿片及麻藥取締、官吏ノ瀆職等ニ關スル法規ニ違反スル日本人ノ取締ニ關シ日滿兩國間ニ協定締結方ノ件」

第八四七號

本使發在滿各領事宛電報

合第三三〇號

新 京 8月1日後発
本 省 8月1日後着

本年三月滿洲國阿片法實施當時ハ朝鮮人ノ密賣者漸減ノ徵アリシカ近時取締ノ充分ナラサル爲カ滿洲各地殊ニ都會地ニ於テハ寧ロ増加ノ徵アリ現ニ齊々哈爾百戶、哈爾賓六百二十五戶、新京百二十戶、奉天三百五十戶、吉林七十戶、安東四十四戶合計千三百戶以上ニ増加シ居ル有様ナリ斯テハ滿洲國阿片專賣法實施上大ナル影響アルノミナラス鮮人自體ヲ墮落セシメ他ノ善良ナル朝鮮人ニ惡影響ヲ及ホス事極メテ大ニシテ延イテハ在滿鮮人指導上面白カラサル結果ヲ來スヘキニ付三十一日軍、滿洲國側關係各部係官及當館係官參集シ左記ニ依リ取締ヲ徹底セシムル事ニ大體協議成レリ

左 記

(一)情實ヲ假借スル事ナク嚴重ニ取締リ之カ根絶ヲ期ス
(二)之カ取締ハ主トシテ當館警察、關東廳警察之ニ任シ要スレハ憲兵隊協力ス

日本警察及憲兵隊ハ滿洲國官憲ニ調査ヲ依頼スル事ヲ得
犯行者ハ關東廳令及外務省令ニ依リ處分スルモ再犯者ハ
情狀ニ依リ適宜在留禁止處分ヲ爲ス

(三)取締統制方法ハ各地區毎ニ適宜之ヲ行フ

然ルニスノ如ク密賣ノ増加シタルハ一ハ小賣人數ノ不足ニ
モ依ルヘキヲ以テ滿洲國ニ於テハ今回小賣人ヲ増加スル趣
旨ナル所右増加小賣人ニ朝鮮人ヲモ含ムコトトシ一方齊々
哈爾哈爾賓新京吉林奉天等主要都市ニ於ケル密賣者ニ對シ
テハ當館及朝鮮總督府滿洲國專賣局ト協力シ相當ノ救濟費
ヲ支出シ以テ正業ニ就カシムル資金ノ補助ニ當ツルコトト
セリ就テハ貴地ニ於ケル朝鮮人小賣人ノ所要増加數本件取
締徹底ニ伴ヒ救助人數及救濟金額概要至急御取調ヘノ上電
報アリ度シ

本電宛先在滿各領事(赤峰、滿洲里、承德及各分館ヲ除ク)
外務大臣ヘ轉電セリ

(付記)

滿洲國ノ阿片及麻藥取締、官吏ノ瀆職等ニ關スル

法規ニ違反スル日本人ノ取締ニ關シ日滿兩國間ニ

協定締結方ノ件

滿洲國ニ於ケル治外法權未タ撤廢ニ至ラサル現在ニ於テハ
在滿日本人カ滿洲國ノ阿片及麻藥取締規定ニ違反シ若クハ
滿洲國官吏トシテ瀆職行爲ヲ爲ス場合(日本人カ滿洲國法
人ノ重役トシテ滿洲國會社法ニ違反スル場合モ同様ナリ)
滿洲國側ニ於テ之ヲ處罰スルコトヲ得サルハ勿論ナル處一
方日本側ニ於テモ之カ取締規定全然欠缺シ居ルカ又ハ存ス
ルトスルモ罰則其他諸般ノ關係上之カ取締ノ目的ヲ充分達
シ難ク殊ニ在滿内鮮人ニシテ治外法權ヲ利用シ阿片及麻藥
ノ密賣ニ從事スル者ハ極メテ多數ニ上リ居リ之カ禁遏ハ實
際問題トシテモ種々ノ困難存スルト共ニ滿洲國側ノ不滿ヲ
招來シツツアル次第ナリ思フニ我方トシテ此等日本人ヲ不
當ニ保護スルノ結果ヲ生セシムルコトハ當ニ其ノ必要ナギ
ノミナラス日本側ノ權威ニモ關スル次第ナルカ滿洲國ニ於
ケル治外法權撤廢問題ニ關シテハ我方トシテハ滿洲國側ニ
對シ前途ノ希望ヲ與フル爲出來得ル限り速ニ政治的手段ヲ
講スル一方同國ノ法制施設ヲ完備セシメ健實ナル方法ニ依
リ漸進的ニ之ヲ實現セシムル様指導スルノ要アリ從テ法權
撤廢ニ至ル迄ノ過渡的期間ニ於テモ滿洲國側ニ於テ現實ニ

不便ヲ感シ居リ而モ我方トシテハ敢テ法權ヲ固執スルノ必
要ナキ事項ニ付テハ暫行的措置トシテ治外法權ノ一部撤廢
ヲ行フコト機宜ニ適スルモノト認メラレ此ノ見地ヨリ前記
阿片麻藥類取締乃至日系官吏瀆職問題等ヲ考察スルニ本件
ハ右暫行措置ニ依リ一定ノ保障ノ下ニ滿洲國側ヲシテ取締
ノ責ニ任セシムルコト可然ト思考セラルルニ付近ク適當ナ
ル機會ニ於テ日滿兩國ノ間ニ左記要領ニ依ル協定ヲ締結ス
ルコト可然(阿片ニ關シ治外法權一部拋棄ノ事例トシテハ

望厦條約第三三條及米支天津條約第一四條ノ規定アリ又日
支通商條約第五條、第八條、一九二二年支那改訂輸入稅率
附屬規程第三條、支那ト各國トノ條約ニ於ケル密輸入品沒
收ノ規定等モ治外法權一部拋棄ノ前例ト見ルヲ得ヘシ)

一、滿洲國ノ阿片及麻藥取締、官吏ノ瀆職等ニ關スル法令ニ
違反スル日本人ハ滿洲國官憲ニ於テ此等法令ニ依リ處罰
スルコト

二、此等法令ノ施行ニ當リテハ豫メ日滿兩國政府ノ間ニ協議
ヲ爲スヘキコト

三、本件ニ關スル裁判ハ滿洲國裁判所ニ於テ滿洲國法令ヲ按
照シテ公平ニ之ヲ行フヘキコト

183 昭和8年8月3日

在滿洲國栗原臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

敦國線国境通関問題への対処方意見具申

第八五五號

往電第七一三號ニ關シ

新 京 8月3日後発
本 省 8月3日後着

滿鐵ニ於テハ鐵道經營上ノ理由、終端港口國境ニ於ケル永
久的設備ノ都合、國境ニ於ケル荷物ノ停滯ノ新線ノ經濟的
價值ヲ著シク低下スルコト等ノ理由ニ依リ此ノ際萬難ヲ排

續約第五條(一)ノ規定ノ建前ヲ維持スルコトト致度キ処
(以上陸海軍當局トモ打合済)

ニ、復州湾税関出張所設置ニ関シテハ事變前即昭和六年六月二十五日當口海関ニ於テ復州湾ニ出張所ヲ開設シ同地ヨリ「ジャンク」ニ依リ輸出入セラルル貨物並ニ汽船ニ依リ海外及國內開港場ニ輪移出セラルル石炭ニ對スル課税ヲ取扱フヘキ旨告示シ(牛莊發外務大臣宛公信公第二一一號参照)其ノ後粘土輸出税問題惹起シタル際牛莊領事ノ照會ニ對シ當口海関税務司ハ復州湾ハ既ニ開港セラレ税関設置セラレ「ジャンク」貿易ニ関シテハ開港場トシテ取扱ハルヘキモノナル旨回答越シタルニ因リ我方ハ中立地帯不開港ノ條約規定ヲ楯トシテ抗議シタル経緯アル処(牛莊發外務大臣宛公信公第一四號参照)今次税関出張所ノ設置ニ依リ前記事變前ノ告示ヲ其ノ儘実施スルトキハ再ヒ條約違反ノ問題ヲ生スルヲ免レサル次第ナリ就テハ滿洲國側ヨリ承認方要請シ來レル復州湾開港トハ如何ナル意味ナリヤ御確メアリタシ

三、莊河ニハ既ニ税関出張所設置セラレ(安東發貴大使宛公信滿公第九五号参照)大孤山ニモ税関出張所ヲ設置スル

シテ終端港ニ於ケル日滿税関ノ共同検査ニ付協定ノ成立ヲ希望シ居レルカ一方朝鮮總督府ニ於テハ滿洲國税関ノ終端港進出ニ對シテハ贊意ヲ表セス唯開山屯ハ地理的ニ共同検査場ヲ設クルニ不當ナルヲ以テ朝鮮側上三峯ニ共同検査場ヲ設置スルコトハ已ムヲ得サルモノト看做シ上三峯ニ於テノミ滿洲國税関吏ノ朝鮮領土内進出ヲ認メントスルニアルカ如シ查スルニ滿鐵側ノ希望ハ我カ主權ニ對スル制限ヲ意味スル點ニ於テ慎重ナル考量ヲ要スルコト勿論ナルモ紋上ノ諸理由ヲ大局上ヨリ考察スル時ハ結局早晚解決ヲ要スル問題ニシテ

根本問題ヲ他日ニ殘シ謂ハハ一時的解決策タル國境共同検査ニ付此際特ニ新協定ヲ締結スルカ如キハ日滿間ノ特殊關係ニ即セサルモノト謂フヘク此ノ際大局上ノ見地ヨリ斷然終端港税関設置ニ迄進ミ此ノ趣旨ニ依リ協約ヲ締結スルカ或ハ若シ其ノ機未タ熟セストセハ差當リ現狀ノ儘放置シ國境ニ關スル取極メハ協約以外ノ方法ニ依リ當分ノ間不便ヲ忍テ保税輸送等ノ辦法ニ依リ臨時處置シ時機ノ到來ヲ待ツカノ一ヲ執ル事適當ナルヤニ思考セラレ關東軍方面ニ於テハ寧ロ前者ヲ支持シ居レル處今月中旬滿洲國、朝鮮總督府、

關東軍、滿鐵、當館係官會合本件ニ關スル打合セヲ開催スルノ議アルニ付本件ニ關スル本省ノ大體ノ御方針御同示ヲ得置キ度シ

184 昭和8年8月4日

内田外務大臣より
在滿州国栗原臨時代理大使宛(電報)

復州湾開港承認問題に關シ一般外國貿易への
不開放を条件に税関出張所設置承認方回訓

本省 8月4日後8時10分發

第六六〇號

牛莊發本大臣宛電報第二七號ニ關シ

ニ中立地帯ノ意義ハ今日ニ於テハ著シク減殺セラレタリト謂フヲ得ヘキモ關東州租借地ノ存續スル限り之ト關連スル同地帯ニ付テモ其ノ條約上ノ地歩ハ之ヲ尊重スルノ建前ヲ維持スルコト至當ナリト認メラルルニ付右中立地帯内ニ内國運送ノ便宜ノ爲又ハ密輸取締ノ必要上税関出張所ヲ設置スルコトハ之ヲ承認シテ差支ナキモ右出張所ノ設置ニ依リ事實上一般外國貿易ニ開放スルカ如キコトトナラサル様條件ヲ附シ以テ旅順大連湾租借ニ關スル露清

185 昭和8年8月8日

在滿州国栗原臨時代理大使より
内田外務大臣宛

關東州内における国幣発行制限撤廃方滿州国
外交部要請および關東庁の反対について

付記 作成日、作成局課不明

右制限撤廃問題への見解に關するメモ

公機密第七四三號

(8月14日接受)

昭和八年八月八日

在滿洲國

臨時代理大使 栗原 正(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

滿洲中央銀行ノ關東州内ニ於ケル國幣發行制限撤廢

ニ關スル件

首題ノ件ニ關シ外交部ヨリ別添甲號寫ノ通申越ノ次第有之
關東廳ニ付實狀ヲ問合セタル處關東州内ニ於テハ大正六年
十一月勅令第二百十七號ニ依リ朝鮮銀行ノ發行スル銀行券
ハ關東州及南滿洲鐵道附屬地ニ於テ公私一切ノ取引ニ無制
限ニ通用スルモノトセラレ又明治三十九年九月十五日勅令
第二百四十七號ヲ以テ橫濱正金銀行ハ所謂鈔票ノ發行權ヲ
認メラレ現在關東州内ニ於テハ金ヲ基礎トスル朝鮮銀行券
銀ヲ基礎トスル鈔票ノ二種カ所謂「リーガル、テンダー」
トシテ流通シ(支那人間ニハ事實上或ル程度迄「メキシカ
ン、ダラー」流通シ居レリ)居レルカ朝鮮銀行券ハ所謂金券
トシテ獨自ノ存在ヲ有スルヲ以テ國幣ノ進出ニヨリ影響ヲ
受クルコト少キモ鈔票ハ主トシテ特產取引ノ仲立トシテノ
ミ使用セラレ居ルモ正金大連支店ハ鈔票ノ發行ニ依リ一年
約百萬圓ノ利益ヲ擧ケ居ルニモ鑑ミ關東州内ニ國幣流通ノ
曉ニハ鈔票ハ自然國幣ニ依リ驅逐セラルル結果トナリ著シ
キ損失ヲ招クモノト想像セラレ關東廳ニ於テハ右ノ見地ヨ

滿洲中央銀行

外交部總長殿

謹呈

陳者弊大連支行ハ三月八日附關東廳指令ニ準據開業仕候ヒ
シモ該指令ニ依リ關東州内ニ於テハ國幣ノ發行ハ勿論、其
ノ預金、貸付ヲモ禁止セラレタルヲ以テ幣制統一上由々數
大問題ナリトシ別紙寫ノ如ク財政部總長宛出狀、右指令中
ノ制限條項撤廢盡力方請願仕候次第ニ御座候得共貴部ニ於
テモ特別ノ御配意ヲ以テ財政部ト御協力幣制統一ニ關スル
本行使命達成シ得ル様御盡力相煩ハシ度
茲許別紙財政部總長宛請願書寫添付及歎願候也

(別添丙號)

業監外第二ノ五六號

大同二年五月三十一日

滿洲中央銀行

副總裁 山成 喬六

財政部總長殿

謹啓 弊大連支行ハ三月八日附關東廳指令ニ準據同月十一

リ滿洲國側ノ希望ヲ容ルコトヲ肯セサルモノノ如シ本件ハ
爲替管理法ノ關東州施行等トモ關連シ居リ最近關東廳財務
局ヨリ關係事務官内地ニ出張大藏省方面ト打合中ノ趣ニ付
本件ニ關スル大藏省ノ意向等判明次第御同示相煩度シ
本信寫送付先 關東廳

(別添甲號)

當國中央銀行ハ去五月關東廳ノ指令ニ基キ大連支店ヲ開設
シ當地内地市場ト當國通商關門タル大連港ヲ連結スル金融
上ノ重大ナル役目ヲ期待サレツアル處該關東廳指令ニ於
テ關東州内國幣ノ發行及其預金貸付爲替ヲ制限セラレ居ル
爲其活動ハ局限セラレ甚タ不便ナル狀態ニ置カレ特ニ海關
收支事務及州内對國內送金爲替ノ如キ折角機能ヲ發揮得サ
ル實狀ニ有之候ニ付テハ至急該行ニ對スル制限ヲ撤廢セラ
レ同行本來ノ役目ヲ遂ケシムル様御高配相蒙度

(別添乙號)

業監外第二ノ八〇號

大同二年六月十九日

日ヨリ開業仕候ヒシモ該指令ニ依リ州内ニ於ケル國幣發行
並其ノ預金、貸出禁止セラレタルヲ以テ弊支行預金、貸出
及爲替金ノ受拂ハ凡テ金鈔票換算手續ニ依ルノ外無之貨幣
相場變動常ナク且居住滿人元銀本位貨幣使用ノ習慣深キ該
地ニ於テハ自他共ニ多大ノ不便ヲ感スル次第ニ御座候而モ
幣制統一ハ新國家金融政策ノ核心ヲナスモノニ有之今ヤ遠
ク黑河、承德ニ至ル迄國幣普及幣制統一ノ業完成近キ今日
假令日本租借地タリト雖モ滿洲國領土ニシテ當國金融經濟
上最樞要ノ地ヲ占ムル關東州ニ於テ國幣使用ヲ禁止セラル
ルカ如キハ幣制統一ノ前途ニ多大ノ暗影ヲ投スルモノ況ン
ヤ舊軍閥時代舊行號大連分行號ハ孰レモ爲替金ハ舊貨幣ヲ
以テ受拂ヒ致居リタル事實ニ徴スレハ今回ノ本行ニ對スル
國幣使用禁止ハ眞ニ遺憾至極ノ次第ニ御座候
按スルニ新國家成立以來其ノ金融政策宜シキヲ得新國幣ニ
對スル國民ノ信用全キヲ得ソノ普及全國ニ及ヒ最近南滿洲
鐵道會社亦滿人炭坑夫工賃國幣ヲ以テ支拂ノ事ニ決定致シ
タル由ニ有之速ナル州内國幣發行ノ實施ハ廣ク大衆ノ需要
ニ應スルト共ニ他方幣制統一ノ大業ヲ完成スル所以ト確信
仕候何卒情狀御賢察關東廳ニ對シ州内ニ於テ幣^幣支行國幣發

行並ソノ貸出、預金認可相成ル様御交渉御盡力相煩ハシ度
茲許別紙弊大連支行來信寫添付及請願候也

前略

國幣發行不可能ノ困難ナル事情報告ノ件

一、本支行ニ於ケル不便ノ諸點

1、本支行ハ關東廳令ノ制限ヲ受ケ國幣ヲ以テ爲替金支拂ヲ許サレサル爲メ則チ爲替取組、支拂ノ時ハ必ス當日ノ相場ニ依リ金票或ハ鈔票ニ換算スル要アリ、尙爲替取組ト支拂トノ價格ハ損失ヲ免ルル爲ニハ必ス區別ヲ附スルヲ要シ候カスノ如キ辦法ニテハ事務員ノ爲替券、傳票作製兌換計算等ニ對シテ若干ノ繁瑣ヲ發生シ餘分ノ手續及時間ヲ費スノミナラス且錯誤ヲ生シ易ク不便殊ニ甚シ

2、貨幣相場ノ變動ハ一日數回ニ止マラス、時ニソノ差巨大ニ過クル時ハ本支行ノ掲ケタル爲替相場モ亦必ス變更スル要アリ、變動激烈ナル時ハ一日ニ相場ヲ更改スルコト三四回ニ及フコト有リテ、只ニ手續煩瑣ナルノミナラス、且ツ顧客ニ對シ一ノ不快ノ感ヲ與フ甚タ

5、最近滿鐵會社ハ將ニ國幣ヲ以テ炭坑工夫ノ工賃ヲ支拂ハントス。此ノ例證ヲ以テスル時ハ關東州内ニ於テモ絶對的ニ國幣使用不可能ナルモノニ非ス滿鐵ニシテ能ク使用シ得然モ發行ノ主人公タル本行獨リ州内使用不能ナル理アランヤ、誠ニ不合理ト言フヘキナリ

6、滿洲國海關ノ獨立以來各處海關ハ相率ヒテ國幣ヲ以テ授受スルニ至リ、大連海關モ亦本月十六日より本行ニ代理徴收ヲナサシムルコトナリ、同時ニ財政部ヨリ金本位及海關兩ヲ取消シ國幣ヲ以テ之ニ代ラシム旨發表アリタリ。只關東廳ノ制限令ニヨリ國幣收受ヲ許ササルヲ以テ必ス當日ノ爲替相場ヲ以テ換算シ金票、鈔票ヲ收納スル要アリ、思フニ大連ハ滿洲國ノ門戶、東亞最大ノ商港ニシテ歐米人ノ往來ニハ過半當地ヲ經由ス。友邦日本ノ新興國家タル滿洲國ニ對スル協助ハ至レリ盡セリナルニ獨リ中外注視ノ的タル大連海關ニ於テ本國國幣ノ採用ヲ許サストセハ歐米人士ノ一笑ヲ遺スハ免レサルヘシ

ニ、市民ニ於ケル不便ノ諸點

1、滿洲商人ノ國幣ヲ悔用セル事情ハ既ニ前述ノ如シ。

シキニ至ツテハ取扱ノ先後及ヒ相場變更ノ高低ニ因リ爭ヲ生スルモノ有リ

3、滿洲國人ハ元銀本位ヲ用フル習慣ニシテ現洋本位ノ國幣最モ深ク人心ニ浸滲シ普ネク便利ヲ稱フル故ニ銀行トノ取引ハ日本側銀行トノ取引ニハ金票、鈔票ヲ以テスルモ國內銀行トノ取引ニハ國幣ヲ主トナスヲ希ハサルハナシ。而ルニ本行ハ國幣ヲ以テ預金、貸出ヲ處理スルヲ得サル制限ヲ受ケ居リ。商人ノ要求ニ應スル能ハサルヲ以テ大イニ彼等ヲ失望セシメ、國幣有ルモ預金スル處ナク國幣ヲ借リント欲スルモ借り受クル處ナキ憾大イニ有リ本行ノ業務發達ニ直接影響スルコト此ヨリ甚タシキハ無シ

4、從前民國時代各省ノ舊官銀號各銀行等ハ大連ニ皆分號分行ヲ有シ其ノ爲替取組、支拂ニ當ツテハ尙現大洋奉天票及現洋票ヲ使用シ得タリシカ今ヤ滿洲國ノ建國以後本行發行ノ國幣ハ反ツテ制限ヲ受ケ、從前民國時代ニ行使可能ナリシニ遠ク及ハス殊ニ本行ノ信譽及兩國ノ關係上ニ重大ナル影響有リテ實ニ遺憾ニ堪ヘサル次第ナリ

大連市ノ商人ハ關東州管内ニ居ル關係上取引ニハ金票鈔票ヲ兼用スルモ他ノ滿洲内地ニ在住スルモノハ統ヘテ國幣ヲ以テ唯一ノ貨幣トナシ居ル故ニ大連商店ノ國內各地ニ支店ヲ有シ或ハ支店ト取引スル者ハ貸借ノ清算貨物ノ賣買ニハ統ヘテ國幣ヲ以テ之ヲ行ヒ而シテ現金爲替送金ノ場合ハ本行カ國內各地ニ分支行ヲ有スル關係上何レモ本行トノ取引ヲ希望シ居ルモ本行ハ國幣ヲ授受スル能ハサルヲ以テ必ス金票或ハ鈔票ニ換算スルヲ要シ、從テ兌換上ニ生スル損失ヲ負擔セサルヘカラス、カクテ利益計算ノ確定上不便殊ニ甚タシク、因而苦情叢生シ大衆ハ國幣ノ發行ヲ希望シオレリ

2、歐亞及日本人士ノ來滿旅行者ハ多ク大連ヨリ上陸スルヲ以テ未タ滿洲ノ地ヲ履マサル以前ニ必ス滿洲國國幣ヲ準備スルヲ要シ而シテ本行ニ來リ購買スル時之ヲ求メ得ストセハ中國錢舖ニ於テ購買セサルヲ得ス、カクテハ錢商コノタメニ常ニ價格ヲ引上ケ利益ヲ獨占シ遂ニ議論沸騰甚タ以テ不便ヲ感ス。此ノ如キ諸點ニツキテハ宜シク考慮ノ上救済スヘキナリ

以上

(欄外記入)

大藏省湯本國庫課長ニ寫送付セリソノ中ニ意見送付越ス筈

昭八、九月(武内印)

大体許シテ可ナル意見ナルモ未タ省ノ意見トシテ申越ス運ヒ
ニ到リ居ラサル由

昭八、十一月(武内印)

(付記)

問題ノ核心。

(付箋)

一、日本ノ領域タル関東州内ニ於テ、外国銀行タル中央銀行
カ、國幣ヲ發行シ、國幣ヲ以テ預金ヲ受ケ、國幣ヲ貸出
シ國幣ヲ以テ爲替金ノ支拂ヲ行フコトハスヘテ原則トシ
テ許可スヘカラサル事項ナリヤ。(在日本外國諸銀行ハ其
自國貨幣ヲ以テ右ノ諸業務ヲ行フコトヲ禁止セラレ居ル
ヤ)。又、(従前民国時代ニ於テ大連ニ支店ヲ有シ居タル
各省官銀号等支那諸銀行ハ爲替取組及支拂ニ當リテ現大
洋、奉天票及現洋票ヲ使用シ得タリトイフハ事實ナリヤ、
又事實トセハ何故ナリヤ)

二、前記諸事項ヲ許可スル場合鈔票力駆逐セラル、トイフハ

186

昭和8年8月18日

在當口荒川領事より
内田外務大臣宛(電報)

復州灣開港承認問題に關し関東州内三道灣の
開放および同灣への大連海關分署設置をもつ
て實際的解決としたき旨意見具申

當口 8月18日後着

本省 8月18日後着

第三三號

本官發滿宛電報

第三五號

大臣發貴大使宛電報第六六〇號ニ關シ

一、滿洲國側ノ要請ハ稅關トシテハ事變前ノ告示ニ依リ復州
灣ハ開港セラレ居ルモノナレハ開港ノ實效アル様追認アリ
タシトノ意味ナリ

三、大連稅關長ノ言ニ依レハ莊河及大孤山ハ開港シタルモノ
ニアラサルモ兩港ヘハ南支方面ヨリノ戎克出入スルヲ以テ
之カ監視ノ爲出張所ヲ設ケタルカ實際ニ於テハ支那ヨリノ
輸入貨物アリテ之カ關稅收入ハ他ニ方法無キヲ以テ右出張
所ヲシテ徵收セシメツツアリト説明頗ル曖昧ニシテ即チ一

事實ナルヘキヤ(其場合正金ノ損失ハ如何ナル程度ナル
ヘキヤ)、(金票ハ影響ヲ受ケサルヤ)、(其他金融上望マ
シカラサル影響ヲ及ホスヘキヤ)

外務省トシテハ滿洲國側ノ主張ヲ同情ヲ以テ見ルト共ニ國
幣ノ信用増加ハ日滿兩國ノ利益ナル点ヲモ考慮シ大局上ヨ
リ考究スルノ要アリ

(付箋)

手續上考慮ヲ要スル点

○大藏省ヲシテ関東廳ノヤリ方ヲ批評セシムル事トナル点

(カマハヌ)

○先ツ外務省ノ意見ヲ立ツル要アルヘキヤ(殊ニ中央銀行主
張ヲ「バック」スル意味ニ於テ) 然リ

○非公式ニ訊ヌルコト可然ヤ?

何トナレバ當方ノ意見ヲ附セズニヤルハ面白カラズ又當方

ノ意見ヲ附スルトナルハ色々面倒ナリ

又本件ハ拓務省トモ連絡スル必要アリ

般外國貿易ニハ公然開放シアラサルモ出入支那戎克ニ對シ
テハ開港場同様ノ地位ニアルモノト認メラル

三、尙客月小官出連關東廳外事課長代理、海務局長、滿鐵ト
協議シタル上大連稅關長ノ意見ヲ徵シ其ノ後當地稅關長ト
モ累次打合セタル結果復州灣對岸關東州内三道灣ハ十月一
日ヨリ關東州ニ於テ開放シ同地ニ大連稅關分署ヲ設置スル
豫定ノ趣ナル處兩灣ノ距離ハ甚タ狹隘ナルヲ以テ兩灣間ニ
出入スル汽船ノ投錨水域ノ所屬ハ之ヲ嚴密ニ詮索セス之ヲ
三道灣ニ入港セルモノト看做シ三道灣大連稅關分署ニ於テ
一切ノ取扱ヲ爲スコトトセハ復州灣ヲ滿洲國ニ於テ強テ開
港スルノ必要無ク復州灣出張所ハ之ヲ單ナル監視所トシテ
存置セシメ得ヘシトノ意見ニ關係者一致ヲ見大連及營口稅
關長共ニ異議無キ次第ナレハ三道灣開港ノ曉ニハ復州灣ニ
關スル問題ハ容易ニ解決セラルヘシト信ス

大臣、安東、關東長官ヘ轉電セリ

187

昭和8年8月19日

在滿洲國栗原臨時代理大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲國による復州灣開港承認要請の背景にあ

る遼東半島中立地帯内ジャンク貿易開放の同
国要望について

新 京 8月19日後発
本 省 8月19日後着

第九二二號(至急)

貴電第六六〇號ニ關シ

一、財政部及大連稅關各當局ニ付取調ヘタルニ

(一)復州灣ニ付テハ戒克^(戒)ニ關シ外國貿易ニ開放スルト共ニ
地方民ノ希望ヲ考慮シ復州炭及復州粘土ノ輸出ノ便宜ノ
爲汽船ノ入出港ヲ認メントスル意嚮ナルカ

(二)莊河青堆子(以上三個所ハ大連稅關ノ分關ナリ)ニ付テ
ハ主トシテ密輸入ノ取締ヲ目的トスルモ戒克^(戒)ノ關スル限
リ外國貿易ニ開放スル(安東宛拙電第三七號御參照)ノ方
針ニシテ之等戒克^(戒)貿易取締ノ爲財政部ニ於テハ近ク暫行
民船取締規則(本月十四日附公機密第七六五號拙信御參
照)實施ノ意嚮ナル趣ナリ

三、査スルニ現在大連、營口、安東ノ三港以外其ノ中間區域
ニ新タナル一般の開港場ヲ設クルコトハ貿易上及稅關行
政上ノ何レノ見地ヨリスルモ承認ノ餘地無キモ戒克^(戒)ニ付

牛莊、安東、關東長官ヘ轉電セリ

188 昭和8年8月23日 在滿州國菱刈大使より
内田外務大臣宛(電報)

敦図線國境通關に関する正式協約締結までの過
渡的弁法につき關係機關の協議会開催について

新 京 8月23日後発
本 省 8月23日後着

第九四三號

貴電第六七〇號ニ關シ

敦圖線ノ本營業開始ノ時日モ切迫シ居レルニ付貴電(二)過渡
期辦法協定ノ爲本月二十六日大使館、滿洲國政府、關東軍、
朝鮮總督府、拓務省、滿鐵代表者集合打合會ヲ開催スルコ
トトナレル處終端主義ニ依ル正式協約締結ノ運ヒニ至ル
迄ノ間滿洲國政府ハ朝鮮稅關吏ノ圖們停車場出張検査ヲ、
朝鮮總督府ハ滿洲國稅關吏ノ上三峯停車場出張検査ヲ事實
上互ニ默認スルノ趣旨ノ議事録ヲ作成シ關係者ノ承認ヲ取
付ケ置クノ案ヲ當館ヨリ提出スル意向ナリ

三 滿州国との諸案件交渉

テハ之ヲ外國貿易ニ開放スト云フモ事實ハ關東州及山東
方面トノ貿易ニ限ラレ

實質上滿洲國稅關獨立前ニ於ケル沿岸貿易ヲ其儘承認ス
ト云フニ止リ之カ爲一般的ニ外國貿易ノ爲ノ開港場トナ
ルニ非サルノミナラス之カ否認ハ從來久シキニ亘リ地方
的需要ニ應シ來レル山東方面トノ戒克^(戒)ノ往來ヲ禁止スル
結果トナリ地方民ニ對シ著シキ不便ヲ醸スヘキニ鑑ミ上
記四地區ニ付テハ我方トシテモ戒克^(戒)ニ依ル外國貿易ヲ承
認シ差支ナシト思考ス

尙復州灣ニ付石炭粘土及生鹽^(生)ノ輸出上ノ便宜ノ爲延イテ
汽船ノ出入港ヲ認ムルノ必要アリトセハ一般的開港場ニ
導クノ結果ヲ避クルカ爲之ヲ特別輸入港トナシ右三種品
目ニ限り其都度稅關ヨリ輸出許可ヲ得テ汽船ニ依ル輸出
ヲ認ムルコトトシ然ルヘキヤニ思料ス

三、尙本件ニ付テハ財政部ニ於テ前記民船取締規則ヲ一日モ
早く實施シ度希望ヲ有スル(十七日實施セントシタルニ
對シ數日延期方要求)次第ニモアリ何分ノ儀大至急御回
電アル様致度シ

以上關東廳及牛莊領事トモ協議済

189 昭和8年8月28日 在滿州國菱刈大使より
内田外務大臣宛(電報)

敦図線國境通關に関する過渡的弁法案につき
意見回示方稟請

別 電 八月二十八日発在滿州國菱刈大使より内田外
務大臣宛第九六一号
右弁法案

新 京 8月28日後発
本 省 8月28日後着

第九六〇號(大至急)

一、往電第九四三號ハ語簡ニシテ意ヲ盡ササルモ右ハ第一ニ
國境列車ノ直通運轉ヲ可能ナラシムルコト第二ニ右直通
運轉ニ伴フ稅關事務ノ取扱ヲ定ムルコトヲ趣旨トシ九月
一日ニ迫レル敦圖線ノ營業開始ニ備ヘントスルニアリテ
專ラ事實上ノ便宜措置トシテ辦法ヲ講セント言フニ止マ
リ(別電第九六一號參照)敢テ日滿双方トモ強制力ヲ有ス
ル權力行爲トシテノ稅關検査ヲ行ハシメントスルノ趣意
ニ非ス從テ罰則ヲ施行スルコトモナク唯旅客、荷主等ニ
於テ利便多キ爲自然一般ニ本件検査ヲ希望スヘキコトヲ

第九六一號
(⁽¹⁾申合せ案)

一、敦圖鐵道國境列車直通運轉ニ伴フ税關事務取扱ニ關スル協約カ正式ニ締結セラルル迄ノ間同鐵道ニ依ル國境通關ハ事實上ノ便宜措置トシテ本辦法ニ依ルモノトス

二、朝鮮税關官吏ハ滿洲國圖們停車場ニ出張シ滿洲國税關官吏ト共同検査ヲ行ヒ又滿洲國税關官吏ハ朝鮮上三峰停車場ニ出張シ朝鮮税關官吏ト共同検査ヲ行フ

三、日本國々境内ヨリ滿洲國ニ輸入スル貨物ハ先ツ朝鮮税關官吏ニ於テ検査シタル後滿洲國税關官吏ニ於テ検査スヘク滿洲國々境内ヨリ日本國ニ輸入スル貨物ハ先ツ滿洲國税關官吏ニ於テ検査スヘシ

(イ)圖們停車場又ハ上三峰停車場發着ノ手荷物又ハ附隨小荷物ハ圖們停車場又ハ上三峰停車場ニ於テ検査スルコト

(ロ)圖們停車場又ハ上三峰停車場ヲ通過スル旅客ノ手廻品ハ停車中車内ニ於テ検査スルコト

若シ發着時刻迄ニ検査ヲ終ラサル時ハ税關官吏ハ其ノ列

新 京 8月28日後発
本 省 8月28日後着

考慮シ右ニ對應スルノ趣旨ニ外ナラサリシ次第ナリ故ニ右ハ必スシモ正式協約ヲ待タストモ實際問題トシテ之カ實行ヲ默認シ得ヘシト考ヘラルルノミナラス若シ右スラ絶對不可能トセハ敦圖線ノ列車カ圖們江ヲ超ヘテ朝鮮内ニ入り來ルコトモ亦少クトモ安奉線直通列車運轉協約程度ノ協約ニ依ルニ非サレハ認メ難キコトトナリ結局國境列車ノ直通運行ハ之ヲ實行シ得サル結果ニ陥リ本件税關共同検査ニ關スル申合ノ問題モ自ラ論議ノ必要ナキニ立至ルヘシ

二、⁽²⁾加之滿洲國税關吏ノ上三峯進出ヲ默認スル申合せヲ爲スト云フモ南廻線ハ事實明年ニ入ラサレハ開通セサル次第ニシテ夫レ迄ノ間ニ正式協約ヲ締結ストセハ實際問題トシテ上三峯ニ於ケル共同検査ハ實施セラレサル譯ニシテ右ハ單ニ將來協約締結ノ際ニ於ケル我方ノ方針ヲ豫メ表示スルノ效果以外現實ノ問題トシテ何等帝國臣民ノ權利義務ニ影響ヲ及ホスモノニアラス一ニ滿洲國側ニ對スル政治的考慮ニ出ツルモノニ外ナラス(滿洲國側ニ於テハ圖們ノ日本側進出ノミニ付申合せヲ爲ス片務的ノモノナラハ同シク協約ヲ要ストノ純理論ニ立脚シ之ヲ拒絕スヘ

シト主張シ居レリ)

三、⁽³⁾事情敍上ノ如キカ上ニ貴電御來示ノ次第ヲ篤ト考究スルニ別電當方案ニ左記ノ條件ヲ附シテ敍上ノ次第ヲ一層明確ニスル時ハ別段支障無カルヘク此ノ際ノ實際的解決方法トシテハ之ニ依ルノ外無シト思考シ本省ノ承認ヲ條件トシテ右ニテ進ムコトニ一應申合せタリ

(一)圖們及上三峰ニ於ケル各地方(脱?)國税關吏ノ検査ハ事實上ノ便宜措置トシテ之ヲ行フモノニシテ何等強制力ヲ有スル權力行爲ニ非サルコト

(二)滿洲國税關吏ノ上三峰出張ハ實際問題トシテ南廻線開通以前ニハ其ノ必要無ク而シテ右開通迄ニハ正式協約ヲ締結スル筈ニ付差當リ共同検査ハ圖們ニ於テノミ之ヲ行フコト

四、就テハ右ニ對シ何分ノ儀折返シ御回電アリ度ク尙本件申合ハ當館ノ記録ニ止メ關係ノ向ヘ寫ヲ配布スル形トシ度キ所存ナリ

(別 電)

車ニ乗り込ミ運轉中車内ニ於テ検査ヲ續行シ若ハ荷物検査場ニ下サシメ之ヲ検査スルコト

(イ)⁽²⁾税關官吏前二項ニ依リ検査中有税品ヲ發見シタル時ハ同物品所持者タル旅客ヨリ直接税金ヲ徴收スルコト

(ニ)託送手荷物又ハ附隨小荷物ハ検査ノ爲検査場ニ持チ來ラシムヘキコト

(ホ)圖們停車場又ハ上三峰停車場發着ノ小荷物及貨物ニ關シテハ荷送人又ハ荷受人ニ於テ通關其ノ他ノ手續ヲ擔任スルコト

(ヘ)圖們停車場又ハ上三峰停車場ヲ通過スル小荷物及貨物ハ滿洲國側鐵道又ハ朝鮮側鐵道ニ於テ夫々荷送人又ハ荷受人ノ爲通關手續ヲ爲シ税關官吏ト立合ノ下ニ其ノ検査ヲ受ケ圖們停車場ヲ通過スルモノニアリテハ滿洲國側鐵道ニ於テ又上三峰停車場ヲ通過スルモノニアリテハ朝鮮側鐵道ニ於テ有税品ノ關稅ヲ立替フルコト

(ト)滿洲國側鐵道及朝鮮側鐵道ハ税關官吏ヲシテ車内ニ於テ検査ヲ執行スルコトヲ得シムル爲朝鮮及滿洲國側兩鐵道ノ往復長期無賃乗車券ヲ税關官吏ニ(發)給スルコト

(ハ)滿洲國側鐵道ハ圖們停車場ニ於テ又朝鮮側鐵道上三

峯停車場ニ於テ夫々兩國ノ税關官吏ニ對シ検査上相當ノ便宜ヲ供與スルコト

190 昭和8年8月30日

内田外務大臣より
在滿州国菱刈大使宛(電報)

遼東半島中立地帯内四港におけるジャンク貿易の承認について

易の承認について

本省 8月30日後8時0分發

第七五八號(至急)

貴電第九二二號並往電第六六〇號ニ関シ

一、中立地帯内ニ於ケル復州灣、莊河、青堆子、大孤山ノ四港ヲ戎克ニ依ル外國貿易ニ開放スルコト並復州灣ニ付本邦其他外國汽船ニ依ル特別輸出ヲ認ムルノ件ニ關シテハ我方トシテハ寧口舊東三省官憲トノ從來ノ經緯ヲ離レ日滿關係ノ現狀ニ即スル新ナル見地ノ下ニ本問題ノ實質の方面ト條約關係トヲ調和シ實際的解決ヲ爲スノ要アリ
二、元來一八九八年旅大租借ニ關スル露清續約第五條ノ精神ハ中立地帯ニ於ケル第三國ノ勢力ヲ排除シ且大連港ノ發展ヲ確保セムトスルニアリ從テ同條(一)「中立地帯ノ東西兩

スルモノニ非スト認メラル

三、右ノ次第ナルヲ以テ此ノ際我方トシテハ(イ)滿洲國側カ本件四港ヲ開港場 open port トシテ取扱フカ如キハ承認ノ限リニ非サルコト勿論ニテ從テ本件四港ヨリ関東州ニ輸入セラルルモノニ付テハ大連海關設置協定第六條ノ趣旨ニ依リ滿洲國側ニ於テ輸出税ハ固ヨリ課シ得サルノミナラス轉口税ト雖モ課シ得サル次第ナルモノ(ロ)同國カ暫行貿易民船取締規則案ヲ實施シ(即大孤山青堆子莊河及復州ノ四港ニ於テ戎克ニ依ル外國貿易ヲ行ハシムルコト)且(ハ)復州灣ニ於テ外國汽船カ其都度税關ヨリ輸出許可ヲ得テ石炭粘土等同地方特殊產物ノ輸出ヲ行フコトニ對シテハ異存ナキニ付前記(イ)(ロ)(ハ)ノ趣旨ニテ可然回答セラレタシ

安東、牛莊及関東長官へ轉電セリ

(欄外記入)

(註) 本件第五条(一)ノ規定ニ付テハ當時英國政府ニ於テモ treaty port 開設ヲ禁スル趣旨ナリトノ解釈ヲ取り(明、三四年在英加藤大使來電第二九号)又在支帝國公使館ニ於テモ同様ノ解釈ヲ爲シタリ(明、三六、二一、二二附在支内田公使機密

(欄外記入) 岸ニ位スル港ハ外國貿易ニ開放セス」トノ規定ニ對スル解釋モ右第五條ノ精神ニ則リ現實ノ情勢ヲ判斷シテ之ヲ定ムヘキモノナルカ既ニ大連港ハ異常ノ發達ヲ遂ケタル今日殊ニ現在ノ日滿關係ノ實情ヨリ考察スルニ此ノ際我方トシテハ同規定ニ所謂「外國貿易ニ開放セス」トノ字句ハ從來ノ支那關係諸條約ノ此ノ種用字例ト同様本件中立地帯内ノ諸港ヲ開港場 open port (即一般外國人カ通商ノ爲居住來往營業ノ自由ヲ有スル地域)トシテ開放スルコトヲ禁止スルノ趣旨ナリトノ解釋ヲ取ルヲ以テ足ルモノト認メラル

然ルニ今次滿洲國側ノ要望ハ本件四港ニ開港場 open port タルノ地位ヲ與ヘムトスルモノニハ非スシテ右四港ニ於ケル戎克貿易ト復州灣ニ於ケル外國汽船(主トシテ日本汽船)ノ特殊貨物積出ヲ認メムトスルニ過キサルモノナルヲ以テ其ノ性質ハ精々長江沿岸ニ於ケル開港場ニ非サル立寄港 port of call(一八七六年芝罘協定第三款ノ一)以上ニハ出テサルモノト云フヘク又是等開港場ニ非サル地點ニ海關ノ分關若クハ分卡ヲ設置シ關稅ヲ徵スルコトモ從來其事例アル次第ニテ(例ヘハ前記長江沿岸ノ立寄港船客昇降所及松花江岸ノ拉哈蘇々等)必スシモ前記露清續約ノ規定ニ抵觸

第一九号報告(柳井重細重局第三課長サイン)

191 昭和8年9月2日

在滿州国菱刈大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲國の遼河工程局接收問題に關し同國側および関東軍側係官と協議について

新 京 9月2日後發
本 省 9月3日前着

第一〇〇一號

谷參事官ヨリ

二日關東軍特務部主催ニ係ル軍財政部、交通部、外交部及當館係官ノ聯合研究會ニ於テ遼河河口改修工程局接收問題討議セラレ

(一) 接收ハ成ル可ク速ニ之ヲ實行スルコト及

(二) 之カ實行ノ具體案ハ滿洲國側關係機關ニ於テ作成シ軍ト協議スルコト

ニ大體決定ヲ見タル趣ノ處右討議中當館係官ハ工程局ノ國際的性質並本件取扱カ天津白河及上海黃浦改修工程局ニ對スル支那側ノ態度ニ及ホスコトアルヘキ影響ニ鑑ミ嚴ニ革

命外交的手段ヲ避ケ合理的且平和的方法ニ依ルヘク旁具體
的實施案作成ニ當リテハ最モ慎重ノ考慮ヲ加フルノ要アル
ヘキ旨ヲ注意スルト共ニ右具體案ノ決定ニ當リテハ先ツ軍
ニ於テ當館ト協議ヲ爲スヘキコトニ了解ヲ遂ケタル由ナリ
就テハ當方トシテハ差當リ領事團方面ノ意嚮ヲ夫トナク確
メタル上工程局總會ヲ開キ總會ニ於テ局ノ解散ヲ決議セシ
ムル案ニ付考慮中ナルモ本省ニ於テ何等具體案モアラハ早
目ニ御電示相成様致度シ
牛莊ヘ轉電セリ

192 昭和8年9月3日 菱刈関東長官より
内田外務大臣宛(電報)

復州灣ジャンク貿易承認の条件として港灣行
政の関東庁海務局への委任などを満洲国に交
渉方依頼について

旅 順 9月3日後発
本 省 9月3日後着

第三三號
本官發滿宛電報

193 昭和8年9月4日 在満洲国菱刈大使より
内田外務大臣宛(電報)

敦図線国境通関に関する正式協定準備のため
関東軍特務部および拓務省側と協議について

新 京 9月4日後発
本 省 9月4日後着

第一〇一三號
貴電第七四七號ニ關シ
四日特務部、拓務省當館係官會合南廻線開通後ニ於ケル正
式協約準備ニ關スル打合ヲ爲シタルカ特務部ハ曩ニ往電第
九六〇號打合會ノ席上提出シタル取締上行政權ヲ有セサル
滿洲國輸出入貨物検査所ヲ海港ニ設ケ荷主ノ選擇ニ從ヒ檢
査徴稅ヲ受クルノ案(九月四日附公機密第八四九號ニテ郵
送濟)ニ付更ニ考慮ヲ求メ又拓務省駐在員ハ海港ニ滿洲國
税關ヲ設立セストモ保税輸送ニ依リ大ナル不便無ク通關事
務ヲ行ヒ得ル事ヲ主張シ當館係官ヨリハ貴電第六七〇號御
訓令ノ趣旨ヲ述ヘ結局協約ニ規定セラル可キ根本方針ニ付
意見ノ一致ヲ見ルニ至ラサリシカ本件方針ノ決定及協約締
結ニ關スル準備ハ成ル可ク速ニ之ヲ進ムルノ必要アルヲ以

第四五號

外務大臣發貴大使宛電報第七五八號ニ關シ

關東州境ニ臨メル復州灣ヲ戎克貿易港トシテ開クコトヲ唱
道スルニ當リテハ左記事項ニ付滿洲國政府ニ御交渉相煩度シ
「當廳ニ於テハ十月一日ヨリ三道灣ヲ開港スルニ決シ着々
準備中ナル處復州灣ハ之ニ近接シ地理的二云ヘハ寧ロ三道
灣ノ一部トモ云フヘキ關係ニアリ實際ノ便宜上及取締統一
上ノ必要上港灣行政ノ權限ハ一切滿洲國ヨリ當廳海務局ニ
委任セシムヘク右委任ハ復州灣開港承認ノ條件トセラレ度
シ(尙福本税關長モ御厨ニ對シ右權限ノ委任ハ同港ノ特殊
ナル地位ニ鑑ミ實際的ナルノミナラス滿洲國政府トシテモ
經費ヲ節約シ二重ノ煩勞ヲ避ケ得ルカ故ニ寧ロ歡迎スヘキ
處ナリトノ意見ヲ漏ラシタリ)
「三道灣開港ト同時ニ同地ニ大連税關ノ分關ヲ設置セラル
ル豫定ナル處右設置ノ曉ハ從來營口税關ノ管轄ナリシ復州
灣地方ノ税關事務ヲ右分關ニ移管セシムルヲ要ス右同灣
ノ地理上、交通上及通信上當然ナルノミナラス滿鐵側ヲ始
メ當業者一致ノ希望ナリ
大臣、安東、營口ヘ轉電セリ

194 昭和8年9月4日 在満洲国菱刈大使より
内田外務大臣宛

満洲国貨幣制度に關し関東軍の金本位制への
改正案に対する同国要人反対意見について

公機密第八四六號 (9月8日接受)

昭和八年九月四日

在満洲國

特命全權大使 菱刈 隆(印)
外務大臣伯爵 内田 康哉殿
満洲國貨幣制度改革案ニ對スル滿洲國側
反対意見ニ關スル件
本件ニ關シ當地軍側ヨリ別紙寫ノ如キ情報ヲ入手シタルニ
付御參考迄報告ス

(別 紙)

「満洲國貨幣制度ヲ現制銀本位ヨリ金本位制ニ改正セント

三 満洲国との諸案件交渉

(欄外記入一)

スル軍部ノ意見ニ對シテハ殆ト總テノ要人間ニ話題ニ上リ從來ノ貨幣制度ニテ何等支障ナク今日ニ及ヒ現在ハ却テ銀ノ方カ非常ナル落付ヲ爲シアリ何ヲ苦ンテ之ヲ改正セントスルカトノ強硬意見アリ鄭國務總理モ最初ハ全ク白紙ノ狀態ニアリシモ今ハ全ク滿洲國ハ飽迄銀本位制ニテ差支ナク改正ノ必要ヲ認メスト云フ強硬意見ニテ從來比較的軍部ニ頼リ軍部ノ意見ニ反對意見ヲ表示シタルコトナキ國務總理ノ強硬意見ハ他ノ者ニモ相當波及シ執政府内府中令、寶熙モ三回本問題ニツキ總理ヲ訪問シ中央銀行總裁榮厚モ總理公館ヲ訪問シテ全ク意見ノ一致ヲ見ツツアリ

又執政府要人モ舉ツテ之カ反對ノ意思ヲ表明シアリ

ニ、八月二十日本問題ニ關シ財政部總長熙洽ハ自己腹臣並執政府方面一部ノ者ヲ城内六馬路私邸ニ參集午後七時ヨリ同十一時三十分迄協議會談セル模様ニシテ當夜ノ集合者左ノ如シ

財政部總長	熙洽
吉林地區警備司令	刑士廉
京師憲兵司令	德榜額

受ケ得ラルルヤハ不安

4、世界一等国ハ概シテ金本位制ヲ採用シアリ對外信用ニ於テ重要ナル意義アランモ日本ハ一度解禁シタル金輸出ヲ再度禁止ヲ行ヒ殆ト金本位制ヲ採用スルモ對外的ニ意義ヲ失ヒ全ク内部的ニ金本位制カ存在スルノミニテ金本意義ヲ爲シアラサル現況ナラスヤトノ意見

5、現在ニ於ケル銀相場カ比較的良好ナル落付ニシテ滿洲國成立ニ依リ銀相場安定シタリ從テ好ンテ改正改惡ノ必要ヲ認メス

五、本問題ニ關シ日人官吏ノ感想

軍部カ本問題ニ關シ最初中央銀行首腦部方面ニ意見ヲ徵シタルハ其出發ニ於テ失敗ニシテ滿洲國要人少クモ國務總理位ハ最初ニ其利害ヲ認識セシメ置クラ可トシタルニアラスヤ現ニ羅振玉ト鄭總理ハ從來悉ク反對ノ立場ニアリ反對意見ヲ以テ終始シ來リタルニ本問題ヲ一轉機トシテ兩者接近シアル狀況ナリ云々

三 滿洲国との諸案件交渉

(欄外記入二)

(欄外記入一)

執政府官 王大忠

首都警察總監 修長餘

吉黑樵運局長 魏宗連

而シテ執政府内務官王大^(軍カ)府中令寶熙ノ意圖ヲ受ケ府内ノ空氣ヲ傳達セル模様ニシテ要人間ニ於ケル一大財閥熙洽及修總監ノ意見ハ他方面ニ反響著シキモノアリト觀察セラル

三、執政府内ニ於ケル空氣ハ全ク現制保有ノ消極論ニシテ府中令ヨリ執政ノ耳ニ入レタル處執政モ其利害關係ニツキ二、三質問アリシモ大府中令ノ意見ニ同意セラレ軍部ハ日本政府ノ意見ヲ聽取シタルモノナリヤ何ノ必要テ軍部カ此種改正意見ヲ有スルヤ等下問セラレタル模様アリテ執政モ改正ノ必要ヲ認メストノ意見ナルモノノ如シ

四、滿洲國要人カ舉ツテ金本位改正案ニ反對スルノ理由ハ

- 1、個人的經濟關係殊ニ相場ノ變動ニ依リ利得
- 2、日本カ金本位制ヲ採用シ而シテ常ニ金ノ輸出禁止金解禁問題ニ於テ行惱ミ其他金本位制ノ國カ常ニ金輸出問題ニツキ苦心シアルノ實況
- 3、借金ノ多イ日本ヨリ果シテトレ丈ケ財政的ニ援助ヲ

執政府要人カ此ノ種問題ニ口出シスルハ抵制^(訂正カ)ヲ要ス

(欄外記入二)

坂谷^(坂カ)ハ銀維持、鈴木穆ハ金主義(軍部ノ意見トナル)ナリシトノコト

~~~~~

195 昭和8年9月4日 在上海石射<sup>(猪太郎)</sup>總領事より  
内田外務大臣宛

滿洲国発行旅券および査証に対する中国側官  
憲の取扱振りについて

機密第一〇四五號 (9月13日接受)

昭和八年九月四日

在上海

總領事 石射 猪太郎(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

滿洲國旅券並査證ニ對スル支那官憲ノ態度ニ關スル件  
七月中旬頃ヨリ支那官憲ハ滿洲國經由支那ニ渡來スル外國人ノ上陸ニ際シ其ノ旅券面ニ滿洲國官憲ノ査證(有効期間ヲ附ス)アル場合ハ一律ニ其ノ査證ニ「作廢」[cancelled]ノ兩ゴム印ヲ捺シ抹消シ又舊露國人其他無國籍人カ滿洲國

官憲發給ノ旅券又ハ證明書ヲ所持シ居ル場合ハ之ヲ沒收シ居レリ又支那官憲ハ滿洲國行旅券ヲ發給セス舊露國人等カ滿洲國旅行ノ爲旅券下附ヲ出願スル場合其ノ旅券面ニハ滿洲國地名ノ記入ヲ絶對ニ爲サス一律ニ大連行ト爲シ居レリ何等御參考迄ニ報告ス

本信寫送付先 在華公使 關東廳 新京

196 昭和8年9月7日 在滿洲國蒙刈大使より  
内田外務大臣宛(電報)

滿洲国における金本位制度実施の延期決定について

新 京 9月7日後発  
本 省 9月7日後着

第一〇二九號

關東軍ニ於テハ滿洲國ノ建國當時ヨリ滿洲國ニ金本位制ヲ採用スルノ方針ヲ執リ七月初旬特務部聯合委員會ニ於テ可及的速ニ之ヲ實施センコトヲ決定シタル處滿洲國要人間ニ相當強硬ナル反對意見擡頭シタルニモ鑑ミ(九月四日附公信機密第八四六號拙信參照)軍側ニ於テハ大藏省ヨリ青木

尙營口領事ニ對シテハ貴方ヨリ可然御連絡相成度

(付記)

滿洲國ニ依ル遼河工程局接收問題

(一)全般的考察

滿洲國ニ依ル遼河工程局接收問題ニ關シテハ

(イ)同工程局設置ニ關スル一九一四年協定カ所謂土地ニ關スル國際約定トシテ國際慣例上滿洲國ノ繼承スヘキ國際約定ノ典型的ノモノナルコト

(ロ)本問題ハ海關接收問題當時ノ如キ有利ナル名目モ無キト同時ニ海關問題ノ如ク實利上緊急ノ必要アル次第第二モ非サルコト

(ハ)滿洲國ノ一方的接收ハ中華民國ヲ驅テ黃浦江及白河ノ改修ニ關スル國際約定ヲ一方的ニ廢棄スルノ態度ニ出テシムル惧アリ而テ萬一黃浦江、白河ノ改修事業中止セラルルニ至ラハ上海及天津ヘノ汽船航行ハ著ク困難トナリ我方ノ重大利益ニ影響ヲ及ホスニ至ルヘキコト(註、現二一八九四年以後數年間白河ノ航行全ク斷絶セラレタル事例アリ)

爲替管理部長ノ來滿ヲ求メ調査依頼シタル結果同部長ハ金本位制施行ノ必要ヲ認メストノ結論ニ達シ其ノ旨軍側ニ進言シタルヲ以テ軍側ニ於テハ金本位制實施ヲ當分延期スルコトニ決定シタル趣ナリ委細公信

197 昭和8年9月9日 内田外務大臣より  
在滿洲國蒙刈大使宛(電報)

遼河工程局接收具体案送付について  
付記 作成日、作成局課不明

「滿洲國ニ依ル遼河工程局接收問題」  
本 省 9月9日後3時0分發

第八〇七號

貴電第一〇〇一號ニ關シ

亞細亞局長ヨリ谷參事官ヘ

遼河工程局改修問題ニ關シテハ貴地關係機關今後ノ審議ノ模様ヲモ見タル上必要ニ應シ適當ナル時期ニ於テ中央軍部トモ協議シ省議ヲ決定スル手筈ヲ取ルコトトスヘキ心組ナルカ不取敢當方ニ於テ作成セル各種試案別途飛行便ニテ送付セルニ付可然御利用煩度

(ニ)現在遼河改修工事ノ費用ハ前記一九一四年ノ協定ニ基キ關係國側ニ於テ特ニ牛莊港ニ限り承認セル特別附加税ノ收入ヲ以テ之ニ充テ居ルコト

等ヲ充分考慮シ合法的且妥當ナル解決策ヲ講スルノ要アリ  
(ニ)接收方法トシテ考慮シ得ヘキ各種具體案  
第一案

一九一四年ノ協定ニ規定セル存續條件即豫定ノ改修工事ノ完成ト關係借款ノ償還トノ二項ハ完了セルモノト看做シ工程局ヲ解散シ滿洲國側ノ新設機關ニ事業ヲ引繼ク案  
(イ)右案實行ノ爲ニハ現在ノ工程局ノ借款中海關ニ對スル分六十五萬兩ハ棒引トナシ(滿洲國成立前ノ支那海關ノ債權ヲ滿洲國ニ於テ繼承セルモノト見做シ棒引トナスコトニ付テハ外國側ニ於テ反對アルヤモ知レス)官銀號及中國銀行ニ對スル分約六萬弗ハ棒引又ハ滿洲國ニ於テ肩替ヲ爲スト共ニ關係國領事ニ對シ滿洲國ニ於テハ今后自己ノ費用ヲ以テ遼河改修工事ヲ舊軍閥時代ヨリモ良好ニ遂行スル用意ト實力トヲ有スル旨ヲ説示シテ豫メ其ノ諒解ヲ求メタル上工程局總會ニ於テ工程局ノ存續條件完了ノ旨ヲ確認セシムル等ノ方法ニ依ル

コトヲ要ス(滿洲國ハ一方的ニ接收スルモノニアラサルヲ以テ關係國全部ヲシテ存續條件完了セルコトヲ承認セシムルノ要アリ)

(ロ) 本案ニ依ル接收後ハ附加税ノ徴收ハ之ヲ止メ改修費ハ滿洲國一般豫算ヨリ支出スヘキコト勿論ナリ又一九〇五年支那側カ關係國側ノ承認ヲ得テ黃浦江改修局ヲ同收シ外國ノ干涉ヲ排除セル際ニ於テモ支那側ハ改修費ヲ自力ニテ支辨シタル次第ニテ(一九一〇年迄)滿洲國トシテハ右支那側ノ事例ニ對スル面子上ヨリモ接收後ノ費用ハ自ラ支辨スルノ要アリ

## 第二案

工程局ノ存續條件ノ一タル豫定ノ改修事業ノ完成ハ實現セラレタルモノト見做シ工程局側ノ事業ヲ終了シ(即同局ハ借款償還ノ範圍ニ於テノミ存續セシム)今后ノ改修事業ハ滿洲國ニ於テ新タナル改修機關ヲ設置シ自己ノ費用ト力トヲ以テ之ニ當ル案

(イ) 本案實行ニ付關係國側ノ承認ヲ要スルコト及滿洲國ノ改修機關ノ費用ハ附加税ヲ以テ支辨シ得サルコトハ第一案ト同シ

(イ) 本案實行ノ爲ニハ滿洲國ニ於テ工程局經費ノ一部ヲ補助スルコトトスル代リニ現在ノ工程局構成人員(外國側英米佛獨諾各領事外人商業會議所代表者一名計六名日滿側五名)ヲ若干名増加シテ之ヲ滿洲國側(例ヘハ税關又ハ航政局ヨリ)ヨリ任命シ協定第三條督辦ノ決定權ト相俟ツテ工程局總會ノ最後決定權ヲ日滿側ニ保持スルコト及滿洲國側ノ法令ニ依リ工程局ヲ滿洲國側機關ノ監督下ニ置クコトニ付關係國側ノ諒解ヲ取付クル要アリ

(ロ) 本案ハ今后モ現在ノ工程局ヲシテ改修事業ヲ行ハシムルモノナルヲ以テ其ノ費用ハ附加税ニ依リ支辨スルコトヲ得ヘシ

## 第五案

現在ノ工程局ヲ改組シテ現在ノ黃浦江改修局ニ倣ヒ牛莊海關長等滿洲國側官吏ノミヲ以テ組織スル滿洲國ノ改修機關トシ一方費用負擔者ノ意見發表ノ機會ヲ認ムル意味ニ於テ諮問局ヲ設ケ滿洲國人及關係外國人ヲ委員トスル案

(イ) 本案ニ付テモ關係國側ノ諒解ヲ取付クルノ要アルコト及改修費用ハ附加税ヲ以テ支辨シ得ルコト第四案ト同シ

(ロ) 只關係借款ノ償還ニ關スル限り附加税ヲ徴收シ得ル譯ナリ

## 第三案

滿洲國ニ於テ新タナル改修機關ヲ設置シ自己ノ費用ト力トニ依リ遼河改修ニ當ルコトトシ工程局ハ右ノ事態ニ顧ミ當分改修事業ヲ休止スルコトトスル案

(イ) 本案實行ニ付關係國側ノ承認ヲ要スルコト滿洲國側ノ改修機關ノ費用ハ附加税ヲ以テ支辨シ得サルコト及借款償還ニ關スル限り附加税ヲ徴收シ得ルコトハ第二案ト同シ

(ロ) 本案ハ工程局ノ改修事業ヲ一時休止スルノミニシテ將來必要ニ應シ之ヲ復活スルコト少クモ理論上ハ不可能ニアラサルヘキヲ以テ第二案ニ比シ關係國ノ承認ヲ取付クルコト容易ナルヘシ

## 第四案

工程局ヲ滿洲國側機關(例ヘハ牛莊海關監督及牛莊海關長)ノ監督下ニ置クコトニ依リ形式上滿洲國ノ機關トスルト共ニ工程局ノ構成人員ニ若干ノ變更ヲ加ヘ日滿兩國側ニ於テ實權ヲ把握スルコトトスル案

(ロ) 只第五案ハ第四案ニ比シ外國側ノ發言權ヲ制限スルモノナルヲ以テ第四案ニ比シ關係國側ノ諒解ヲ取付クルコト困難ナルヘシ

198

昭和8年9月9日

在滿洲国菱刈大使より  
内田外務大臣宛

滿洲国における金本位制度実施延期の経緯に

ついて

公機密第八七六號

(9月16日接受)

昭和八年九月九日

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆(印)

外務大臣伯爵 内田 康哉殿

滿洲國貨幣本位制變更問題ニ關スル件

首題ノ件ニ關シテハ九月上旬往電ヲ以テ不取敢報告ノ次第アリタル處關東軍ノ依頼ニ依リ本問題調査ノ爲當地ニ出張セシ大藏省青木爲替管理部長ハ館員ニ對シ左ノ通り内話シタル趣ナリ

滿洲國ニ金本位制ヲ採用スル件ハ滿洲國成立前ヨリ軍ノ根

本方針ノ一トシテ定メラレタル處ナルカ建國後滿洲國中央銀行設立ノ際ハ暫行の處置トシテ銀本位制存續ノ建前ヲ執リ來レル經緯アルトコロ關東軍特務部ニ於テ金本位制採用ノ理由トシテ擧クル處ハ

(一)日滿兩國貨幣制度ノ相異ニ依リ兩國ノ通商貿易カ尠カラヌ不便ヲ受ケ居ルコト

(二)滿洲國ノ銀本位制並ニ銀本位制ニ基ク貨幣ノ基礎不安定カ内地資本家ノ對滿洲國直接投資ヲ困難ナラシメツ、アルコト

ノ二ニ歸スルカ如キモ(一)ハ日滿間貿易障害ノ原因トシテハ極メテ微々タルモノニシテ重要視スルニ足ラス又(二)ハ寧ロ見當違ヒト云フ可キモノニシテ内地資本家カ對滿投資ニ關シ躊躇ノ風アルハ兩國貨幣制度ノ相違若クハ滿洲國貨幣ノ不安定ニ基クモノニ非ラスシテ寧ロ軍方面ノ内地資本家ニ對スル態度カ不明瞭ナリシニ依ルモノト云フ可シ

一方銀本位制ナルモノハ滿洲ニ於テハ古キ歴史ヲ有シ滿洲國人ノ銀ニ對スル執著ハ極メテ根強キモノアリ今急ニ之ヲ變更スルカ如キコトアラハ滿洲國人ハ恰モ彼等ノ財産ノ基礎搖カサレタルカノ如キ感ヲ抱クヘキハ想像ニ難カラサル

如キ理由ニ依リ金本位制採用ノ必要ヲ認メサルノ決論ニ達シ軍其他關係方面ノ説得ニ努メタル結果軍ニ於テモ結局其意見ヲ容レ金本位採用案ハ之ヲ延期スルコトナリタル趣ナリ尙本件ニ關聯シテ種々複雑ナル人事關係アル趣ナルヲ以テ此際金本位對銀本位兩論ノ對立ニ對シ當否ノ判斷ヲ下シタルカ如キ觀ヲ與フルコト面白カラサルニヨリ新聞等ニモ全然發表セシメサル様措置スルコト成リタル趣ナリ右何等御參考迄報告ス

199 昭和8年10月20日

在滿州國菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

敦図線國境通關問題に關シ大使館員の終端港

および國境接続駅視察報告について

新 京 10月20日後発

本 省 10月21日前着

第一二八三號

往電第一〇一三號末尾ニ關シ

特務部及滿鐵係員ト共二十日ヨリ上三峯圖們及三海港ノ現地ヲ視察ノ爲總督府側關係各官ノ意見ヲ聴取シタル後十九

所ニシテ前述關東軍ノ規定方針ニ基キ七月上旬特務部聯合委員會ニ於テ可及的速ニ金本位制ヲ採用スルノ案ヲ決定ヲ見其ノ報滿洲國側ニ傳ハルヤ本年九月四日附公機密第八四六號報告ノ如ク重大ナル影響ヲ及ホシタルヤニ傳ヘラレタルハ自然ノ勢ト云フ可シ

元來植民地ニ於ケル金本位制ノ形式トシテハ現ニ朝鮮印度等ニ於テ實例アルモ植民地ニ非サル滿洲國トシテ直ニ之ヲ採用シ得サルハ勿論ニシテ結局何等カノ方法ニ依リ日本ノ圓ヲ基準トスル貨幣制度ヲ採用スルノ可否ニ歸スヘキ處現在ノ日本ノ圓ハ金本位ト云フモ金ノ輸出及兌換ヲ停止シ居リ爲替ノ動搖最モ甚タシキ貨幣ノ一ニシテ斯クノ如キ不安定ナル日本圓ヲ基準トスル貨幣制度ヲ今直ニ採用スルコトノ可否ハ自ラ明カナル可ク一方現在ノ滿洲中央銀行發行ノ銀圓ハ同行創始以來日尙淺キニ不拘漸次舊政權時代ノ紙幣ニ取ツテ替ハリツ、アリ最近ハ殆ト日本圓ト「バー」ニ近キ比率ヲ持續シ居リ著々健全ナル發達ヲ爲シツ、アルニ拘ラス急ニ之ヲ變更スルノ必要アリヤ否ヤハ大ニ議論ノ岐ル、所ナル可シ青木部長ハ軍ノ招聘ニ依リ當地ニ出張以來各方面ノ意見ヲモ徴シ種々調査ヲ重ネタル結果大体紋上ノ

日歸任セル花輪書記官ノ報告大要左ノ通

(一)滿洲側開山屯及朝鮮側 ナンヨウワ トモ土地狹隘ニシテ共同検査ノ施設ヲ爲ス事絕對ニ不可能ニテ現在鐵道側ニ於

テモ何等右ニ關スル施設ヲ考慮シ居ラス

(二)上三峯ハ開山屯ニ比シ廣シト雖モ南廻線開通後(明年二月一杯ニ完成ノ豫定ノ趣)貨物多量ニ同線ヲ通過スル事トモナレハ終端港ニ於テ通關事務ヲ行ハサル限り倉庫及軌道等ノ建設ノ餘地充分ナラス又圖們ハ土地相當廣濶ナリト雖モ現在ノ滿鐵建設局ノ計畫ニ於テハ木材、大豆等大量輸出貨物ノ検査ヲ行フ事困難ニテ之等ハ終端港ニ於テ取扱フヨリ外ナシト認メラル

(三)鐵道及稅關關係現地係官滿洲側ハ勿論朝鮮側ニ於テモ日本其他外國ニ對スル輸出入貨物ハ終端港ニ於テ通關シ圖們及上三峯ニ於テハ主トシテ地方的貨物ノ通關事務ヲ行フ事トスヘシトノ意見ニ一致シ居レリ

(四)朝鮮總督府ニ於テハ十八日外事課長主催ノ下ニ稅務課長、警務課長、鐵道局營業課長其他關係官ノ參集ヲ求メ各官意見ヲ開陳セル處鐵道關係ハ實際上ノ見地ヨリ終端港主義ヲ強く支持シ警務關係ハ滿洲國行政權カ一定區劃内ニ

限ラルルニ於テハ終端港ニ於テ税關事務ヲ行ハシムルモ  
差支ナシトノ意嚮ニ傾キ税務關係ハ出來得ルニ於テハ滿  
洲國側ニ於テ滿鐵ノ行フ検査ニ依ル等何等カ實際的方法  
ニ依リ解決シ度シトノ意見ヲ開示シタルモ輸入雜貨等ニ  
付テハ右ハ實際上不可能ナル事ヲ認メ滿洲國側權力行使  
ノ範圍ヲ出來得ル限り局限スルニ於テハ差支ナカルヘシ  
トノ意嚮ヲ述フルニ至リ結局總督府側ニ於テハ外事課長  
ヨリ同日ノ會議ノ模様ヲ上司ニ報告ノ上至急本件ニ關ス  
ル同府ノ意見ヲ決定シ拓務省ニ對シ報告スル事ナレリ

200

昭和8年11月10日 在滿州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

敦図線国境通関問題に関する方策要綱案討議  
のため関係機関の協議会開催について

別電 十一月十日発在滿州国菱刈大使より広田外務  
大臣宛第一三六八号  
右要綱案

新 京 11月10日後発  
本 省 11月10日後着

第一三六七號(至急)  
往電第一二八三號ニ關シ  
本月十一日特務部ヨリ別電北鮮國境税關設置方策要綱案討  
議ノ爲聯合研究會ヲ開催スルニ付當館ヨリ係官ノ出席ヲ得  
度旨通報ノ次第アリタル處本要綱案ハ從來ノ協議ノ結果立  
案セラレタルモノニシテ大體ニ於テ差支ナシト認メララル  
ニ付贊意ヲ表シ度キ意嚮ナリ

(別電)

新 京 11月10日後発  
本 省 11月10日後着

第一三六八號(至急)

北鮮國境税關設置方策要綱案<sup>(附)</sup>

第一方針

日滿交通ノ圓滿ヲ計ランカ爲滿洲國税關ヲ雄基、羅津、清  
津並ニ上三峰ニ日本側税關ヲ圖們ニ設置ス

第二要領

一、前記北鮮三港ヲ經由又ハ同三港ニ發着スル滿洲國輸出入  
鐵道貨物ハ同所税關ニ於テ検査ノ上徵稅ス

201

昭和8年11月11日 在滿州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛(電報)

關係機関協議会において敦図線国境通関問題に  
関する方策要綱案一部修正の上可決について

別電 十一月十一日発在滿州国菱刈大使より広田外  
務大臣宛第一三八五号  
右修正案

付記 昭和九年三月十五日発在滿州国菱刈大使より  
広田外務大臣宛電報第三七四号  
敦図線南廻り線開通に伴い滿州国税關吏の上  
三峯派出承認について

新 京 11月11日後発  
本 省 11月11日後着

第一三八四號

往電第一三六七號ニ關シ

十一日ノ聯合研究會ニ於テ劈頭朝鮮總督府代表者ハ同府ヨ  
リノ電報アリタル趣ニテ財務局長不在ノ爲確定的意見ヲ表  
示スルコト能ハサルニ付本件滿洲國税關ノ海港進出ノ根本  
方針ニ關シテハ留保シ度キ旨陳述シ之ニ對シ先般現地視察

三 滿州国との諸案件交渉

第三處置

一、前記方針ニ基キ特務部、大使館、朝鮮總督府、滿洲國外  
交部、財政部及滿鐵協議ノ上日滿兩國協約基礎案ヲ作成ス  
ニ、滿洲國內主要地(二)保税倉庫設置ニ付テハ特務部、財政  
部、經濟調査會ニ於テ別途協議ノ上具体案ヲ作成ス

~~~~~

旁朝鮮側ト打合ニ赴キタル特務部員ヨリ總督府係官ハ同府税關事務ヲ妨ケサル範圍ニ於テ海港進出ヲ認ムルコトヲ參考ノ爲披瀝シタルカ結局在滿出先官憲ノ綜合的意見ヲ纏ムル意味ニ於テ前記朝鮮側留保ノ下ニ本件要綱案ノ審議ヲ進ムルコトトナリテ二、三字句ノ修正ヲナシタル上之ヲ可決シ(修正アリタル個條ノミ別電ス)可及的速ニ日滿兩國間協約基礎案ヲ作成シ中央ニ進達スルコトトセリ其案文ノ起草ハ大使館ニ一任スルコトニ申合セヲ見此意味ニテ第三處置一、大使館ノ次ニ「主務」ヲ挿入スルコトトナリタリ

(別電)

新 京 11月11日後発
本 省 11月11日後着

第一三八五號

第二要領

三、鐵道小荷物ノ検査徵稅ハ普通貨物ト同様ノ取扱ヲ爲ス
四、圖們又ハ上三峰ヲ通過スル旅客ノ携帶品手荷物及附隨手荷物ハ原則トシテ停車中検査徵稅ス
五、圖們又ハ上三峰停車場發着鐵道貨物、鐵道小荷物並旅客

密第九〇一號往信ノ經緯ニモ鑑ミ已ムヲ得サルモノト認メラルルニ付不取敢臨時處置トシテ承認ヲ與フルコトト致シタキニ付何分ノ儀至急御回電ヲ請フ尙一般貨物ニ付テハ上三峯ニ於ケル設備缺如ノ爲國內ニ於テ検査スルコトトナルヘク又圖們ニ於テハ客年末以來朝鮮側税關官吏出張税關事務ヲ執行シ居レル趣ナリ
朝鮮總督ヘ轉電セリ

編 注 本件は承認され、昭和九年四月一日より検査が実施された。

された。

202 昭和8年11月14日

在滿州国菱刈大使より
広田外務大臣宛

遼河工程局接收実行策に関する関係機関の協議結果について

公機密第一一九號

(11月20日接受)

昭和八年十一月十四日

在滿洲國

特命全權大使 菱刈 隆(印)

携帶品手荷物及附隨小荷物ハ圖們又ハ上三峰ニ於テ徵稅ス
六、税關設置ニ必要ナル施設ハ滿鐵ニ於テ行フ

第三處置

一、前記方針ニ基キ特務部、大使館(主務)、朝鮮總督府、滿洲國外交部、財政部及滿鐵協議ノ上日滿兩國間協約基礎案ヲ作成シ遅クモ昭和九年二月迄ニ協約ノ成立ヲ期ス
二、滿洲國內主要保税倉庫設置ニ付テハ財政部ニ於テ別途具體案ヲ作成協議ス

(付記)

新 京 昭和9年3月15日後発
本 省 昭和9年3月15日後着

第三七四號

今般滿洲國政府ヨリ豫テ廣軌改修工事中ナリシ敦圖鐵道南廻り線ハ本月二十一日ヨリ假營業ヲ四月一日ヨリ本營業ヲ開始スル運ヒトナリタルニ付右假營業ノ開始ト同時ニ滿洲國税關吏ヲ上三峯ニ派出シ旅客携帶品(托送手荷物ヲ含ム)ノ検査徵稅ヲ爲サシメタク承認アリタキ旨申出アリタル處客年九月四日附公機密第八四八號及客年九月十八日附公機

外務大臣 廣田 弘毅殿

遼河工程局接收ニ關スル件

遼河工程局接收実行方策審議ノ爲本月十一日關東軍特務部ニ於テ日滿關係機關ノ聯合研究會開催セラレ特務部提出ノ別紙甲號案ニ付審議シタルカ當係官ノ主張ニ依リ(一)方針三ノ強制接收ハ萬已ムヲ得サル場合ノ處置トシテ最後ニ考慮セラレヘキモノニシテ現状ニ於テハ極力一九一四年協定ノ範圍內ニ於テ合法的接收ノ方法ヲ講スヘキコトト了解スルコト(二)要綱四ノ附加税ハ右協定ニ基キ關係國側ニ於テ特ニ牛莊港ニ限り承認セル特殊ノ税目ナルヲ以テ工程局解散ノ上ハ其ノ儘之ヲ存續スルコト能ハサルノミナラス滿洲國ニ於テ本件接收ヲ爲スハ必要ナル改修ヲ行フノ實力ト誠意ヲ有スルコトヲ前提トスルモノニシテ改修事業ハ國家自ラ之ヲ經營スヘキモノナルコト(三)從テ要綱五、現行附加税ノ存續ヲ考慮ニ入レ之ニ中央政府ヨリ財政上ノ補助ヲ與フルノ建前ハ之ヲ止メ國家自營ノ下ニ必要ニ應シ財源ノ一部ヲ河口改修受益者ニ對スル徵稅ニ求ムルコト(此ノ場合治外法權ノ關係ヲ考慮スルコトヲ要ス)ニ話合成リ尙種々討議ノ末大體別紙乙號案ノ通修正ノ上右ニ基キ滿洲國關係機關ニ

於テ必要ノ準備ヲ進ムルコトニ意見ノ一致ヲ見タリ
右報告申進ス

本信寫送付先 在支公使、北平、奉天、營口、天津、上海

甲號

遼河工程局接收實行方策要綱案
昭和八、一一、一一
特務部第二委員會

第一、方針

一、工程局委員總會ニ於テ解散ノ決議ヲナサシムルコト

二、萬一解散決議不成立ノ場合ハ強制接收ノ形式ヲトルコト

第二、要領

一、工程局財政ノ現狀ニ於テハ改修工事續行不可能ニ付解散
スルコト

二、遅クモ十一月末日迄ニ解散スルコト

三、工程局所屬財産及權債務ハ全部滿洲國ニ引繼クコト

四、現行附加税ハ存續スルコト但シ必要ナレハ名稱ヲ變更シ
新稅トシテ徵收スルコト

五、接收後ハ中央政府ヨリ相當財政上ノ補助ヲ與ヘ遼河及營
口ノ水運貿易ノ現狀ニ鑑ミ最モ適切ナル改修計畫ヲ樹ツ

ルコト

六、接收後ノ事務ハ交通部營口航政局ニ於テ行フコト、但シ
内外ニ對シ恥カシカラヌ技術者ヲ選任スルコト

七、萬一解散決議不成立ノ場合ハ強制接收ノ不得已場合アル
ヘク爲念ソノ方策ヲ定メ置クコト

第三、處置

滿洲國關係當事者ハ前記要綱ニ基キ速カニ實行ニ當ルコト

乙號

遼河工程局接收實行方策要綱案

第一、方針

一、工程局委員總會ニ於テ解散ノ決議ヲナサシムルコト

二、萬一解散決議不成立ノ場合ハ強制接收ノ形式ヲトルコト

第二、要領

一、工程局財政ノ現狀ニ於テハ改修工事續行不可能ニ付解散
スルコト

二、遅クモ十二月中旬迄ニ解散スルコト

三、工程局所屬財産及權債務ハ全部滿洲國ニ引繼クコト

四、現行附加税ハ之ヲ廢シ追テ必要ナレハ新稅ヲ徵收スルコト

(欄外記入)

五、接收後ハ遼河及營口ノ治水水運貿易ノ現狀ニ鑑ミ最モ適
切ナル改修計畫ヲ樹テ之ヲ實行スルコト

六、接收後ノ事務ハ交通部營口航政局ニ於テ行フコト、但シ
優秀ナル技術者ヲ選任スルコト

七、萬一解散決議不成立ノ場合ハ強制接收ノ不得已場合アル
ヘク爲念ソノ方策ヲ定メ置クコト

第三、處置

滿洲國關係當事者ハ前記要綱ニ基キ速カニ實行ニ當ルコト

(欄外記入)

急ギ過ギル

203 昭和8年11月15日 在滿洲國麥刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

普蘭店開港に伴い同港に大連海關管下の徵稅
機關設置承認方滿洲國要請について

新 京 11月15日後發
本 省 11月15日後着

第一三九八號

關東長官發大臣宛電報第四五號ニ關シ

外交部ヨリ十一日附公文ヲ以テ普蘭店開港ニ伴ヒ滿洲國ニ
於テ關稅徵收機關ヲ設置シ收稅ヲ辦理シ度趣ヲ以テ(一)滿洲
國力同港ニ大連稅關ノ分カヲ設置スルコト竝ニ(二)同分カハ大
連海關設置及内水汽船航行ニ關スル日支協定ニ照シ大連稅
關ノ一部トシ出入スル船舶及貨物ニ對シ關東租借地稅關假
規則ヲ適用セラルヘキコトノ二項ノ承認方照會越セリ右ハ
我方ニ於テ承認シ差支ヘ無キ儀ト思考スルモ何分ノ御意見
至急回電ヲ請フ

204 昭和8年11月18日 広田外務大臣より
在滿洲國麥刈大使宛(電報)

復州灣港灣行政の關東庁海務局への委任など
に対する滿洲國側の同意取付け方訓令

本 省 11月18日後7時30分發

第一〇四三號

貴電第一三九八号ニ関シ

滿洲國側照會越ノ二項ニ對シ全意方差支ヘ無キモノノ際關
東長官來電第三四号後段ノ趣旨ニ依リ復州灣全部ノ港務

行政ノ三道湾海務局ヘノ委任並ニ復州湾営口分関ノ大連税関ヘノ移管方ニ関シ満洲國側ノ全意ヲ取付ケ置クコト、致シ度シ

尙復州分関ハ今後普蘭店分[○]カニ合併セラル、モノナリヤ

(關東長官發貴官宛電報第四五号末段參照將又分関トシテ依然存置セラル、モノナリヤ明ナラサル処右爲念御回報相成度シ

本電貴電ト共ニ關東長官、營口、安東ヘ轉電セリ

205 昭和8年11月20日 在満州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

復州湾港湾行政の關東庁海務局への委任など
に対する満洲国側の意向について

新 京 11月20日後発
本 省 11月21日前着

第一四一八號
貴電第一〇四三號ニ關シ

豫テ財政部ニ申入中ノ(處)同部ノ意嚮左ノ通ニテ實質上格別ノ支障ナク先方照會ニ同意ヲ與ヘ差支ナシト思考スルモ

汽船ニ対スル取扱ヲ劃一スルニ於テハ港務行政ノ統一上別段支障無カルヘシト思考セラル、ニ付港務行政ニ関シテハ財政部案ノ通トシ分カ設置方承認セラレ差支ナシ

關東廳、安東、營口ニ轉電セリ

207 昭和8年11月27日 在營口太田(知庸)領事より
広田外務大臣宛(電報)

遼河工程局接收問題に対する關係各国の意向
打診方法につき意見具申

營 口 11月27日後発
本 省 11月28日前着

第五一號

在滿大使發大臣宛機密公第一一一九號ニ關シ

工程局問題ニ付本官ノ得タル情報ニ依レハ英米佛獨各領事ハ自ラ解散決議ニ加ハルコトハ滿洲國ヲ承認シ居ラサル關係上困難ナルモ左リトテ決議ニ反對シ滿洲國側ノ感情ヲ害スルハ欲セサルニ付解散ノ如キ非常措置ニ出テス緩和的方法ヲ最モ望ム然ラサレハ強制接收ヲ希望シ居ル如キ處工程局(メンバー)ハ日、英、米、佛、獨、諾威各領事、日本

爲念御意見至急御同電ヲ請フ

一復州湾全部ノ港務行政ノ關東廳ヘノ委任ハ表面困難ナルモ同灣ノ地形上後三道湾分關設置ト共ニ復州湾分關ハ純然タル戎克貿易ノ取扱ニ限り汽船其ノ他ノ入出港ハ總テ後三道湾入出港ト看做シ同分關ニ於テ手續ヲ爲サシムル手筈ニ付事實上灣内ノ大部ヲ關東廳ノ港務行政下ニ置クニ等シキ結果トナル可シ

ニ復州分關ハ右ノ如ク出入戎克ノ取扱ノ爲存置スルモ追テ營口ヨリ大連税関ヘ移管スル筈

安東、關東廳、營口ヘ轉電セリ

206 昭和8年11月25日 広田外務大臣より
在満州国菱刈大使宛(電報)

復州湾港湾行政委任問題に關シ満洲国側の意向を容認し普蘭店港に大連海關管下の徴税機
關設置方承認について

本 省 11月25日後8時30分發

第一〇六〇號
貴電第一四一八号ニ關シ

人商業會議所、外國側商業會議所側各代表、税關長、海關監督)ヲシテ解散決議ヲ爲サシムルト共ニ反對側領事ノ立場ヲ救フ方法トシテハ彼等ヲ自發的ニ缺席セシムルヲ得ハ最モ好都合ナルヘシト存シ(解散決議ニ關シテハ出席人數ニ付定足數ノ規定無シ)新京ニ出張シ同意ヲ得タルカ當地ニハ英國領事モ本月二日以来居ラス各國トモ奉天領事管轄シ居ルヲ以テ奉天ニ立寄り蜂谷總領事ニ對シ之カ對策考究ノ必要上先ツ適當ナル外國人ヲ通シ彼等ノ意向ヲ「サウンド」方依頼シタル處適當ナル者見當ラサル由ナルニ付滿鐵「キニー」ニ依頼ノ爲大連ニ出張致度キニ付御許可相成度至急御同電ヲ請フ

滿、奉天、支、北平ヘ轉電セリ

208 昭和8年11月30日 在満州国菱刈大使より
広田外務大臣宛

出產税滿鉄代徴問題に關する同社と満洲国側との非公式折衝について

公機密第一一七七號 (12月5日接受)

昭和八年十一月卅日

外務大臣 廣田 弘毅殿

滿鐵ノ出產稅代徵方ニ關シ滿洲國申出ノ件

本件ニ關シテハ曩ニ本年三月十日附公普通第一九七號拙信ヲ以テ申進ノ次第有之タル處今般滿洲國側ニ於テハ出產糧石稅ノ改正(別途報告ス)ヲ機會ニ是非本件糧石稅代徵制ヲ實現セシメ度意嚮ニテ豫ネテ滿鐵側ト非公式ニ接觸中ノ處前顯拙信報告ノ代徵制ハ種々ノ點ニ不都合アルヲ以テ之ヲ改メ糧石鐵道運輸執照ノ添附ナキ糧石ハ託送又ハ保管ノ寄託ニ應セサルコト、致度旨滿鐵側ヨリ要望アリタルヤニテ滿洲國側ニ於テハ新ニ別添鐵道運輸糧石取締要綱及協定案ヲ作成シ本月二十日財政部ヨリ本件協定締結方ニ付非公式ニ關東長官及滿鐵宛申入レタル趣ニテ之カ實施ニ付何分ノ盡力アリ度旨外交部係官ヨリ非公式ニ當館係官宛申越ノ次第アリタリ本件ニ付テハ孰レ正式ニ外交部總長ヨリ本使ニ對シ申入アルヘク目下係官ニ於テ研究中ナルカ右非公式申入ノ次第不取敢報告スルニ付テハ委細別紙ニ付御了悉ノ上御研究置相成度此段申進ス

追テ本件ニ付テハ北鐵側ニモ同様協定締結方申入レ目下交渉中ノ趣ナリ爲念申添フ

209 昭和8年12月7日 在滿洲國菱刈大使より
廣田外務大臣宛(電報)

出產稅改正に伴い滿鐵による同稅代徵承認方
滿洲國要請について

新 京 12月7日後發
本省 12月7日後着

第一四七六號

客月三十日附公機密第一一七七號拙信ニ關シ

外交部ヨリ十二月四日附公文ヲ以テ申入レ來レル處今次滿洲國側ニ於ケル出產稅ノ改正ハ一面稅率ヲ大ニ低下シテ課稅負擔ヲ輕減スルト共ニ他面舊制度ノ下ニ於ケル糧石稅取締ノ不徹底ニ依リ脫稅ヲ防止シ正業者ノ取引ニ支障ナカラシムルコトヲ目的トスルニアル關係上徵稅ノ確保ハ滿洲國トシテ最モ重キヲ置ク所ニ有之從テ右目的達成ノ爲最モ有效ト認メラルル滿鐵トノ本件協定締結方承認ヲ求メ來レルハ無理カラヌ要望ト云フ可ク右ニ對シ我方ニ於テ充分ノ協

211 昭和8年12月12日 在當口太田領事より
廣田外務大臣他宛(電報)

遼河工程局解散決議滿場一致で可決について

付 記 昭和九年三月二十六日發在當口太田領事より

廣田外務大臣宛電報第三二二號

右可決に至る経緯について

當 口 12月12日後發
本省 12月12日後着

合第五八號

在滿大使宛第四九號

豫定通り十二日遼河工程局「ボード、ミーチング」開催本官、諾威名譽領事、日本、外國、滿洲各商業會議所代表、稅關長、海關監督代理以上七名出席工程局ノ財政狀態ヲ審議シタル處現在ノ行詰レル財政狀態ニテハ事業繼續不可能ニテ他ニ救済策無シトノ決論ニ達シ外國人商業會議所會頭ヨリ別電ノ通り解散決議ノ動議アリ滿場一致通過セリ
轉電先大臣、支、北平、天津、奉天

210 昭和8年12月11日 廣田外務大臣より
在滿洲國菱刈大使宛(電報)

關稅率引下げとの関連含みの上出產稅滿鐵代

徵承認について

本省 12月11日後2時30分發

第一〇九八號

貴電第一四七六号ニ関シ

往電第二二三三号趣旨御含ノ上本件承認方差支ナシ

關東長官へ轉電セリ

(注意、關東長官ニ轉電ハ本文後半ノミナルコトニ注意)

(付記)

當 口 昭和9年3月26日後発
本 省 昭和9年3月27日後着

第三二號(極秘)

本官發滿宛電報

第二八號

大臣發(滿)宛電報第三七四號ニ關シ

當地工程局接收ニ至ル裏面的經緯御參考迄左ノ通

「工程局財政困難ナルニ鑑ミ過去十數年來當地商業會議所聯合會並ニ稅關長及技師長ヨリ數次支那政府ニ對シ資金補給方交渉セルモ失敗ニ終リ各國側ニ於テモ交渉ノ無益ヲ見越シ何等ノ措置ニモ出テサリシ趣ニテ遼河改修ニ關スル資金不足問題ハ今日迄持越サレタルモノナリ

ニ客年九月頃工程局接收機運動クヤ松原稅關長ハ同月十二日當地英國領事「スミス」ヲ訪ネ工程局財政狀態ヲ説明シ遼河ノ狀態惡化ノ現狀ハ營口ノ死活問題ナルニ付滿洲國トシテハ經(費)ヲ出シ其ノ急場ヲ救ヒ度意嚮ナル處之カ爲ニハ工程局ヲ其ノ「コントロール」ノ下ニ置クノ要アルモ強制接收ハ成可ク避ケ度方針ナル旨ヲ告ケ其ノ意見ヲ求メタ

宛拙電第四八號ノ通取計ヘリ

ハ十二月初メ「バンネス」ヲ奉天ニ派シタル際營口ニ三十有餘年ノ古キ居住者タル同人ノ意見トシテ各國領事ニ對シ工程局現在ノ財政狀態ニテハ逐年惡化シ行ク處至急改修ハ絶望ニテ之カ打開策トシテハ各國カ應分ノ資金ヲ提供スルナライザ知ラス然ラスハ滿洲國ヲシテ接收セシムルノ外無ク然モ滿洲國ハ強制接收乃至中途半端ナ措置ハ極力避ケ居ル處萬一各國カ解散決議ニ依ル圓滿ナル接收ニ對シ條約論ヲ以テ徒ラニ反對シ工程局ノ目的タル營口港ヲ見殺ニスル時ハ居住外國人長年ノ利權カ根柢ヨリ失ハルルノミナラス其ノ責ハ各國カ負ハサル可カラス然モ各國側ハ斯ル無謀ナル態度ハ他ノ諸條約及慣行ノ存續ニ對シ重大ナル惡影響ヲ及ホス可キ趣旨ヲ以テ「ボードミーティング」缺席方ニ付說得ニ努メシメタリ右ニ對シ各國領事ノ態度ニ付「バンネス」ノ報告左ノ通

三 滿州国との諸案件交渉

六獨逸總領事ハ病氣ニテ出席シ得スト云ヒ(實ハ然ラス)佛國領事ハ自分トシテハ寧口出席シ開散決議ニ賛成シ度キ位ナリト述ヘタル後本件實現ニハ先ツ新京ニ赴キ日本軍部ヲ説得スル要アリトノ注意迄與ヘ米國總領事ハ貴説尤モナル

ル處在支公使ノ訓令ヲ仰ク可シト答ヘタル趣ナリ

三「スミス」ハ直ニ公使ニ書面ヲ以テ右ヲ報告シ同訓ヲ仰キタルカ右書面ハ開封サレ寫ハ貴地特務機關ニアル筈四十月五、六日頃松原大連ニテ「スミス」ニ面會ノ節公使ヨリ同訓アリタルヤヲ質ネタル處公使ヨリハ單ニ本件ヲ本國政府ニ報告シ置ケルニ付追テ同訓アルヲ待ツ旨回答アリタルカ之ハ私見ナリトテ寧口滿洲國カ強制接收スルコトヲ希望スル旨述ヘタル趣

五次テ當地外國人商業會議所會頭英人「バンネス」カ松原ノ旨ヲ受ケ奉天ニ赴キ英國領事館側ノ意見ヲ探リタルニ適確ナル意見不明ナリシモ大体本件ニ關シ積極的ニ動ク氣配無カリシモ支那ニ對スル反響ニ付相當苦慮シ居タル趣ナリ六越テ十一月滿洲國側ニ於テ愈工程局問題ヲ速ニ解決スルニ決定シタル當時滿洲側關係者及「バンネス」ハ「ボードミーティング」ニ於テ多數決ニテ解散決議セハ可ナリト爲シ從テ各國領事側ニ對シテハ裏面的ニモ交渉セシコト無シ本官ハ右ノ次第ヲ松原ヨリ聽キ將來此ノ問題ヲ考慮ノ結果解散決議反對者ノ出席ヲ阻止スル方針ノ下ニ松原及「バンネス」ノ說得ニ努メ以下客年大臣宛拙電第五一號及閣下

カ唯自分等ノ機微ナル立場モアリ「ボードミーティング」ノ「アゼンダ」中解散決議云々ハ今少シ婉曲ナル文句ニセラレタシト希望シ英國總領事ニハ終ニ面會ノ機ヲ得サリシモ館員ノ語ル處ニ依レハ出席セサル模様ナリシ趣ナリ大臣、支ヘ轉電セリ支ヨリ南京ヘ轉報アリ度シ

212 昭和8年12月14日 在滿州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

滿州国内における満鉄の鉄道新設請負契約調

印の見込みについて

付記一 作成日、作成局課不明

「圖們—佳木斯鐵道外五鐵道建造借款及委託經營契約ノ對外取扱振ノ件」

十二月二十一日發広田外務大臣より在英国松平大使他宛電報合第二一九四号

右契約と四国借款団による共同事業の範圍との關係について

牡丹江—佳木斯線
 凌源—承德線
 葉柏樹—赤峰線
 二站—黑河線
 新京—大賚線
 大賚—洮安線
 懷遠—索倫線
 (イ)昭和九年九月以降工事着手前二項ノ例ニ準シ逐次分割シテ之ヲ爲ス
 林口—密山線
 依蘭線
 密山—輝崔子線
 訥河—墨爾根線
 索倫—溫泉線
 巨流河—新邱線
 四平街—西安線
 魯北線
 新邱—義州線
 梅河—通化線

第一五〇五號(極秘)

新 京 12月14日後発
 本 省 12月14日後着

客月十一日附亞三機密第四四五號新設鐵道請負契約案ニ關シ

(一)十一日ヨリ十三日迄ノ間ニ各部日系主管官吏ヨリ國務總理及各部總長ニ説明シ十四日國務院ニ於テ參謀長ヨリ國務總理外交部總長及交通部總長ノ了解ヲ求メタル處サシタル問題モ無ク契約案及對外取扱案等ニ依リ處理スルコトニ談合纏マリタル趣ナリ

(二)尙本件今後ノ取扱豫定左ノ通り

十五日交通部總長ヨリ參議府ニ豫備報告

十八日國務院會議上程

同日執政ニ報告

十九日參議府會議諮詢後二十日調印ノ豫定ナリ

編 注 右契約は同月二十日調印。

(付記一)

圖們—佳木斯鐵道外五鐵道建造借款及委託經營契約

ノ對外取扱振ノ件

一、今次滿洲國政府ト滿鐵トノ間ニ締結セラルヘキ圖們—佳木斯鐵道外五鐵道建造借款及委託經營契約ノ對外取扱振ニ付テハ大体昭和八年二月九日調印ノ滿洲國鐵道借款及委託經營契約、敦化圖們江鐵道外二鐵道建造借款及委託經營契約等ノ場合ニ準シ或程度ノ發表ヲ爲シ又外國側ヨリ契約ノ内容ニ付更ニ質問等アル場合ニハ必要ニ應シ可然程度ニ於テ更ニ詳細ニ説明スルモ差支ナキコトスルコト適當ト認メラルル處今次契約ニ包含セラルル鐵道ハ頗ル廣汎ニ亘リ居リ從テ其ノ全部ニ付一括シテ發表又ハ説明ヲ爲スコトハ外部ニ對シ尠カラサル衝動ヲ與フル虞アル次第ナルヲ以テ今次契約ニ包含セラルル鐵道ニ付テハ其ノ工事着手ノ順ニ依リ左ノ順序ニテ發表又ハ説明ヲ爲スモノトス

(イ)契約調印直後

圖們—牡丹江線

口北營子—凌源線

北安—二站線

(ロ)昭和九年四月頃

通化—輯安線

ニ、仍テ前記一、(イ)ノ諸鐵道ニ付テハ今次契約調印直後適當ノ時期ニ於テ別紙第一號ヲ發表シ(公表方法ハ第一次契約ノ場合ニ準ス)且外國側ヨリ更ニ質問等アル場合ニハ必要ニ應シ第一次契約ノ場合ニ準シ適當ナル程度迄説明ヲ爲スモ差支ナキコトスルコトシ又前記一、(ロ)及(イ)ノ諸鐵道ニ付テハ夫々昭和九年四月頃及昭和九年九月以降ニ於テ同様ノ措置ヲ執ルコト

三、本件ニ關聯シ外國側ニ於テ門戶開放機會均等主義トノ關係、四國借款國^(國)トノ關係ヲ問題トスル場合ニハ第一次契約ノ場合ニ準シテ可然應酬スルコトシ尙外國側ニ於テ洮熱線ニ關スル從來ノ經緯ヲ問題トスル場合ニハ別紙第二號^(重要)ノ趣旨ニ依リ應酬スルコト

(別紙第二)

今般滿洲國政府ハ建造費合計約金七千六百九十萬圓ヲ以テ左記諸鐵道ノ建造ヲ滿鐵ニ請負ハシムルコトセリ

(一)圖們—牡丹江線

(二)口北營子—凌源線

(三)北安―二站線

(付記二)

本省 12月21日発

合第二一九四號

一九二〇年十月紐育借款團會議ニ於テ滿蒙四鐵道借款豫備契約ニ基ク洮南熱河鐵道及同鐵道ノ一地點ヨリ海口ニ至ル鐵道ノ敷設權ハ借款團ノ共同事業ニ「プール」セラレ居ルヲ以テ今次契約ニ包含セラルル口北營子凌源鐵道ニ就テハ右借款團ノ權利ヲ侵害シタルモノナリトノ非難ナキヲ保シ難キ處元來借款團ノ共同事業ノ範圍ハ公募ニ依ル借款ニ限ラレ從テ前記洮南熱河鐵道及其ノ一地點ヨリ海口ニ至ル鐵道ノ敷設權ヲ借款團ノ共同事業ニ「プール」シタルハ是等鐵道カ公募ニ依ル借款ヲ以テ敷設セラルル場合ニ限ラルル次第ナル處今次滿鐵ノ建造請負ノ資金ハ公募ニ依ラサルヲ以テ借款團ノ權利侵害ノ問題ヲ生セサル譯ナリ

213 昭和8年12月20日

在滿州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

出產稅代徴に關シ滿州国財政部と滿鉄間に協
定成立について

新 京 12月20日後発
本 省 12月21日前着

第一五三〇號

貴電第一〇九八號ニ關シ

我方承認ノ次第ヲ不取敢滿洲國側ニ通報シ置キタル處豫テ財政部ト滿鐵トノ間ニ諒解濟ノ協定(本年十一月二十九日附公機密第一一七七號ニテ案文送付濟)ニ假調印ノ上十二月二十日ヨリ本件取扱ヲ實行スルコトナリ滿鐵ニ於テハ右ヲ可能ナラシムル爲鐵道運送規程ニ必要ナル改正ヲ加ヘ社報ヲ以テ之ヲ發表セリ

尙財政部ト鐵路總局トノ間ニモ同様趣旨ノ協定ヲ結フコトトナリ話合纏リ鐵路總局ニ於テハ十九日附ヲ以テ二十日ヨリ本件取扱ヲ開始スル旨社報ヲ以テ發表シタルカ北滿鐵路ニ於テハ同鐵路ハ純然タル商業機關ナルヲ以テ課稅ニ協力スルカ如キハ面白カラストノ理由ヲ以テ財政部申出ハ拒絕シタルヲ以テ財政部ニ於テハ北滿鐵道驛構内附近ニ必要數ノ稅捐局員ヲ派出監視セシメ事實上同一ノ效果ヲ收ムルコ

トトシ又國境稅關(滿洲里及綏汾河)^(第2)ニ訓令ヲ發シテ運輸執照等ノ件ハサル量積ハ之ヲ通關セシメサル様手配シタル趣ナリ本電趣旨從來ノ經過ト共ニ在滿各領事ニ電報濟關東長官ヘ轉電セリ

214 昭和8年12月21日

在滿州国菱刈大使より
広田外務大臣宛(電報)

出產稅滿鉄代徴の即時実施に対する当業者の
苦情について

新 京 12月21日後発
本 省 12月22日前着

第一五四二號

往電第一五三〇號ニ關シ

本月二十日ヨリ實行ノ次第ハ滿洲國側ニ於テ當方ト豫メ協議スルコトナク決定セルモノニシテ當方トシテハ早速其不都合ヲ詰リ置キタルカ一方特產商筋ニ於テモ出シ拔ケニ本件カ實施セラルル關係上種々困難不便ヲ感シ居ル趣ヲ以テ本件取扱緩和方陳情シ來ルモノ鮮カラサル狀態ナルヲ以テ滿洲國側ニ對シ本件ノ速急實施ニ依ル不便ヲ出來得ル限り

215

昭和8年12月21日

在安東岡本(一策)領事より
広田外務大臣宛(電報)

出產稅滿鉄代徴即時実施への当業者の不満お
よび在外公館威信への悪影響について

安 東 12月21日後発
本 省 12月22日前着

輕減スル様過渡的辦法ヲ講スヘキ旨懲慚シ置キタル處滿洲國側ニ於テハ直ニ左ノ如キ取扱方法ヲ實行スルコトニ決シ二十日附ヲ以テ各地稅捐局長ニ訓令スルト共ニ財政部係官ヲ各地ニ出張説明セシムルコトセル趣ナリ
二十日迄ニ驛構内ニ持込ノモノハ執照ノ有無ニ拘ラス運搬セシム
三、院内(糧棧構内)持込ノモノノ内日本人ノ取引ニ係ルモノハ總テ出產稅支拂ノモノト見做シ一律執照ノ發行ニ應ス(滿人僻地ノモノニシテ支拂濟ナルヤ否ヤ明カナラサルモノハ保證金ヲ提出セシメタル上運送ヲ許ス)
三、先物契約ニ付テハ一律新規取扱ニ依リ之ヲ律ス此場合ニハ賣主ニ於テ出產稅ヲ支拂フモノトス

第六五號

本官發滿宛電報

第六六號

貴電合第六九一號ニ關シ

豫テ本件課稅默認ノ態度ヲ持スヘキ旨御訓示ニ接シ居ルモ鐵道當局ニ於テ社報ヲ以テ公布ト共ニ即時實施スルカ如キ抜打的措置ニ出ツヘシトハ豫期セサリシ所ナリ果セル哉昨二十日附屬地内本邦人米穀商ニ於テ豫テ購入セル米穀ヲ奧地ニ輸送セントセシ處鐵道當局ニ依ル證明書無キ故ヲ以テ拒絕セラレ事前ニ承知セサルコトトテ甚タ狼狽セリ當方ヘモ陳情スル所アリ當方トシテハ御訓示ニ依リ寧口同手續履行ヲ慫慂シ彼等ノ要求スルカ如キ領事館保證ノ下ニ一時的輸送完了ヲ驛長ニ要求スルカ如キハ爲シ能ハサル所ニシテ極メテ「オークワード」ノ地位ニ置カセタルカ幸ニ

當日分ハ料金納付濟證ヲ發給シ滯リ無ク輸送セリ

然ルニ十月以前購入ノ穀類約十萬石アリ此等ノ内其必要無カリシコトトテ料金納付濟證ヲ有セサル分モ多量ニ存スル次第ナルカ彼等ニ對シ所定ノ手續ヲ履マシムルハ少クトモ穩當ナラス或ハ現在高二付商工會議所ヲシテ證明書ヲ發行セシメ有效ト爲ス等ノ便法ヲ講シ然ル可キヤ至急何分ノ儀御回電アリ度シ

尙前政權時代ニハ兎ニ角現下ノ兩國關係ニ於テ默認ト言フカ如キ不徹底ナル措置ニ出テラルルコトハ當ニ關係本邦人ニ迷惑不利ヲ及ホスノミナラス滿洲國政府ニ於テモ結局利益ナラス地方駐在領事館ノ居住本邦人ニ對スル威信保持上極メテ迷惑ナルハ御想像以上ナリ御賢察相成様致度シ大臣、奉天、哈爾賓ヘ轉電セリ

付 滿洲国における邦人への課税問題

216 昭和8年2月6日 在滿洲国武藤大使より
内田外務大臣宛(電報)

滿洲国における日本人土地商租權を黒竜江省
にも拡大実施する暫行弁法につき同国政府發
表について

別電 二月六日發在滿洲国武藤大使より内田外務大
臣宛第一一二号
右發表文

新 京 2月6日後發
本 省 2月6日後着

第一一一號

土地商租ニ關スル暫行辦法ハ本日閣議ノ承認ヲ經タル處滿洲國側ニ於テハ從來閣議決定事項ハ散會後大体新聞ニ發表スル慣例トナリ居ルノミナラス本日ノ閣議ハ鐵道問題ヲモ一併解決シ而モ該問題ハ差當リ之ヲ公表セサル關係上閣議決定事項トシテ商租問題ヲ發表シ其ノ間ヲ「カムフラージ」スル必要アリ旁外交部ノ希望ニ依リ本件ニ關シ滿洲國

側ニ於テ別電第一一二號ノ通り發表スルコトニ同意ヲ與ヘ置ケリ

別電ト共ニ支ヨリ上海、南京ニ轉電アリタシ
本電別電ト共ニ支、北平ヘ轉電セリ

(別電)

新 京 2月6日後發
本 省 2月6日後着
第一一二號

最近日本人ノ土地商租案件ノ取扱方ニ關シ地方官憲ヨリ中央ニ照會シ來ルモノ多キ爲今般中央ニ於テハ暫行辦法ヲ定メ之ニ據リ處置方地方當局ニ訓令スルコトニ本月六日ノ國務院會議ニ於テ決定シタ右辦法ノ要領ハ左ノ通テアル
一土地商租契約ハ契稅ニ準シテ之ヲ公證シ執照ヲ發給シ承租人ヨリ契價百分ノ五ノ契稅ヲ徵收スル
二取扱機關ハ各縣々長トシテ上司ニ經伺スル
三不當又ハ不正ナル思惑取引ノ阻止並ニ土地兼併ノ制止ニ付テハ關係方面ト聯絡シ適當ニ取締ル
尙本辦法決定ニ牽聯シテ日本人ニ對スル課稅及警察ニ付テ